

特 230

454

水産講習所一覽

昭和三年



始



特30
454

水產講習所一覽

目次

第一章 沿革及組織	一
第一節 沿革概要	一
第二節 官制及事務規程	二
第一 水產講習所官制	二
第二 水產講習所處務規程	二
第三節 職員	三
第二章 講習	三
第一節 規則及規程	三
第一 水產講習所講習規則	三
第二 水產講習所講習規程	三
第一章 本科	三
第二章 遠洋漁業科	三
第三章 研究科	三
第四章 別科	三
書式	三

第三章 水產講習所臺灣、朝鮮及外國人特別入學規程	四〇
第四章 諸規程	四〇
一 水產講習所教官會議規程	四〇
二 實習規程	四一
三 實習船規程	四一
四 寄宿舍規程	四一
第二章 講習功程	四二
第一 本科	四二
第二 遠洋漁業科	四二
第三 研究科	四二
第四 別科	四二
第三章 試驗及調查	四二
第一節 試驗及調查ニ關スル組織	四二
第一 水產講習所試驗規則	四二
第二 水產講習所種苗拂下規則	四二
第二節 各部事業ノ概要	四二
第一 海洋調查部	四二
第二 試驗部	四二
一 漁撈試驗	四二



二 養殖試驗	五三
三 製造試驗	五三
四 化學試驗	五五
五 漁船機械試驗	五八
附一 編纂部	五八
二 試驗、鑑定及設計等ノ依頼	五八
第四章 本所敷地建物及諸設備	五九
第一節 本所敷地建物	五九
第二節 諸設備	五九
第一 船 艇	五九
第二 實習場、實驗場及試驗地	六二
第五章 圖書及標本	六三
第一節 圖書及標本ニ關スル規程	六三
第一 圖書標本委員會規程	六三
第二 圖書保管規程	六三
第三 圖書借覽規程	六四
第二節 圖書及標本ノ現況	六四
第六章 在外研究員	六五
第一節 在外研究員規程	六五
第二節 戰時事變ノ際ニ於ケル文部省海外	六五

留學生等定員ニ關スル勅令	六六
第三節 在外研究員	六七
第七章 生徒	六八
第一節 在學生徒	六八
第一 生徒氏名	六八
第二 在學生徒府縣別	六八
第二節 卒業者	七〇
第一 卒業者氏名	七〇
第二 卒業者狀況	七〇

附 錄

一 職員移動	一一
二 學友會	一一
三 財團法人水産研究獎勵會	一一
四 試驗報告及其他刊行物	一一

水産講習所一覽

第一章 沿革及組織

第一節 沿革概要

第一 本所創立以前

明治二十二年 一月大日本水産會ハ水産教育必要ノ主唱ニ基キ寄附金ヲ以テ東京市京橋區木挽町厚生館内ニ水産傳習所ヲ假設セリ。

七月日本橋區箱崎町ニ移リ後數月ニシテ又芝區三田四國町ニ移轉セリ

二十六年 五月農商務省ハ一ケ年金六千五百圓ヲ交附シテ生徒ノ養成ヲ囑託シタルヲ以テ更ニ費合ヲ三田四國町ニ番地ニ新築シテ修業年限ヲ三ケ年トシ教務ヲ擴張セリ

二十七年 一月文部省ハ徵兵令第十三條ニ依リ官公立尋常中學校ト同等以上タルコトヲ認定ス

九月卒業生ヲシテ漁船々員タルノ資格ヲ得セシムル爲メ商船學校ト聯絡シ特別入學ノ制規ヲ定ム

二十九年 十二月文部省ハ水産科教員ノ養成ヲ囑託シ全國ヨリ十五名ヲ撰拔入學セシメタリ

三十年 政府ハ水産教育機關ヲ官設スルニ決シ其經費ヲ本年ノ議會ニ提出シテ其協賛ヲ得水産講習所ヲ創設スルコトナリタルヲ以テ水産傳習所ハ三月十一日限り閉所スルニ至レリ

第二本所

明治三十年

三月二十二日勅令第四十七號ヲ以テ水産講習所ノ官制ヲ發布セラレテ諸規則ヲ定メ講習科入學ノ程度ヲ尋常中學第三學年級修業以上トシ修業年限ヲ三箇年トシ其第三學年ニ於テハ漁撈製造養殖ノ一科ヲ專攻セシムルノ制ヲ設ケ別ニ現業科ヲ置キテ實業者若クハ其子弟ノ就學ニ便ナラシメ又講習科卒業生ニシテ尙深ク既修ノ學科中一二ノ科目ニ就キ研究セント欲スルモノ、爲メニ研究科ヲ設ケ修業期間ヲ一ケ年以内トシ舊水産傳習所ノ費舍ニ營繕ヲ加ヘテ之ヲ開設シ藤田四郎所長トナル

三十一年

三月教官ヲ會合シテ講習科ノ傳習要項ヲ定ム此月葦原清風所長トナル
六月農商務省ハ遠洋漁業練習生規程ヲ定メテ生徒ヲ募集シ本所ニ於テ其授業ヲ開始ス此月研究科ノ修業年限ヲ三ケ年以内トシ尙遠洋漁業練習生ヲ本所ノ研究生ト爲ス
九月初メテ罐詰及魚油魚蠟沃度製造ノ現業科生徒ヲ募集ス此月竹内正志所長トナル
十一月牧朴真所長トナル

三十二年

一月文部省ハ本所講習科ヲ文官任用令第三條ニ依リ官公立中學校ト同等以上ノモノト認定シテ之ヲ告示セリ
十一月巾着網漁業ノ現業科生徒ヲ募集ス

三十三年

一月本所ノ規則ヲ更訂シテ講習科ヲ本科ト稱シ中學校卒業ノ程度ニ依リ漁撈、製造、養殖中ノ一科ヲ撰ミテ生徒ノ入學ヲ許シ又別ニ遠洋漁業科ヲ置キ遠洋漁業練習生規程ニ依

リテ採用セラレタル生徒ノ養成ヲナスト共ニ從來ノ學期及學年ヲ變更シ毎年九月ヲ以テ學年ノ始トセリ

四月神奈川県下小田原町ニ於ケル所外製造實習場ノ建築ニ着手シ七月其工事ヲ竣ヘ八月開場式ヲ舉行セリ

九月地ヲ深川區越中島町ニトシテ本所費舍ノ新營ニ着手シ又石川島造船所ニ於テ實習用帆船ノ新營ニ着手セリ

三十四年

四月前年新營ニ着手セシ實習船ノ進水式ヲ舉行シテ快鷹丸ト命名シ八月ニ至リ全ク其工ヲ竣ヘ機裝整頓セリ

六月初テ鯉節其他節類ノ現業科生徒ヲ募集ス

三十五年

文部省ヨリ水産教員養成ノ囑託ヲ受ケ全國ヨリ撰出ノ生徒十名ノ入學ヲ許ス
五月文部省ハ實業教員養成規程ニヨリ本科生徒中ニ學資ヲ補給シテ水産教員養成ノ方法ヲ定ム

六月農商務省ヨリ地方水産試驗場講習所職員講習會授業ノ囑託ヲ受ク

九月深川區越中島町ノ新築費舍ニ移轉ス

三十六年

十月第五回内國勸業博覽會ニ在リシ冷蔵庫ヲ本所ニ引繼キ翌三十七年六月之ヲ本所内ニ移築セリ

十二月露國萬國水産博覽會ヨリ本所出品ニ對シテ名譽謝狀ヲ贈與セラレ

十二月官制ヲ改正シ專任所長ヲ置ク松原新之助所長トナル

三十七年

二月處務規程ヲ改正シ更ニ處務細則及試験部規程ヲ定メテ事務ノ分掌ヲ明ニセリ

三月傳習規則及傳習規程ヲ改正ス

四月千葉縣下元鹽業調査所津田沼製鹽試驗場ヲ引繼キ本所ノ實習場トセリ

三十八年

六月千葉縣製鹽實習場ヲ大藏省ノ所管トセリ又製鹽技術員養成科規程ヲ定メ生徒ヲ募集セリ

三十七八年戰役ニ際シ陸軍省ト協議ノ上軍用罐詰ノ監督ヲナシ本所冷蔵庫ヲ同省ノ使用ニ供セリ

三十九年

二月深川區冬木町養魚池ヲ本所々管ニ移サレタリ

四月伊太利國美蘭ニ開カレタル萬國博覽會ニ本所ヨリ出品シ十一月萬國審査委員ニ於テフオリ、コンコルソー(競争セサル名譽出品)トシ賞狀ヲ贈與セラル

四十年

四月六日水産傳習所ノ創設ヨリ二十年本所ノ開始ヨリ十年ニ相當スルヲ以テ紀念式ヲ舉行シ植樹ヲナシ翌七日所内ヲ一般公衆ノ觀覽ニ供セリ

六月捕鯨砲手養成ノ必要ヲ認メ現業科生徒トシテ其授業ヲ開始セリ

九月六日實習船隼丸ノ建造設計成リ石川島造船所ニ於テ起工シ十二月二日進水シ生徒ノ實習ニ使用セリ

九月九日實習船快鷹丸(總噸數百四十噸)ハ實習中韓國迎日灣ニ於テ風波ノ難ニ遭ヒ難難

ノ途ナク同灣口冬外申ノ突角九萬里沿岸ノ岩礁ニ打揚グラレ忽チニシテ破壊シ終ニ教官一名生徒三名殉難スルノ不幸ヲ見ルニ至レリ茲ニ於テ本所ノ漁撈科生徒實習ノ機關ヲ失ヒ止ムヲ得ス民間實業者ノ漁船ニ乗組ミ實習セシメタルモ規定ノ期間内ニ於テハ豫定ノ實習ヲ完了セシムルコト能ハサリシヲ以テ該生徒ノ卒業期ヲ四十一年十月マテ延期シテ其實習ヲ繼續セリ

十月二十五日勅令第三百二十九號ヲ以テ在外研究生規程ヲ公布セララル

十一月議會ニ於テ快鷹丸代船新造豫算ノ協賛ヲ得タルヲ以テ直チニ其設計ニ着手セリ

遞信省ハ本科漁撈科卒業者ニシテ三箇年以上船舶ニ乗組タル者ニ對シテハ該船舶ノ種類ニ依リ甲種二等運轉士ノ受験資格ヲ有スルコト又現業科中遠洋漁業專修ヲ卒リタル者ニ對シテハ該船舶ノ種類ニ依リ一箇年ヲ短縮シテ丙種運轉士乙種運轉士又ハ乙種二等運轉士ノ受験資格ヲ有スルコトヲ認定セリ

四十一年

五月大阪鐵工所ニ於テ起工シタル新造實習船ハ雲鷹丸(四百四十四噸)ト命名シ四十二年

二月進水同年五月十七日東京ニ廻航シテ生徒ノ實習ニ使用セリ

十一月本所構内ニテ圖書及標本室ノ建築ニ着手シ四十二年三月其工ヲ竣ヘタリ
十一月千葉縣下館山灣高島ニ於テ臨海實驗場ノ建築ニ着手シ四十二年三月竣工シ其三十日ニ開場式ヲ舉ゲ五月ヨリ養殖科生徒ノ實習ニ使用セリ

四十二年

六月初テ貝殼彫刻ノ現業科生徒ヲ募集ス

本年アラスカユニコン太平洋博覽會ニ本所ヨリ出品ヲナシ大賞牌ヲ受ク

四十三年

一月本所試験規程ヲ改正シテ一般當業者ヨリ試験或ハ鑑定ノ依頼ニ應スルノ制ヲ設ケ三月試驗廳舎ノ新營ヲ企テ四十四年四月落成セリ又高島臨海實驗場ニ氣象觀測室ヲ設ケ三月特殊技術員養成科規程ヲ定メ從來ノ製鹽技術員養成科規程ハ之ヲ廢止セリ

四十四年

一月下啓助所長トナル
三月規則ヲ改訂シテ入學者ノ資格ヲ中學卒業若クハ專門學校入學者檢定ニ合格シタル者及府縣立水産學校本科卒業者ニ限リ又學科課程ニ變更ヲ加ヘ物理及普通動物數學等ノ基礎學科ヲ加ヘ尙第三學年ニ於テモ學科ノ講義ヲ併課シ時宜ニヨリ必要ノ事項ヲ其專門家ニ委囑シテ課外講義ヲナスコト、セリ又特殊技術員養成科規程中改正ヲ加ヘ短期講習ヲ爲スノ制ヲ定ム

大正三年

七月二十五日海嘯ノ爲メ構内全部ニ浸水シ深サ三尺餘ニ及ヒ護岸堤防ハ殆ト破壊セラレ船圍場ハ之ニ格納セシ「ボート」ト共ニ全部ヲ流失シテ其形蹟ヲ止メサルニ至リ其他實習場及寄宿舎ノ一部破壊セラレシニヨリ直チニ復舊工事ニ着手四十五年五月之ヲ完成セリ
三月處務細則ヲ改正スルニ方リ漁業基本調査部、漁撈試験部、製造試験部、養殖試験部化學試験部、漁船機械試験部ニ分チ又編纂部ヲ設ケ傳習、調査及試験ニ關スル報告其他ノ編纂ヲ行フコトトシ尙農商務省令ヲ以テ試驗規則及種苗拂下規則ヲ發布スルニ至レリ
十二月水産局長松崎壽三所長心得ヲ命セラル

四年

五年

九月規則及規程ヲ更訂シ從前ノ學期及學年ヲ變更シテ毎年四月ヲ以テ學年ノ始トナシ現業科ト稱シタルモノヲ別科ト改メ又從來ノ特殊技術員養成科ハ之ヲ廢シ單ニ必要ニ應シテ短期講習ヲ行フコトトセリ

六年

二月技師伊谷以知二郎所長トナル
十月一日風水害ニ依リ本所建築物ハ總テ多少ノ被害アリ殊ニ後方部面ノ諸建築物ハ殆ト倒塌シタルヲ以テ大正七年四月之カ復舊工事ニ着手シ大正八年三月竣功セリ

七年

天鷗丸(百六十一噸)ヲ新造シ海洋調査船トシテ専ラ海洋調査ニ使用スルコトトセリ

八年

一月處務細則ヲ改正シ漁業基本調査部ヲ海洋調査部ト改メ其定員經費共ニ之ヲ増加シ試驗事業ノ擴張ヲ圖レリ
從來本科生徒ハ漁撈科三十名製造科二十五名養殖科十五名合計七十名募集シ來リシガ時代ノ要求ニ伴ヒ本年度ニ於テ各科五名宛都合十五名ヲ増募スルコトトナリ隨テ教授ノ増員ヲモ爲セリ

九年

七月文部省告示第一九二號ヲ以テ本所本科卒業者ハ公私立實業學校教員タルコトヲ得ルモノト指定セラレタリ
二箇年ノ繼續ヲ以テ漁船機械試驗ノ擴張ヲ行ヒ專任職員並經費ノ増加ヲ得タリ
十二月二十三日祝融ノ災ニ罹リ水産化學試驗部、淡水養殖室、漁撈標本室及海洋調査部ヨリ成ル一棟ト生徒控室トヲ燒失直チニ復舊工事ニ着手セリ

十一年

前年罹災ノ復舊工事ト共ニ講習部ノ革進及漁船機械試驗、養殖試驗事業ノ擴張ヲ伴ヒ舊東京工業試驗所敷地ノ一部保管轉換ヲ受ケ之レト本所敷地内ニ亘リ覺舎其他ノ増設ヲ圖レリ猶本所以外ニ於テハ講習部擴張ノ爲メ館山實習場、高島實驗場、小田原實習場等ニ改増築ヲ行ヒ養殖試驗擴張ノ爲メニハ長野縣木崎湖、愛知縣豊橋市外、兵庫縣二見、廣島縣大長等ニ夫々養魚養貝試驗場ヲ設置シ深川區冬木町養魚試驗池ハ之ヲ廢止セリ

十一年

一月講習規則及同規程ヲ更訂シ本科ノ修業年限ヲ延長シテ四箇年トシ其入學資格ヲ變更シテ中學校第四學年修了者竝ニ之ニ準スル者又ハ甲種水產學校卒業者竝ニ之ニ準スル者ト爲シ更ニ學科課程ヲ改正シテ應用的技術ノ向上ト基礎的學力ノ充實トヲ圖レリ
五月講習規則第十一條ノ二ニ依リ農商務省告示第百六十六號ヲ以テ臺灣、朝鮮及外國人特別入學規程ヲ設ク

十二年

七月講習規則及同規程ヲ更訂シ遠洋漁業科ノ修業年限ヲ二ケ年ニ改メ又本科漁撈科學科課程ノ一部ヲ變更シ同科第四學年ニ於ケル授業ハ他學年ニ於テ之ヲ課シ同學年全部ヲ乘船實習ト爲セリ

十二年

七月陸軍省竝文部省ハ本科第一學年ヲ修了シタル者ハ徵兵令第十三條第一項第二號ニ規定スル中學校ノ學科程度ト同等以上ノ課程ヲ修了シタル者ト認定シ又本科在學者ニ對シ徵兵令第二十三條第一項ノ規定ニ依ル一年志願兵ノ入營ヲ滿二十五歲マデ延期スルコトヲ認定セリ

十三年

九月大震火災ノ爲メ本所諸建物諸設備等大半烏有ニ歸セルカ此際ハ教務上重要ノ時期ニ屬シ一日モ學業ノ中斷ヲ許サ、ルヲ以テ應急處置トシテ府下豊多摩郡杉並村實業試驗場ノ一部ヲ其假覺舎ニ充テテ事務ヲ執ルコト、シ十月十五日ヨリ爰ニ應急ノ授業ヲ開始セリ而シテ直チニ善後復舊ノ計畫ヲ立テ更ニ應急ノ處置トシテ舊敷地ノ一部ニ約二千坪ノ假覺舎建設ニ着手シタリ

四月八日舊敷地ノ假覺舎ニ於テ授業ヲ開始シタリ又小田原、館山、高島等ニ於ケル本所實習場並實驗場モ前年九月ノ震火災ノ爲メ總テ多少ノ被害アリタルモ急速ニ復舊又ハ修繕ヲ爲シ共ニ完成ヲ告ケタリ

五月文部省ハ大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ高等試驗令上明治三十三年以後ニ入學シタル本所本科卒業者ニ對シ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定シ豫備試驗ヲ免除サル

八月技師岡村金太郎所長トナル

九月逓信省令第四十號ヲ以テ船舶職員試驗規程公布セラレ本科漁撈科卒業者ニシテ三箇年以上船舶ニ乗組タル者ニシテ該船舶ノ種類ニ依リ甲種二等運轉士受験資格ヲ有スルコト又規業科遠洋漁業專修ヲ卒ヘタル者ニ對シテハ乗組期間一箇年ヲ短縮シ乗組船舶ノ種類ニ依リ乙種一等運轉士、乙種二等運轉士、丙種運轉士ノ受験資格ヲ有スルコトヲ認定セラレ且ツ右相當試驗ヲ受クル場合ニ於テ兩者共筆記試驗ヲ免除セラレタリ

十一月二十二日付文部省告示第四百三號ヲ以テ本所大正十一年以後ノ入學ニシテ本科第一學年修了者ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定セラル隨ツテ此資格ニ依リ高等試驗令ニ依ル豫備試驗ヲ受クル資格ヲ享有スルコトナレリ

十四年

二月長崎造船所ニテ蒼鷹丸ヲ建造セシメ天鷗丸ノ代船トセリ鋼鐵船ニシテ二百二噸ナリ六月陸軍省ヨリ所管替ヲ受ケタル青鷗丸ヲ隼丸ノ代船トナス噸數三十二噸餘ナリ

十五年

十一月農林省告示第三百三十三號ヲ以テ講習規程第一條ヲ改正シ兵式教練ヲ實施セリ一月文部省告示第二十六號ヲ以テ明治三十六年文部省告示第三十號教員檢定ニ關スル指定學校名及學科目中ニ於テ本所本科製造科ハ化學(大正三年三月以後ノ卒業業者ニシテ當該科目成績優等ナル者ニ限ル)同養殖科ハ動物(同前)ヲ指定セラル

昭和二年

一昨年以來大震災後ノ諸設備復舊ヲ繼續シ又本年度ニ於テ敷地ノ埋立工事ヲ完了セリ四月水産ニ關スル物理學的試驗ノ擴張ヲ行ヒ專任職員並經費ノ増加ヲ得タリ

昭和三年

十二月復舊工事中ノ試驗部機械工場一棟(一〇〇坪)ヲ建設セリ本年度ニ於テ復舊工事中ノ實驗實習場一棟(五〇八坪)ノ建設ヲ爲シ目下工事中ナリ

昭和三年

本所實習船雲鷹丸ハ既ニ老齡ニ達シ船體各部朽腐シテ到底安全ナル航海ヲ期シ能ハサルニ至リタルノミナラス時代ニ適合セル實習船ヲ得テ生徒ノ實習ヲ完カラシムル爲メ本年度ニ於テ代船ヲ建造スルコトナリ目下神戸市川崎造船所ニ於テ工事中ナリ

第二節 官制及事務規程

第一 水産講習所官制

(沿革) 明治三十年三月二十二日 勅令第四十七號
明治三十一年一月勅令第二九八號、三十二年三月同第七二號、三十四年四月同第四二號、三十六年一月同第二三六號、四〇年四月同第一四七號、四一年一月同第二八五號、四二年三月同第七七號、四三年三月同第八四號、同年九月同第三五一號、大正二年六月同第二〇四號、七年四月同第一〇八號、八年四月同第一三六號、九年八月同第三三七號、一〇年五月同第二二〇號、一一年五月同第二四三號、同年一月同第五一〇號、一二年三月同第八八號、一三年二月同第二二號、同年一月同第二五七號、同年一月二月同第三六九號、一四年三月同第四一號、昭和二年四月同第八三號改正

第一條 水産講習所ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ水産ノ傳習及試験ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 技師專任 二十人 奏任

教授專任 十四人 奏任
技師專任 十九人 判任
助教專任 八人 判任
屬專任 九人 判任

第三條 所長ハ技師又ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 (削除)

第五條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第六條 教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第七條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第八條 助教教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助

第九條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十條 (削除)

第二 水産講習所處務規程

明治三十七年一月二十三日 勅令第三三三號

(沿革) 明治四十一年一月訓令第四〇號
大正八年九月訓令第二〇號改正

第一條 水産講習所ニ左ノ部課ヲ置ク

- 一 講習部
- 一 試験部
- 一 海洋調査部
- 一 教務課
- 一 庶務課

第二條 講習部ニ於テハ漁撈、製造及養殖ノ講習ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 試験部ニ於テハ漁撈、製造、養殖、水産化學、漁船及機械ノ試験ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 海洋調査部ニ於テハ海洋ノ調査ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 生徒ノ入退學試業及卒業ニ關スル事項
- 二 生徒及寄宿舎ノ取締ニ關スル事項
- 三 其ノ他教務ニ關スル事項

第六條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 官印ノ保管ニ關スル事項
- 二 所員ノ進退身分ニ關スル事項
- 三 所内取締ニ關スル事項
- 四 文書ノ接受、發送及保管ニ關スル事項
- 五 豫算及決算並會計ニ關スル事項
- 六 官有財産及物品ニ關スル事項
- 七 圖書及標本ニ關スル事項
- 八 他部課ノ主掌ニ屬セサル事項

第七條 所長處務細則又ハ講習及試験ニ關スル規程ヲ設クルトキハ農林大臣ニ報告スヘシ

第八條 所長講習生ノ募集人員ヲ定ムルトキハ農林大臣ニ經伺スヘシ

第九條 所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ

第十條 所長ハ毎年事業ノ成績ヲ農林大臣ニ報告スヘシ

第三節 職員

所長

岡村金太郎

技師

植物學、養殖論(藻類)

岡村金太郎

養殖論(鹹水養殖、蕃殖保護論)
動物學、同實驗

岡村金太郎

漁撈論(漁法)

岡村金太郎

養殖論(淡水養殖、餌料水質)養殖法實習

岡村金太郎

漁船論(西洋型)、製圖

岡村金太郎

漁場論、海洋學、湖沼學、浮游生物學天然餌料實驗

岡村金太郎

(昭和三年十月末日現在)

製造化學、化學實驗
 漁撈論、航海術、運用術
 物理學、同實驗、數學
 漁撈論(漁法)、漁撈大意、漁獲物處理法
 漁船機械試驗部員

製造講習部主任
 生徒取締主任
 雲鷹丸船長

養殖試驗部員(在豊橋)

漁撈論(釣具、網具)、釣具及網具實習
 氣象學
 物理學

農林技師 田島達之輔
 理學士 佐藤 允
 野元 俊一
 山本 靜一
 理學博士 田内森三郎
 鎌田 武造
 特許局技師 村山 敏三
 松井 佳一
 農林技師 柴戸 雅一
 長棟 暉友
 理學士 岡田 光世
 理學士 木村喜之助
 農林技師 清水 隆道
 農林技師 山口慶四郎

教授

土木學、測量術、同實習
 生物化學、食品化學、化學實驗
 生物化學、有機化學
 動物學、組織發生學、動物及組織發生實驗
 植物學、同實驗
 食品論、貯藏論、細菌學、同實驗
 機械學、製圖
 機械學
 法規
 法規
 食品論、化學實驗

教務課

(在外研究中)

農林技師 橋 英三郎
 農學博士 山 川 洵
 農學博士 關 根 秀三郎
 理學士 寺 尾 新
 東 道 太郎
 水產學士 大 谷 武夫
 木村 金太郎
 工學士 源生 一太郎
 工學士 富 栴 建造
 農林事務官 井 出 正孝
 兼農林事務官 梶 原 茂嘉
 山 本 祥吉

教務課長

製造化學、同實驗

製造試驗部員

法規

庶務課長

物理化學、化學

兼農林事務官 安 心 院 助 一
兼農林事務官 須 田 立
法 學 士 須 田 立

水產通論

教務課
生徒取締

理 學 士 松 生 義 勝
農 林 技 手 三 浦 正

配屬將校

近衛歩兵第一聯隊附 陸軍歩兵少佐 藤 岡 忠

技 手

航海術

兼農林技師 田 中 耕 之 助

氣象學、同實習

養殖試驗部員(在二見)
漁撈試驗部員

關 晴 雄
三 浦 定 之 助
神 谷 尙 志

海洋調查部員

兼 屬 川 尻 稔

養殖試驗部員(在木崎)

養殖試驗部員(在大長)

西 岡 丑 三

養殖試驗部員(在豊橋)

蒼鷹丸無線電
信事務取扱

大 島 信 夫
佐 藤 重 一
堀 重 藏

養殖試驗部員(在金澤)

海洋調查部員

小 西 芳 太 郎

物理試驗部員

石 井 一 美

物理試驗部員

(休 職)

字 田 道 隆

漁船機械試驗部員

大 森 節 夫

製造試驗部員

岩 本 正 一

漁船機械試驗部員

林 壽

海洋調查部員

岡 本 五 郎 三

助 教 授

法 規

教務課
生徒取締

兼農林 屬 今 村 與 作
兼 屬 小 石 安 一

化學

化學試驗部員

漁船論(日本型)漁撈論
(網具)運用術實習、製圖

動物學實驗

生徒取締

食品論、製造法實習

製造試驗部員

漁獲物處理法、製造大意、製造法實習

製造試驗部員

屬

文書掛主任

會計掛主任

雲鷹丸事務長

圖書標本掛主任

蒼鷹丸事務長

庶務課

兼技手熊田朝男

屬

託

養殖試驗部員(在豊橋)

海洋調査部員

一八

角英悦

篠山武次郎

海老名謙一

西墻朝祐

川口武男

淵上保喜

石鹽甚二郎

岩崎甚左衛門

中司正朝

中野清

平田馬男

經濟

講習部

水産經濟ニ關スル調査

教務課

雲鷹丸機關長

理學士羽原又吉

文學士山内爲之輔

英語

英語、獨逸語

數學

雲鷹丸一等機關士

理學士前原重秋

文學士小川竹男

植物學、同實驗

植物色素試驗

英作文、簿記、商業概論

理學士恩田經介

運用術、索具實習

漁務試驗部員

英語

無線電信ニ關スル事項

雲鷹丸

文學士相原一郎介

救急療法

衛生ニ關スル事項

動物學、同實驗、動物生理學

魚病調査

醫學得業士北村銀平

理學士森潤三郎

東京帝國大學教授
文學博士深安文

一九

細菌學實驗
地質學
動物學、同實驗
組織發生學實驗
水產商品學

輸入水產食料品學

生物調査
赤潮魚病其他細菌ニ關スル調査
魚種改良試驗及魚病調査ニ關スル事項
小田原實習場ニ於ケル衛生事項
館山實習場ニ於ケル衛生事項
小田原實習場管理
養殖餌料研究(在豊橋)

水產學士 後藤幸男
東京帝國大學教授 加藤武夫
岡田彌一郎
田中友三
大槻清三
理學博士 岸上鎌吉
東京帝國大學助教授 小南清
大槻房吉
秋山吉五郎
栗原祐吉
和田強
中川勉
山田德二郎

適温試験
適温試験
蟹罐詰内容物化學的試験
動植物寫生
冷凍試験及物理ニ關スル事項
水産應用機械ニ關スル試験調査
漁船々型試験
たらば蟹ノ生態ニ關スル調査研究
海洋調査部
海洋調査部員
海洋調査ニ關スル事項
漁業基本調査ニ關スル事項、海洋學ニ關スル研究事項
海洋調査ニ關スル事項

農學士 中井信隆
清水三郎
浦田淳造
理學博士 長岡半太郎
東京帝國大學教授 加茂正雄
工學博士 山本武藏
東京帝國大學教授 山本武藏
理學士 中澤毅一
今村喜市
東京帝國大學教授 原十太
東京帝國大學教授 寺田寅彦
理學博士 寺田寅彦
海軍大佐 山口延一

蒼鷹丸船長

海洋調査ニ關スル事項
庶務課
事務取扱

三
相川 廣 秋
石塚 源之進

第二章 講 習

第一節 規則及規程

第一 水産講習所講習規則

明治三十年四月

(沿革) 明治三十三年一月告示第七號、同三十七年四月同

第九〇號、同四十四年三月同第一九九號、大正二年

四月同第一〇三號、同二年七月同第二三三號、同

五年九月同第一七〇號、同一年一月告示第三一

號講習規則廢止、大正一一年一月告示第一號講習

規則制定大正一二年七月同第一七號改正

第一條 水産講習所ハ水産ニ關スル學理及技術ヲ教授シ兼テ徳性ノ涵養ニ努ム

第二條 水産講習所ニ本科、遠洋漁業科、研究科及別科ヲ置ク

本科ハ漁撈、製造及養殖ノ三科ニ分ツ

第三條 本科ニ於テハ漁撈、製造又ハ養殖ニ關シ各必要ナル學理及技術ヲ習得セシム

遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業ニ關シ必要ナル學理

及技術ヲ習得セシム

研究科ニ於テハ既修學科目又ハ其ノ關係學科目ヲ專攻セシム

別科ニ於テハ水産ニ關スル特殊ノ科目ヲ限リ必要ナル學理及技術ヲ習得セシム其ノ科目ハ水産講習所長之ヲ定ム

第四條 修業年限ハ本科ニ在リテハ四年、遠洋漁業科ニ在リテハ二年、研究科ニ在リテハ三年以内、別科ニ在リテハ一年トス但シ遠洋漁業科及別科ノ修業年限ハ水産講習所長ニ於テ一年以内ヲ限リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 授業料ハ之ヲ徴收セス

第六條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 水産講習所ノ各科ニ入學スル者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一 本科ニ在リテハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者

- (イ) 中學校第四學年ヲ修了シタル者
- (ロ) 高等學校尋常科ヲ修了シタル者
- (ハ) 高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者
- (ニ) 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者
- (ホ) 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
- (ヘ) 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業生ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- (ト) 甲種水産學校ノ本科又ハ尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル修業年限五年以上若ハ高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル修業年限三年以上ノ實業學校ノ水産科ヲ卒業シタル者
- 二 遠洋漁業科ニ在リテハ水産講習所本科ノ漁撈科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學術技能ヲ有スル者

- 三 研究科ニ在リテハ水産講習所本科ヲ卒業シタル者
- 四 別科ニ在リテハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者
 - (イ) 水産學校ノ本科若ハ別科又ハ府縣水産講習所ヲ卒業シタル者
 - (ロ) 水産學校以外ノ實業學校ノ本科ヲ卒業シタル者又ハ中學校第三學年ヲ修了シタル者
 - (ハ) 二年以上水産ノ業務ニ從事シタル者
 - (ニ) 其他前各號ニ準スヘキ者
- 第八條 本科ヲ卒ヘタル者ニハ卒業證書、遠洋漁業科ヲ修了シタル者ニハ修業證書、研究科ヲ修了シタル者ニハ專攻證書、別科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與ス
- 第九條 卒業生又ハ修了生ニシテ學術優等品行方正ナル者ニハ優等證書ヲ授與ス
- 第十條 本則ニ基キテ發スル規程又ハ水産講習所長ノ發スル命令ニ違反シ生徒タル本分ニ背ク行爲アル者ハ之ヲ懲戒ニ附ス

第二 水産講習所講習規程

明治三十年四月

懲戒ハ戒飭、停學及退學トス

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除籍スルコトアルヘシ

- 一 數々遅刻、缺課又ハ缺席スル者
- 二 一月以上無届缺席スル者
- 三 成業ノ見込ナキ者

第十一條ノ二 臺灣、朝鮮及外國人ノ特別入學ニ關シテハ別段ノ規程ヲ設ク

第十二條 本則施行ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ告示ス

附則

本則ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 各科ノ學科課程左ノ如シ

第一章 本科

一 學科課程

學科	漁撈				研究				時數
	第一學期	第二學期	第三學期	夏季實習	第一學期	第二學期	第三學期	夏季實習	
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	五
英語	五	五	五	五	五	五	五	五	一
算術	五	五	五	五	五	五	五	五	一
物理	二	二	二	二	二	二	二	二	一
化學	二	二	二	二	二	二	二	二	一
植物	二	二	二	二	二	二	二	二	一
動物	二	二	二	二	二	二	二	二	一
總計	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二

學科	科目	學年	學期	時數	製造科					查調及實習實驗於外所	合	習	實																			
					第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第一學年					第二學年	第三學年	第四學年																
化學	物理	第一學年	第一學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第一學年	第一學期	三二五五	三二五五																				
													第二學年	第二學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第二學年	第二學期	三二五五	三二五五										
																							第三學年	第三學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第三學年	第三學期	三二五五	三二五五
第一學年	第一學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第一學年	第一學期	三二五五	三二五五																							
										第二學年	第二學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第二學年	第二學期	三二五五	三二五五													
																				第三學年	第三學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第三學年	第三學期	三二五五	三二五五			
																														第四學年	第四學期	三二五五
第一學年	第一學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第一學年	第一學期	三二五五	三二五五																							
										第二學年	第二學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第二學年	第二學期	三二五五	三二五五													
																				第三學年	第三學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第三學年	第三學期	三二五五	三二五五			
																														第四學年	第四學期	三二五五
第一學年	第一學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第一學年	第一學期	三二五五	三二五五																							
										第二學年	第二學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第二學年	第二學期	三二五五	三二五五													
																				第三學年	第三學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第三學年	第三學期	三二五五	三二五五			
																														第四學年	第四學期	三二五五
第一學年	第一學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第一學年	第一學期	三二五五	三二五五																							
										第二學年	第二學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第二學年	第二學期	三二五五	三二五五													
																				第三學年	第三學期	三二五五	三二五五	三二五五	三二五五	第三學年	第三學期	三二五五	三二五五			
																														第四學年	第四學期	三二五五

及驗實	計	特別請	兵式教	商業大	漁獲物	測量法	救急療	蕃殖保	機關學	流船論	運海術	航海學	氣象學	流撈論	水產通	經濟	法規	動物學			
																			約運用	製物	植物
計	二九	二																			
約運用	二																				
製物	三																				
植物	二																				
動物	三																				
計	三九〇																				
特別請	二九																				
兵式教	二																				
商業大	二																				
漁獲物	二																				
測量法	二																				
救急療	二																				
蕃殖保	二																				
機關學	二																				
流船論	二																				
運海術	二																				
航海學	二																				
氣象學	二																				
流撈論	二																				
水產通	二																				
經濟	二																				
法規	二																				
動物學	二																				

合計	實習及餘實										養殖論																					
	論	文	天	測	化	物	細	植	動	計	兵	薄	製	漁	水	地	經	法	土	湖	氣	養	魚	養	藻	藻	藻	藻	藻	藻	藻	
三九	一四							三	六	五	二	二																				
三九	一四							三	五	六	二	二																				
三九	一四							三	六	五	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				
三九	一四							三	六	六	二	二																				

所外ニ於ケル實驗實習及調査							
學年	時	期	日	數	場	所	事
第一學年	夏季休業中		三五		高島		水泳及操艇、動植物實驗
第二學年	同		一四		同		動植物實驗
第三學年	同		一四		金澤		養蠶實習
同	同		一四		高島		海洋學、浮游生物實驗實習
第四學年	春季休業中		七		金澤		養蠶實習
同	春季休業中		一四		高島		海魚發生、人工孵化法及海藻發生實習
同	五月	中	一四		高島		海魚發生、人工孵化法及海藻發生實習
同	自五月至七月	月	五〇		豐橋		養魚法及養魚場調査、測量及製圖實習
同	夏季休業中		二二		近畿、中國、九州地方		各種養殖事業調査
同	九月	中	一		五井		海苔養殖場調査及實習
同	十一月	中	一四		本所又ハ小田原		製造法實習
同	自十一月至十二月	月	二一		長野縣及新潟縣又ハ北海道		鮭、鱒人工孵化法及湖沼學實習
同	二月	中	二		大森及本牧		海苔養殖場調査

一 外國語ハ英語トシ外ニ隨意科トシテ獨逸語ヲ課ス
 二 本表ノ外必要ニ應ジテ課外講義ヲ課スルコトアルヘシ
 三 第四學年ノ學科ノ教授時數並各學年ノ所外ニ於ケル實驗實習及調査ノ日數又ハ場所ハ時宜ニ依リ増減變更スルコトアルヘシ

第二條 一學年ヲ分チテ三學期トス
 第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至リ

期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第三條 休業日左ノ如シ

- 一 日曜日
 - 一 大祭祀日
 - 一 記念日 三月二十二日
 - 一 春季休業日 自四月七日 至四月十七日
 - 一 夏季休業日 自七月十一日 至九月十日
 - 一 冬季休業日 自十二月二十五日 至一月七日
- 但シ春季、夏季又ハ冬季ノ休業日ニ於テハ實習ヲ課スルコトアルヘシ

三 入學、在學

第四條 入學期ハ學年ノ始トス

第五條 入學志願者ニ對シテハ學科試験及體格検査ヲ行フ

學科試験ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依リ左ノ學科ニ付之ヲ行フ

- 一 國語漢文
- 二 英語
- 三 數學
- 四 物理學
- 五 化學

第六條 入學試験ニ合格シタル者ハ其ノ成績ノ順位ニ依リ入學ヲ許可ス

第七條 入學試験ノ期日及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第八條 入學志願者ハ漁撈、製造及養殖ノ三科ニ付志望學科ヲ指定シ其ノ順位ヲ定ムヘシ

入學ノ許可ヲ受ケタル後ニ於テハ他ノ科ニ轉スルコトヲ得ス但シ一學年以上在學ノ後轉科ヲ望ム者アルトキハ詮衡ノ上他ノ科ノ第一學年ニ編入スルコトアルヘシ

第九條 入學志願者ハ書式第一號ノ入學願書ニ入學試験料及左ノ各號ノ書類ヲ添ヘ之ヲ水産講習所長

ニ差出スヘシ

一 書式第二號ニ依ル履歷書

二 水産講習所講習規則第七條第一號ノ資格ヲ得タル書面又ハ其ノ資格ヲ取得スヘキ旨ヲ證スル當該學校長ノ證明書

三 六ヶ月以内ノ撮影ニ係ル單身ノ半身脱帽ノ手札形寫眞、裏面ニ第一志望學科名、族籍氏名及生年月日ヲ自署スヘシ

第十條 入學試験料ハ金三圓トシ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

前項ノ收入印紙ハ之ヲ入學願書ニ貼附シテ差出スヘシ

既納ノ入學試験料ハ之ヲ還付セス

第十一條 退學シタル者再入學ヲ請フトキハ詮議ノ上學年ノ始ニ於テ原級又ハ原級以下ニ編入スルコトアルヘシ

第十二條 入學ヲ許可セザレタル者ハ許可ノ日ヨリ

十日以内ニ保證人ト連署ノ上書式第三號ニ依リ在

學證書ヲ差出スヘシ正當ノ事由ナクシテ其ノ手續ヲ遅延シタルトキハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 保證人ハ二人トシ内一人ハ入學者ノ父兄、親戚又ハ入學者ニ學費ヲ支給スル者、他ノ一人ハ東京市又ハ其ノ附近ニ在住スル丁年以上ノ男子タルコトヲ要ス

第十四條 保證人死亡シ又ハ保證人タル資格ヲ缺クニ至リタルトキハ遲滞ナク之ヲ改ムヘシ

保證人ニシテ其ノ責務ヲ盡ササルモノト認ムルトキハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 生徒ハ制服制帽ヲ着用スヘシ

四 缺席、休學、退學

第十六條 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ缺席スル者ハ其ノ事由ヲ具シ通學生ハ保證人ノ連署ヲ以テ、寄宿舎生ハ生徒取締ノ證明ヲ經テ速ニ之ヲ届出ツヘシ

但シ疾病ニ因リ引續キ一週間以上缺席スルトキハ
屆書ニ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第十七條 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ休學セムトスル
者ハ事由ヲ具シ尙疾病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書
ヲ添ヘ保證人ノ連署ヲ以テ其ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 缺席日數全學年ヲ通シテ九十日以上ニ亘
ル者ニ對シテハ其ノ學年間休學ヲ命スルコトアル
ヘシ

第十九條 休學者ハ次學年ノ始ヨリ原級ニ編入ス但
シ陸軍兵役ニ服スル者ニシテ服役滿期後直ニ就學
セムトスルモノハ其ノ學年ニ於テ原級ニ編入ス

第二十條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セムトスル
者ハ事由ヲ具シ尙疾病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書
ヲ添ヘ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ

五 試驗、進級、卒業、

第二十一條 學科ニ付テハ一學期一回以上試驗ヲ行
フ

實驗實習ニ付テハ其ノ成績、勤惰及報告書ニ依リ
其ノ評點ヲ附ス

第二十二條 最終ノ學年ニ於テハ學科試驗ノ外卒業
試問ヲ行ヒ且製造科及養殖科ノ生徒ニハ卒業論文
ヲ提出セシム

第二十三條 評點ハ百點ヲ以テ滿點トス
第二十四條 各學年ニ於ケル各學科及各實驗實習ノ
得點ハ當該學年ニ於ケル各學期試驗ノ當該評點ヲ
合計シ之ヲ平均シタルモノトス

前項ノ各得點ヲ合計平均シタルモノヲ以テ當該學
年ノ平均點トス但シ最終學年ニ於テハ各學科ノ當
該學年ノ得點ヲ合計平均シタルモノニ當該學年ニ
於ケル各實驗實習、卒業試問及卒業論文ノ各評點
ヲ合計平均シタルモノヲ以テ平均點トス

第二十五條 各學年ニ於テ各學科及各實驗實習ノ得
點各五十點以上、平均點六十點以上ヲ得タル者ハ
之ヲ進級セシメ最終學年ニ於テ各學科ノ得點並各

實驗實習、卒業試問及卒業論文ノ評點各五十點以

上、平均六十點以上ヲ得タル者ハ之ヲ卒業セシム

第二十六條 各學年ニ於テ學科又ハ實驗實習ニ付前
條ニ定ムル得點ヲ得サル者ハ之ヲ上級ニ假編入シ
其ノ年九月末日迄ニ其ノ學科若ハ實驗ニ付再試験
ヲ行ヒ又ハ實驗ヲ補充セシメ其ノ評點各六十點以
上ヲ得タル者ハ之ヲ成規ニ進級セシメ然ラサルモ
ノハ之ヲ除籍ス

前項ノ規定ハ學年ノ成績前條ニ定ムル平均點ニ達
セサル者ニ付之ヲ準用ス但シ其ノ學科及實驗ノ再
試験又ハ實驗ノ補充ハ得點六十點未滿ノモノニ付
之ヲ行フ

第四學年ノ成績前條ニ定ムル得點ニ達セサル者ニ
對シテハ其ノ卒業ヲ延期シ前二項ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ試驗ヲ受クル
コト能ハサル者ニ對シテハ其ノ事由ノ明瞭ナル場
合ニ限り追試験ヲ施行ス但シ當該學年中ノ他ノ學

期ニ於テ評點ヲ附シタル學科又ハ實驗實習ニ付テ

ハ其ノ評點ヲ標準トシ勸惰ヲ參酌シテ認定點ヲ附

シ之ニ代フルコトアルヘシ

第二十八條 生徒ノ席次ハ前學年ニ於ケル總得點ニ
依リ卒業生ノ席次ハ各學年ニ於ケル總得點ヲ合計
シテ之ヲ定ム

第二章 遠洋漁業科

第二十九條 遠洋漁業科ノ學科課程ハ水産講習所長
之ヲ定ム

第三十條 遠洋漁業科ニ入學ノ許可ヲ受ケムトスル
者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ之ヲ水産講習所長ニ差出
スヘシ

第三十一條 疾病其ノ他ノ事故ニ依リ休學セムトス
ル者ハ期間ヲ定メテ其ノ許可ヲ受クヘシ
休學ノ期間ハ之ヲ修業年限ニ算入セス

第三十二條 修業證書ハ修業ノ成績、勤惰、報告書
及漁撈日誌ヲ考查シ所定ノ課程ヲ修了シタルモノ

ト認ムルトキ之ヲ授與ス但シ必要アルトキハ試験ヲ經タル上之ヲ授與ス

第三十三條 第一章ノ規定ハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外遠洋漁業科ニ付之ヲ準用ス

第三章 研究科

第三十四條 研究科生徒ハ教官ノ指導ヲ受ケ水産講習所又ハ他ノ場所ニ於テ研究ニ從事スヘシ

第三十五條 研究科ニ入學ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ願書ヲ水産講習所長ニ差出スヘシ

第三十六條 專攻證書ハ研究事項ニ付提出シタル論文ヲ考查シ其ノ研究ヲ修了シタルモノト認ムルトキ之ヲ授與ス

第三十七條 第一章及第三十一條ノ規定ハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外研究科ニ付之ヲ準用ス

第四章 別科

第三十八條 別科ノ學科課程ハ水産講習所長之ヲ定ム

第三十九條 別科ニ入學ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ

書式第四號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ水産講習所長ニ差出スヘシ

一 書式第二號ニ依ル履歷書

二 水産講習所講習規則第七條第四號ノ資格ヲ證スル證明書

三 書式第五號ニ依ル體格検査書

四 六ヶ月以内ノ撮影ニ係ル單身ノ半身脱帽ノ手札形寫眞、裏面ニ族籍氏名及生年月日ヲ自署スヘシ

第四十條 修了證書ハ修業ノ成績及勤惰ヲ考查シ所定ノ課程ヲ修了シタルモノト認ムルトキ之ヲ授與ス

第四十一條 第一章ノ規定ハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外別科ニ付之ヲ準用ス

附則

本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ入

附則

學試驗ニ關スル規定ハ大正十一年三月施行スヘキ入學試驗ヨリ之ヲ施行ス

水産講習所傳習規則及水産講習所傳習規程ハ之ヲ廢止ス

本規程施行ノ際現ニ在學中ノ生徒ニ付テハ仍水産講習所傳習規則及水産講習所傳習規程ニ依ル但シ本規程施行ノ際現ニ第一學年ニ在學中ノ生徒ニ限リ其ノ卒業ニ至ルマテ學年試驗ニ合格セサル爲編入スヘキ原級ハ本規程ニ依ル各第一學年、第二學年又ハ第三學年トス

第二十六條ノ規定ハ本規程施行ノ際現ニ在學中ノ生徒ニ付テモ亦其ノ選擇ニ依リ之ヲ適用スルコトヲ得

書式

○第一號

印紙入
(參閱)

入學願書

志望學科 (第一志望 第二志望 第三志望)

受験地

私儀水産講習所本科へ入學致度左記書類相添へ此段相願候也

年月日 何 某

水産講習所長殿

左記

一 履歷書

一 水産講習所講習規則第九條第二號ニ依ル證明書

一 寫眞

○第二號

履歷書

本籍族稱

現住所

家業 (月主ノ家業ヲ記ス)

氏名 (氏名ノ右側ニ假名ヲ附スヘシ)

出生年月日

業 (學校ノ名、入退學、修業ノ年月日、在學中ノ者ハ其ノ學年等)
役 (何年徵兵適齡、検査後ノモノハ其ノ旨ヲ記スヘシ)
職 業 (自己ノ從事シタル職業ヲ記スヘシ)
賞 罰

右之通相違無之候也

年月日 何 某印

○第三號

在學證書

收 入
印 紙
(參 録)

私儀今般某科へ入學許可相成候ニ付テハ規則規程等固ク遵守シ専心勉勵可致ハ勿論中途退學致ス間敷候仍テ在學證書如斯候也

本籍族稱
家業、戸主トノ關係
現住所

年月日 何 某印
何年何月何日生

右某儀今般入學許可相成候ニ付テハ同人ニ係ル一切ノ事件ハ私共ニ於テ引受可申候也

本籍族稱
職業、學生トノ關係 (學生ノ父兄、親戚又ハ學費支給人タル關係ヲ記スヘシ)
現住所

保證人 何 某印
何年何月何日生

本籍族稱
職業、學生トノ關係
現住所

保證人 何 某印
何年何月何日生

水産講習所長殿

○第四號

入學願書

私儀水産講習所別科へ入學致度左記書類相添へ此段相願候也

年月日 何 某印

水産講習所長殿

左記

- 一 履 歷 書
- 一 水産講習所講習規程第三十九條第二號ニ依ル證明書
- 一 體 格 檢 査 書
- 一 寫 真

○第五號

體 格 檢 査 書

族籍、戸主トノ關係

何 某印
何年何月何日生

- 一 體 格 (甲、乙、丙) 最モ強健ナル者ヲ甲トシ之ニ亞ル者ヲ乙トシ現ニ疾患ナキモ身體薄弱ナル者若ハ著シキ病歴ヲ有スル者ヲ丙トス
- 一 體 質 (強健、稍弱、弱) 特別ナル事項ハ其ノ條件ヲ記ス
- 一 身 長 (何尺寸分)

- 一 體 重 (何貫匁)
- 一 胸 圍 (何尺寸分) 常時、充盈、空虚及其ノ差
- 一 視 力 (何々) スネルレン氏ノ檢視法ニ依リ左右共其ノ中心視力ヲ檢シ辨色力眼疾ヲモ検査スヘシ
- 一 聽 力 (過敏) 左右兩耳ニ就キ鐘中時計ニテ可及的其ノ聽取ノ最遠距離ヲ測定シ「イ」センナメ「ト」トルニテ記入シ尙障害ノ有無耳疾ヲモ検査スヘシ
- 一 神 經 系
- 一 呼 吸 器
- 一 血 行 器
- 一 皮 膚 其 他
- 一 脊 柱、一 齒 牙 一 痘 一 言 語
- 一 既 往、現 在ノ 疾 病 又ハ 畸 形

右検査候處相違無之候也
検査年月日 現住所 醫師 何 某印

水産講習所入學試業料ニ關スル件

大正六年二月二十六日農商務省令第四號

水産講習所入學試驗料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ
前項ノ收入印紙ハ之ヲ入學願書ニ貼付シ消印ヲ爲サスシテ差出スヘシ
水産講習所長ハ其ノ收受スヘキモノナルヲ認メタル後願書ノ紙面
ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ捺捺スヘシ但志願者ニ於テ自己ノ便宜
上消印ヲ爲スハ之ヲ妨ケス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三 水産講習所臺灣、朝鮮及外國人特別入學規程

大正十一年五月農商務省告示第一六六號

- 第一條 臺灣人又ハ朝鮮人ニシテ水産講習所講習規則ニ依ラス所定ノ學科ノ教授ヲ受ケムトスル者ハ入學願書ニ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介書ヲ添ヘ之ヲ水産講習所長ニ差出スヘシ
- 第二條 水産講習所長前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ相當ノ學力アリト認メタルモノニ限リ之ヲ許可スヘシ但シ水産講習所ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 授業料ハ之ヲ徵收セス
- 第四條 本規程ニ依リ入學シタル者ニシテ學科修了ノ證明ヲ受ケムトスルモノニハ試驗ノ上特別證書ヲ附與ス
- 第五條 水産講習所長ハ本規程ノ施行ニ關シ必要ナル細則ヲ設ケルコトヲ得
- 第六條 前五條ノ規程ハ外國人ニ之ヲ準用ス其ノ入學ニ關シテハ外務省、在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介ヲ要ス

第四 諸規定

一 水産講習所教官會議規程

（沿革） 大正十四年六月
大正十五年二月改正

- 第一條 教官會議ハ教務ニ關スル諸般ノ事項ヲ審議スルヲ以テ目的トス
- 第二條 教官會議ハ講習部教官ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 教官會議ハ總會及部會トス
- 總會ハ第一條ノ一般事項ヲ審議スルヲ以テ目的トシ教官全員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 部會ハ第一條ノ特殊事項ヲ審議スルヲ以テ目的トシ當該關係教官ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第四條 教官會議ニ會長一名幹事長一名及幹事三名ヲ置ク
- 會長ハ所長、幹事長ハ教務課長ヲ以テ之ニ任シ幹事ハ教務課員中ヨリ所長指名ス
- 第五條 會長ハ會議ヲ招集シ其ノ他會務ヲ總理ス
- 幹事長ハ會議ヲ整理シ其ノ他會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
- 幹事ハ會務ニ執掌シ幹事長事故アルトキハ幹事中ヨリ之ヲ代理ス
- 第六條 總會ハ每學期一回之ヲ開ク但シ必要アル場合ニ於テハ臨時ニ之ヲ開クコトヲ得
- 部會ハ必要アル場合ニ於テ臨時之ヲ開ク
- 第七條 總會ノ議長ハ幹事長部會ノ議長ハ當該部會員中ヨリ一名之ヲ任ス

二 當ル

- 第八條 教官會議ニ議案ヲ提出セムトスル者ハ理由ヲ附シ幹事長ニ提出スヘシ
- 幹事長ハ議案ヲ整理シ會長ノ承認ヲ得テ少クトモ會議ノ三日前ニ會員ニ之ヲ通知シタル後之ヲ總會又ハ部會ニ附議スヘシ
- 緊急ノ必要アル場合ニ於テハ會員ハ會議中出席者過半數ノ同意ヲ得議案ヲ提出スルコトヲ得
- 第九條 教官會議ノ議決ハ總員過半數ノ出席セル會議ニ於テ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
- 第十條 教官會議ノ議決ハ之ヲ所長ニ報告スヘシ此の場合ニ於テ少數意見モ共ニ之ヲ添附スヘシ
- 第十一條 教官會議ニ於テ教務ニ關スル事項ニ付特ニ調査ノ必要ヲ認メタルトキハ委員ヲ設ケルコトヲ得

二 實習規程

明治三十年四月

（沿革）明治三十三年三月、大正二年六月改正

- 第一條 實習ハ本所及實習船又ハ本所指定ノ場所若ハ船舶ニ於テ從事セシム
- 第二條 實習ノ事項及期限ハ學科課程ニ準據シ之ヲ定ム
- 第三條 實習ノ爲ノ出張ヲ命ジタルトキハ其往復ノ旅費ヲ補給ス但シ本所實習場及試驗地ニ本所及實習場試驗地ヨリ鐵道十六哩海里十海里以内ニ出張スル者及遠洋漁業科生徒ニハ旅費ヲ支給セス
- 第四條 實習ニ付テハ適當教官又ハ特ニ設ケタル監督者ノ監督ヲ受

三 實習船規程

明治四十三年七月

（沿革） 明治四三年一月及二月改正

- 第一章 總則
- 第一條 實習船ハ本所生徒ヲシテ漁撈、航海、運用及機關ニ關スル學術並ニ技術ヲ實習セシムルヲ以テ目的トス
- 第二章 職員
- 第一條 實習船ニ左ノ職員ヲ置ク但シ場合ニ依リ變更スルコトアルヘシ
- 一 船長
- 二 教官
- 三 運轉士 運轉士補
- 四 機關長 機關士
- 五 事務長
- 第三條 船長ハ實習、風紀、衛生、其ノ他全般ノ船務ヲ總轄ス
- 第四條 船長ハ每實習期ノ終リニ於テ其ノ實習報告書別表書式ノ者

職表及衛生狀態調査書ヲ滿ヘ所長ニ提出スヘシ但シ實習報告書ハ其ノ實習期中便宜數回ニ分割シテ提出スルコトヲ得
 第五條 船長ハ所長ノ決裁ヲ經テ實習船内規ヲ定メ又ハ之ヲ改廢スルコトヲ得
 第六條 教官ハ船長ノ命ヲ受ケ各々其ノ擔當課業ノ實習ニ任シ且ツ乘組生徒取締其ノ他船務ニ從事ス
 臨時乗組ヲ命セラレタル教官ハ特別ノ場合ヲ除外前項後段ノ事務ニ從事スル限ニアラス
 第七條 運轉士ハ船長ノ命ヲ承ケ運用術ノ實習、船内風紀ノ取締其ノ他ノ船務ニ從事ス
 運轉士補ハ船長ノ命ヲ承ケ運轉士ノ職務ヲ補助ス
 第八條 機關長ハ船長ノ命ヲ承ケ機關術ノ實習其ノ他ノ船務ニ從事ス
 機關士ハ船長ノ命ヲ承ケ機關長ノ職務ヲ補助ス
 第九條 事務長ハ船長ノ命ヲ承ケ文書帳簿其ノ他經理及衛生ニ關スル事項ヲ擔當ス
 第十條 職員ハ每實習期ノ終リニ各々其擔當課業ニ對スル生徒ノ實習評點表ヲ作成シ之ヲ船長ニ提出スヘシ
 第三章 實 習
 第十一條 實習期間ヲ三期トシ各四箇月ヲ以テ一期トス但シ場合ニ依リ變更スルコトアルヘシ
 第十二條 實習科目左ノ如シ但シ場合ニ依リ變更又ハ増減スルコトアルヘシ

一 漁撈法
 出漁、漁具使用法、漁具偵察、漁法、漁艇ノ運用、漁獲物處理法、漁具作製及修理、漁具保存、漁業ノ地方慣習制度及經濟調査、漁獲物ノ種類及性質調査、漁具漁船ノ種類及構造調査
 二 航海術
 推測、實測、羅盤差測定、羅盤修正、經緯儀誤差測定、氣象觀測、潮時算法
 三 運用術
 操帆、操舵、通帆、荒天航法、應急修理、船體船具保存法、技業、信號法、運轉法、衝突豫防法、非常召集、消防配置、當直勤務、守備法、諸圖材取扱、糧食貯蔵品積載法、出入港手續
 四 機關術
 汽機及汽機取扱及管理法、冷熱機取扱及管理法
 第十三條 碇泊中ハ船長ノ見込ヲ以テ研究ノ爲生徒ヲシテ當該地方ノ水産狀況ヲ調査又ハ視察セシムルコトヲ得
 前項ノ調査又ハ視察ヲ終リタルトキハ生徒ヲシテ各其ノ報告ヲ提出セシムルコトアルヘシ報告書ハ其ノ實習期ノ終ニ船長ノ提出スヘキ實習報告書ニ添付スヘシ
 第十三條ノ二 船長ハ一實習航海期間内ニ於テ實習上必要ト認ムル場合ハ生徒ヲシテ交番ニ他ノ漁船ニ便乗セシムルコトヲ得但シ此場合ニ在リテハ交番人員數、便乗船ノ種類、船名及其所有主ニツキ直々ニ所長ニ報告スヘシ
 第十四條 實習成績ノ評點ハ各實習期ノ終ニ運用術及航海術ニテ

第十三條 實習日誌及臨時試業ノ評點ノ合約點其ノ他ノ課業ニ在リテハ擔當教官ノ見込ニ依リ之ヲ定ム
 第十五條 各職員ハ豫メ協議ノ上其擔當課業ニ付順序ヲ定メ尙天候其ノ他ノ事情ヲ參酌シテ適宜課業スヘシ
 第四章 風紀衛生及上陸
 第十六條 風紀衛生及上陸ニ關シテハ本規程ニ定メアルモノノ外船長定ムルトコロノ内規ニ依リ之ヲ行フ
 第十七條 船長ハ船務ニ差支ナク且ツ衛生上其ノ他ノ故障ナキヲ認メタルトキハ相當ノ時間職員生徒ノ上陸ヲ許可スルコトヲ得
 第十八條 上陸ヲ許可スヘキ生徒ノ員數ハ通常ノ場合ニ在リテハ其中數ヲ超過スルコトヲ得ス
 第十九條 船内ニ於ケル運動遊戲ハ健康ヲ増進シ士氣ヲ鼓舞シ嗜好ヲ高尚ナラシムルニ足ルト認ムルモノノ外之ヲ許可スル事ヲ得ス
 第二十條 事務長ハ衛生日誌ヲ調製シ且ツ毎月一回生徒ノ衛生狀態ヲ調査シ之ヲ船長ニ報告スヘシ
 第二十一條 職員生徒力疾病傷疾ニ罹リタルトキハ船長ハ所長ニ經何シテ相當ノ期間特ニ公暇又ハ下船療養ヲ許可スルコトヲ得但シ生徒ニツキテハ經何ノ限リニアラス
 交通不便其ノ他ノ事情ニ依リ豫メ所長ニ經何スルコトヲ得サル場合ハ事後其ノ旨ヲ所長ニ報告スヘシ
 第二十二條 職員生徒上陸中疾病傷疾ニ罹リ定刻ニ歸船シ能ハサルトキハ直々ニ醫師診斷書ヲ添ヘ船長ニ届出ツヘシ

第二十三條 船長ハ生徒ノ品行方正ニシテ實習ノ成績良好ナルモノニ限リ碇泊中一定ノ期間特別公暇ヲ與フルコトヲ得
 第二十四條 船長ハ本則及諸規則心得等ニ背戾シタル生徒ニ對シ懲戒ヲ加フルコトヲ得
 第二十五條 懲戒ハ上陸禁止及加役ノ二種トス
 上陸禁止ハ七日以内トシ碇泊日數ニ於テ之ヲ算ス加役ハ七日以内トシ常務時間外一日二時間以内役務ニ服セシム
 第二十六條 生徒ニシテ犯則度ヲ重キ又ハ重大ナル不都合ノ所爲アリタルトキハ船長ハ所長ニ其處分ヲ申請スヘシ

實習第 期考課表 生徒										
年 齡	年 月 日 生	上 月 日 船	下 月 日 船	全 日 數	課 業				科 目 評 點	全 點
					運 用	航 海	機 關	報 告 書		
					一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇		
第 期 末	上 船 ノ 際				合 計	平 均				

年 月 日	意見	品行	性質	格			特長	偏癖	績		
				體量	體重	體質			平均	合計	出勤及 勳意
				身長 尺 寸	體重 斤 兩	體質 年 齡					一〇〇

四 寄宿舎規程

明治三十年四月

- (沿革) 明治三十三年三月大正一三年四月改正
- 第一條 寄宿舎生ハ生徒取締ノ監督ヲ受ヘシ
- 第二條 寄宿舎生ハ本規程ニ基キ規律衛生及食事等ニ關スル規約ヲ設ケ所長ノ認可ヲ經テ實踐スヘシ
- 第三條 本規程及ヒ規約ノ實踐ヲ期スルメメ寄宿舎ニ委員及室長若キ名ヲ置ク
- 前項ノ委員ハ寄宿舎生中各科各學年等數ヲ室長ハ各室ニ於テ之ヲ互選シ所長ニ届出ツヘシ
- 第四條 寄宿舎ハ毎年夏期休業中ハ之ヲ閉ツルモノトス

第二節 講習功程

第一本 科

在學ノ生徒ハ三百十一名ニテ本科ノ教程ハ學年ノ始ニ於テ學科課程表ニ基キ一學年間ニ授クヘキ各學科ノ時數ヲ豫定シ教授事項ノ要目ヲ配當シテ之ヲ定メ之ニ依テ教授ヲ爲セリ

第二 遠洋漁業科

在學ノ生徒ハ六名ニシテ漁業船舶ニ乗組ヲ命ノ漁業及航海運用ニ關スル技術ヲ練習セシム

第三 研究科

目下在學生ナシ

第四 別 科

淡水養魚專修生徒ハ現在五名アリ愛知縣豐橋市外ナル本所々屬ノ養魚試驗場ニ於テ養成ス

第三章 試驗及調査

第一節 試驗及調査ニ關スル組織

本所ハ一般水産業ノ發達ヲ圖ル爲メ大正三年三月本所處務細則ヲ定メ海洋調査部、漁撈、養殖、製造、

四四

- 但シ閉舎期間ハ時宜ニヨリ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ
- 第五條 寄宿舎生ハ定期或ハ臨時ニ人員點檢ヲ受ケヘシ
- 前項人員點檢時刻ハ規約ニ於テ之ヲ定メシム
- 第六條 寄宿舎生ニシテ時限外ニ外出セントスルモノハ許可ヲ受ケヘシ
- 前項外出時限ハ規約ヲ以テ之ヲ定メシム
- 第七條 外泊又ハ時限内ニ歸舎シ得サルモノハ其事由ヲ詳細シ前者ハ保證人連署ヲ以テ後者ハ委員ノ連署ヲ以テ届出ツヘシ
- 第八條 入舎又ハ退舎ヲ爲サントスルモノハ三日以前ニ保證人連署ノ上届出ツヘシ
- 第九條 物品ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ其情狀ニヨリ之ヲ修補又ハ辨償セシム
- 第十條 寄宿舎會費及食費ハ時價ニヨリ之ヲ定ム
- 前項ノ會費及食費ハ毎月五日迄ニ納付スヘシ
- 第十一條 寄宿舎生ニシテ本規程又ハ規約ニ違背シ其他寄宿舎生ハ本分ヲ守ラサルモノハ其情狀ニヨリ退舎ヲ命ス

化學及漁船機械ノ五試驗部ヲ設ケ該各事項ニ付試驗及調査ヲ爲シ且ツ本所ノ業務ニ妨ケナキ範圍ニ於テ一般ノ依頼ニ應スル爲メ試驗規則ヲ設ク又種苗配付ヲナス爲メ種苗拂下規則ヲ設ケタリ其規則左ノ如シ

第一 水産講習所試驗規則

大正三年三月農商務省令第五號

- 第一條 水産講習所ハ海洋調査、漁撈、養殖、製造、化學、漁船及機械ニ關スル事項ニ付試驗、鑑定、分析、檢定及設計ノ依頼ヲ受ケタルトキハ主管ノ業務ニ妨ケナキ範圍ニ於テ之ニ應スルコトヲ得
- 第二條 前條ノ規程ニ依リ依頼ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ依頼事項及目的ヲ明カナラシムヘキ詳細ナル説明書類並必要ノ圖面及現品ヲ添附シテ差出スヘシ
- 前項ニ依リ水産製造品等ノ鑑定又ハ分析ノ依頼ヲ爲サムトスル者ノ差出スヘキ現品ハ左記ノ區分ニ依ルヘシ但シ必要ノ場合ニハ更ニ相當ノ數量ヲ差出サシムルコトアルヘシ
- 製造ニ關スル事項

四五

産動物ノ養殖試験ヲ爲ス者ニ對シ無償ニテ種苗ヲ下付スルコトヲ得

第一條ノ規程ハ前項ニ依リ種苗ノ下付ヲ受ケムトスル者ニ之ヲ準用ス

第五條 種苗拂下ノ許可ノ通知アリタルトキハ出願人ハ水産講習所長ノ指定シタル期限迄ニ其ノ價格ヲ納付スヘシ但シ郵便ニ依ルトキハ書留郵便ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六條 出願人種苗ノ送附ヲ受ケタルトキハ第二號様式ノ領收證ヲ差出スヘシ

第七條 種苗ノ送付ニ要スル荷造費、運賃及其ノ送付中ニ生シタル種苗ノ斃死、損傷等ノ損害ハ出願者ノ負擔トス

第八條 種苗ノ拂下又ハ下付ヲ受ケタル者ハ水産講習所長ノ指定シタル種苗ノ發育狀況等ニ關スル事項ヲ水産講習所長ニ報告スヘシ

第一號様式

種苗拂下願
一何々々 何尾(粒)
右養殖致度候ニ付拂下相成度御所種苗拂下規則ニ依リ此段相願候也
年 月 日
何縣何郡何町(村)
漁業組合理事(出願人資格)
何 某 印
水産講習所長氏名殿

(受領者出頭スルコト能ハサルトキハ種苗届先、取扱職名及取攝運送店名ヲ附記スヘシ)

第二號様式

種苗領收書
一何々々 何尾(粒)
右領收候也
年 月 日
何縣何郡何町(村)
何 某 印
水産講習所長氏名殿

第二節 各部事業ノ概要

(自昭和二年九月一日至昭和三年八月末日)

第一 海洋調査部

明治四十二年以降農商務省水産局ニ於テ漁業基本調査ト稱シ海洋ノ調査ニ從事シタリシカ大正三年四月此事業ヲ本所ニ移シ大正七年豫算ヲ得テ海洋調査部ト改稱シ専用調査船天鷗丸ヲ建造セリ。大正九年十月二月不幸火災ノ爲メ其資料及標本器具ノ大半ヲ烏有ニ歸シタリシカ大正十一年六月復舊工事成レルヲ以テ新廳舎ニ移リタリ。大正十二年九月ノ大震災ニハ幸ニシテ類焼ヲ免レ損害輕微ナリ。然ルニ調査船天鷗丸ハ腐蝕菌ノ胃ス所トナリ其航海不能ニ陥リタルヲ以テ代船ヲ要求シ大正十三年度ニ豫算ヲ得テ新船蒼鷹丸ヲ建造シ今日ニ至レリ。

一、海洋ノ調査

(イ) 細密的調査。調査船ハ大正十一年度以降從來施行シ來レル普遍的横斷觀測ノ外本邦沿海ヲ五海區ニ分チ各海區ノ細密ナル調査ヲ行フコト、ナリタリ。

底質及底棲生物ノ調査ハ大正十五年度ヲ以テ其第一海區即チ青森縣尻矢崎ヨリ千葉縣洲ノ崎ニ亘ル沿海ノ調査ヲ終リ、昭和二年夏期第二海區及第三海區ノ一部ヲ調査シタルカ以後昭和二年十一月及昭和三年六、七、八月ニ亘リ第二海區ノ一部及第三海區ヲ調査シタリ、即チ、昭和三年夏期迄ニテ太平洋岸ノ青森縣尻矢崎ヨリ鹿兒島縣佐多岬ニ亘ル海區ノ全部ニ就キ本調査ヲ終了セリ。

海洋ノ流動其他ノ理化學的細密調査ニ就キテハ引續キ、豆南諸島ニ於ケル、海流調査並ヒニ伊豆七島近海ニ於ケル縦斷觀測ヲ施行シ、昭和三年三月及八月調査船ヲ出動セシメタリ。

以上ノ外調査船ハ水産局ノ囑ニヨル漁業試験及

オットセイ河游調査ノ爲メ昭和三年三月小笠原方面ニ出動シ同年夏期ノ航海ニ於テハ静岡縣及同縣水産會ノ申請ニヨリ七月上旬及八月中旬、駿河灣内瀬ノ海及蒲原沖合ノ櫻えび漁場ノ細密的調査ヲ行ヒタリ。

(ロ) 普遍的沖合及内灣横斷觀測 引續キ地方連絡各官衙及團體ノ熱心ナル協力ニヨリ本邦沿海ノ沖合及内灣ノ横斷觀測資料ヲ綜合シテ海況ト漁況トノ關係ヲ調査セリ。

(ハ) 沿海定地觀測 沖合ノ海洋狀態ト沿岸海水ノ變化トノ關係ヲ究メンガ爲メ引續キ連絡地方官衙燈臺測候所並ニ特志家ニ委嘱シテ全國沿岸ニ亘ル定地觀測ノ資料ヲ綜合シテ調査ヲ行ヒツ、アリ。

二、生物ノ調査

(イ) 浮游生物ハ引續キ連絡府縣其他ノ採集ニヨル資料ニ就キ調査ヲ行ヒツ、アリ。

(ロ) 重要魚族ノ調査ハ引續キぶり、さば、かつを

コトトナリタリ。

(ロ) 報告 本所及連絡地方官衙ノ施行セシ調査材料ハ之ヲ集録シテ毎月海洋圖ヲ印刷シ昭和三年八月ヲ以テ第百〇八號ニ達シタリ。

又三ヶ月毎ニ海洋調査要報ヲ編纂シ昭和二年六月迄ノ分ニテ其第四十一報ニ達ス。

隨時ニ海洋並ニ生物調査ノ成績ヲ發表スル海洋調査彙報ハ其第二卷第一冊ヲ昭和三年三月ニ發行シ日本海ニ於ケル浮游生物ニ就キテ外三編ノ浮游生物調査及日本海ニ於ケル下層冷水帶ニ就キテ外一編ノ海洋ニ關スル調査成績ヲ發表シタリ。

第二 試驗 部

一 漁撈試驗

一、漁法試驗

(イ) 發動機船一隻旋巾着網漁法試驗トシテ鱈魚ニ

いなし其他ノ生態的調査ニ從事シ、ぶり、さばニ就キテハ、島根、石川、富山、秋田、高知、三重、福井、諸縣ト連絡シテ其標識放流ヲ行ヒ來レリ。

(ハ) 底棲生物ノ調査ハ蒼鷹丸採集ノ資料ハ遂次其整理ヲ急キ、整理ヲ終リタルモノハ之ヲ各擔當研究者ニ送附シテ其調査ヲ囑シツ、アリ。而シテ蒼鷹丸ノ本調査ト並行シテ第二海區及第三海區即チ太平洋南部沿海ノ底曳網漁場ノ調査及其漁獲物ニ就キテモ調査員ヲ派シ、之カ資料及材料ノ蒐集ニ努メ太平洋沿海ニ就キテハ其大半ヲ終リタリ。

三、協議會及報告

(イ) 協議會 海洋調査主任職員事務打合會ハ昭和二年度ハ其第九回ヲ昭和二年十月十日ヨリ同十四日迄昭和三年度ハ其第十回ヲ昭和三年五月十四日ヨリ同十八日迄各五日間本所ニ開催シ、海況ト漁況トノ關係ニ關スル議題ニ就キ相互ニ其研究ヲ交換シ猶今後モ引續キ其研究結果ヲ持寄り考究スル

對シ「タイン、テロブル」ヲ使用セザル漁法ヲ試驗シ操業上ニ改良ヲ施シタル結果好成绩ヲ認メタルヲ以テ本年度ハ更ニ小型網船ニ動力ヲ備ヘ在來ノ二隻旋巾着網漁法ニ機械力ノ應用方法ヲ試驗シ良好ノ結果ヲ得タリ。

(ロ) 北太平洋及「オコツク」海ノ漁業開拓ニ關スル試驗調査ハ年々繼續シ來タリ本年ハ「オコツク」海中央「セントデヨトナ」島附近ニ於ケル鱈、蟹、鰈其他雜魚ノ棲息狀態ヲ調査シ更ニ南部千島列島附近ノ底魚分布狀態ニ付キ試驗調査ヲ行ヒタリ。

(ハ) 南洋方面ノ鮪鯉漁業試驗ハ本年モ「ラタツク」列島ヲ中心ニ附近ニ於テ試驗調査ヲ行ヒ稍々確カムル所アリ之レヲ以テ中止スルコト、セリ。

二、漁撈基本試驗

(イ) 鱈巾着網漁業ニ於テ其ノ網ノ構成方法及漁法ニ就テハ數年間潜水機ヲ利用シ改良ヲ行ヒ漸ク完

成ノ域ニ達セルヲ以テ本年度之レヲ中止スルコト
セリ。

(ロ) 底曳網構造ノ改良試験ハ前年通り潜水機ヲ使
用シ網ノ開キ及「グラランド、ロープ」ニ關シ改造ヲ
試ミタリ而シテ猶ホ繼續試験セントス。

(ハ) 網絲防腐試験ハ各種染料ニツキ引續キ試験ヲ
ナシツ、アリ。

二、養殖試験

一、生物調査

(イ) みぢんこノ蕃殖ニ關スル研究。みぢんこノ群
衆増大ハ他ノ生物ノ群衆増大ト同様ナル徑路ヲ取
ルモノニシテ且所謂適温ニテ飼育ヲ行ヘハ、最モ
多クノ個體數ヲ得ルモノナル事、又其蕃殖率ハ群
居密度ニヨリテ影響セラル、モノニシテ、兩者間
ニ對數的關係アル事ヲ明ニセリ。

(ロ) めだかノ産卵ニ關スル研究。群居密度ト産卵
數トノ間ニハみぢんこノ蕃殖ニ於テ觀察シタルト

同様ノ關係アル事ヲ確メタリ。

(ハ) 介類發生並ニ習性ノ研究。板甫牡蠣發生並ニ
習性ノ研究ハ既ニ一部完了セルヲ以テ近ク其成績
ヲ發表セントス。

(ニ) 館山灣生物調査。館山灣ニ棲息スル各種水産
動物ヲ採捕シ種類ノ査定並ニ其水平的及垂直的ノ
分布ニ關シ調査中ナリ。

二、淡水養殖

(イ) 温水性魚類養殖試験。本試験ハ從來愛知縣渥
美郡豊橋市外北嶋ト同郡牟呂吉田村字牟呂トノ二
ヶ所ニ於テ之ヲ行ヒ牟呂ニ於テハ専ラ鰻兒ノ養成
鮭種苗改良試験ヲ爲シ北嶋ニ於テハ餌料、水質等
學術的ノ調査研究ヲ行ヒシカ昨年度ヨリ北嶋ヲ廢
シ全設備ヲ牟呂ニ併合スルコト、ナリ同年度ニ於
テ其工事ヲ完成セリ、右移轉工事ノ爲メ昨年度ニ
於テハ試験ノ一部ヲ一時中止スルノ止ムヲ得サル

ニ至レリ。

(ロ) 冷水性魚類養成試験。本試験ハ長野縣北安曇
郡平村海ノ口ニ於ケル本所養魚試験場ニ於テ行ヒ
専ラ左記事項ニ付試験セリ。

一、鱒族池中養成試験。池中養殖用鱒族親魚ノ適
種選擇ノ爲メ虹鱒、河鱒、木崎湖鱒ノ三種ヲ養
ヒ各種共種卵ヲ採取シ内虹鱒卵ノ一部ヲ拂下ケ
タリ、又飼育ニ要スル水量或ハ放養尾數ト成長
歩留率等ノ關係ニ付目下試験中ナリ。

二、冷水性魚族孵化試験。卵及ヒ孵化後間ナキ稚
魚ノ孵化飼育温度或ハ水温變化ノ影響並ニ卵精
ニ及ホス紫外線ノ影響及卵ニ及ホス振動ノ影響
等ニ付研究セリ。

三、鱒ノ人工餌料ニ關スル試験。鱒ノ餌料トシテ
必要ナル各營養素ニ關スル研究並ニ種卵用親魚
ノ餌料中ニ含マル、脂肪ノ多寡カ卵ニ及ホス影
響等ニ付試験中ナリ。

四、湖沼ノ生産力調査。青木湖ニ於ケル生物調査

ヲ爲シ同湖ニ放養セル「ヒメマス」ノ生態並ニ天
然餌料ヲ研究セリ、又夏季ニ於ケル游泳水層ヲ
調査シ張網ノ水深ニ付漁業者ニ指導シタリ。

(ハ) 魚卵孵化適温試験。本試験ハ本所内ニ於テ行
ヒ「アユ」及ヒ「ワカサギ」ノ卵ノ發育上水温ノ影響
ヲ研究セリ、其結果ノ一部ハ本所試験報告第二十
三卷第五冊ニ掲載セリ。

三、鹹水養殖

(イ) まがさ養殖改良試験。本邦在來ノ養蠣方法ヲ
改良シ歐米産ノ如ク其形狀大小並ニ肉身ノ充實ヲ
均一ニシ個數ヲ單位トシテ販賣シ得ル優良牡蠣ヲ
作り養殖業發展ノ指導タラントシ、目下神奈川縣
金澤養蠣場ニ於テ新規ナル方法即チ垂下式養蠣法
ヲ考案シ、立體的ニ海中ノ水層ヲ利用シ採苗、肥
肉ヲ實驗シ頗ル良好ナル成績ヲ舉ケ既ニ神奈川、

宮城、廣島、熊本、石川、静岡等ノ各地養蠶場ニ於テ此方法ヲ試驗スルモノ續出スルニ至レリ、是レ全ク在來ノ地床ニ貝殻ヲ撒キテ養殖スルモノニ比シ、肥肉ノ優良ナルノミナラズ貝ノ成長モ亦迅速ナルヲ以テナリ。尙引續キ此方法ニ改良ヲ加ヘ研究中ニ屬ス。

(ロ) 養蠶場ノ水質並ニ餌料ニ關スル試驗。養蠶場ノ水質、水溫、潮水ノ疎通、並ニ水中ニ存在スル牡蠣餌料等何レモ牡蠣ノ附着、生長並ニ肉身肥滿ニツキテ重要ナル關係ヲ有スルヲ以テ此等養殖上基礎的研究ノ繼續中ナリ。

(ハ) 牡蠣異種ノ相互受精。まがき、けがき、いわがきノ三種ニツキテ受精能力ノ存否並ニ種ノ類縁關係ヲ知ラント欲シ、相互受精ヲ行ヒタルヲ以テ近ク其成績ヲ發表セントス。

(ニ) 蛤、蜆等二枚貝養殖試驗。本年度ハ都合ニヨリ之ヲ中止セリ。

以テ不得止本試驗ヲ施行スルコトヲ得サリキ。

(ロ) かはのり胞子附着ニ關スル試驗。本試驗ハ都合ニ依リ本年度中止シタリ。

三 製造試驗

(イ) 石花菜及寒天ニ於ケル硼酸ノ含有量並ニ定量法。石花菜及寒天ハ天然的ニ硼酸反應ヲ有スル事ヲ確メ次ニ石花菜及寒天中ノ硼酸定量法ニ就テ「グラツチング」氏法ヲ採用シ之ニ硫化水素除去ノ方法ヲ加味シ定量ヲ行ヒ其ノ含有量ヲ測定セシニ石花菜ハ其百瓦中平均二九・五九「ミリグラム」寒天ハ平均三三・四二含有セシ事ヲ知レリ別ニ水産講習所ニ於テ全然硼酸ヲ使用セスシテ製造セシ寒天ニモ一九・二四ヲ含メル事ヲ確メタリ。

(ロ) 鮭罐詰ニ及ボス溫度ノ影響。鮭水煮罐詰ヲ各種ノ異ル溫度ニ貯藏シ罐ノ外觀、内容ノ品位及成分上ニ及ボス影響ヲ檢セリ其結果ニ依レハ攝氏零

(ホ) 板甫牡蠣ノ養殖試驗。兵庫縣加古郡二見町ニ試驗場ヲ設ケ板甫牡蠣ノ生態的研究並ニ採苗試驗ヲ開始シタルニ稚貝ノ附着及ビ成長佳良ニシテ目下飼育試驗中ナリ。

(ヘ) 海魚養殖試驗。廣島縣豊田郡大長村ニ地ヲトシ養魚池ヲ設置シ目下海魚ノ蕃養及稚魚養成並ニ鯛ノ人工孵化試驗ヲ施行中ナリ。

四、魚病ノ研究

魚病ニ就テハ鯉、鰻、金魚ニ寄生スル「イカリムシ」ノ生態ニ付研究シ其一部ハ本所試驗報告第二十三卷第三冊ニ報告シ尙ホ其驅除方法ニツキ目下研究繼續中ナリ其他鼈ノ疾病ニ付目下研究中ナリ。

五、藻類養殖試驗

(イ) 海苔胞子附着ニ關スル試驗。あかめノ胞子ニ關スル試驗ハ昭和二年ニ於テハ昨年度ヨリモ發生一層尠ク遂ニ適當ノ材料ヲ得ルコト能ハサリシヲ

下二度以下ニ貯ヘタルモノハ打檢肉質、肉色、食味、液汁ノ色並ニ「アミン」及「アンモニヤ」「アミノ」酸含有量ノ上ニ變化ヲ來シ零下六度以下ニアリテハ罐ノ外觀ニ異狀ヲ來ス事ヲ認メタリ。

(ハ) 魚肉腐敗檢出ノ方法ニ關スル研究。魚肉腐敗ノ程度ヲ所謂肉眼鑑定法以外ニ腐敗生成物ノ含有量ニ依リ測定セントシ鮭ノ生活セシ場合ヨリ腐敗ニ至ル迄ノ含有量ノ増加ニ就キ研究セシニ「アンモニヤ」及「アミン」ノ含量ハ其變化特ニ顯著ニシテ肉百瓦ニ對シ其含有量二十「ミリグラム」ニ達スレハ已ニ初期腐敗ト認メ得ヘキ事ヲ確メタリ。

(ニ) 「アンカーキヤップ」塩殺菌法。米國ニ於テ一般ニ使用セラレツ、アル「アンカーキヤップ」塩殺菌加熱ニ高價ノ殺菌裝置ヲ要シ本邦ニ於テ之ヲ採用ニ困難ヲ感セシカ今回一種簡單ナル裝置ヲ利用シ低廉ニ殺菌ヲ行ヒ得セシメタリ。

(ホ) 本邦市販罐詰内細菌ニ關スル研究。約二百罐

ニ近キ各種ノ罐詰ニ付キ其含菌割合及細菌ノ種類ヲ研究中ニアリ。

(ハ) 腐敗油燐燐罐詰内ヨリ分離セシ細菌ニ關スル研究。某會社ニ於テ製造シ多數廢罐ヲ來セシ油燐燐罐詰ニ就キ研究セシニ胞子生成細菌ノ存在セシ事ヲ認メタルニヨリ之ヨリ分離ヲ行ヒ其細菌ノ性質ヲ調査セシ「*Bacillus Vulgatus* (Frügg) Trevisan」ニ近似セル事ヲ認メタリ尙ホ進ミテ罐詰製造工程トノ關係ニ就キ研究中ニアリ。

(ト) 海産動物油ノ檢定。前年度ニ引續キ海産動物油ニ就キ其性状ノ檢定ヲ行ヒツ、アリ。

(チ) 海産動物油ノ低温硬化試験。前年度ニ引續キ豫備的試験施行中ニアリ。

(リ) 海産動物油酸化速度ノ檢定。海産動物油ニ蛋白質及類似脂肪ノ共存スル場合ノ酸化速度ヲ檢定シツツアリ。

(ヌ) 脱脂試験。前年度ニ引續キ試験中。

(ル) 鹽藏試験。鹽藏用食鹽ノ成分ト製造工程中ニ於テ魚肉化學成分ノ變化及滲透度ノ關係且又經濟的用量ヲ明ニセン爲メ前年度ヨリ引續キ試験中ニアリ。

四 化學試験

(イ) 「プロタミン」ノ研究。前年度ニ引續キ新シキ「プロタミン」ヲ本邦産魚類ヨリ分離シ其研究ノ結果夫々名稱ヲ附シ些カ其ノ性質ヲ明ニセリ尙目下此方面ノ研究ニ從事シツ、アリ。

(ロ) 「ニユートクレイック」酸ノ研究。先年來ノ研究ノ續ニシテ目下「バチ」ノ「ニユートクレイック」酸ノ研究中ナリ。

(ハ) 水産食料品ノ化學的研究。數回報告セルカ之レ亦研究續行中ナリ。

(ニ) 水産哺乳動物ノ化學的研究。専ラ鯨ニ關シテ數次報告セルモ現今ハ之ト同時ニ他ノ哺乳動物ノ

夫等ト對照スルニ勉メ試験中ナリ。

(ホ) 水産動物ノ精子ノ化學的研究。既ニ屢々報告セルモノ、外魚類精囊中ニ存スル水溶性物質ノ研究ヲ始メ着々其ノ緒ニツキツ、アリ。

(ヘ) 水産動物ノ卵子ノ化學的研究。水産動物ノ精子ト相對應シテ化學的性質ノ闡明ヲ期シ此ノ方面ノ研究ヲ始メ既ニ「河鱒」ノ發育期間ノ化學的變化ノ第一報ヲ終リ次テ目下鱒ノ夫レヲ終リ又卵子ノ水溶性物質ノ研究ヲ「フグ」ニ就テ行ヒツ、アリ。

(ト) 水産動物ノ色素ノ研究。「ドラベラ」「アブリシア」「ウニ」等ノ色素ノ分離ニ着手シ既ニ前二者ニ於テハ粗製物數種ヲ得テ精密ナル研究ニ進ミツ、アリ。

(チ) 水産動物ノ肉蛋白質組成ノ比較。前年度ニ引續キ試驗中。

(リ) 肉蛋白質ノ營養價ニ關スル試験。前年度ニ引續キ本年度ハかに、「ロブスター」、牛、かつを等ノ罐

詰肉ニツキ試験中ナリ。

(ヌ) 罐詰原料トシテノ蛤、蜆ニ關スル化學的試験。已ニ産地及ヒ内臟、肉柱等各部分ニヨル鐵、硫黃等ノ含有量ノ比較ヲナセルカ引續キ季節ニヨル各成分ノ變移ニツキ調査中ナリ。

(ル) 鮭、鱒稚魚ノ飼育ニ關スル試験。前年度ニ引續キ左ノ項目ニツキ試験中ナリ。

一 成長度ト魚體成分トノ關係

一 魚體成分ニ及ホス日光ノ關係

一 餌料ト魚體成分トノ關係

(ヲ) 卵及ヒ稚魚ニ關スル研究。各地ニ於ケル鮭、鱒卵ノ孵化ヨリ稚魚ニ至ル期間ニ起ル生物化學的變化ニツキ研究中ナリ。

(ワ) 牡蠣ノ「グリコーゲン」ノ季節的變移試験。金澤養蠔場ヨリ毎月資料ヲ得テ分析中ナリ。

(カ) 水産動物ノ筋肉ノ自家消化ニ關スル研究。魚肉ノ自家消化ニ關シテハ既ニ其ノ一部ヲ報告セル

モ尙ホ更ニ各種ノ魚肉並ニ種々ノ水産動物ノ筋肉ニツキ研究中。

(ヨ) 魚肉ノ色素ニ關スル研究。鮭鱒類ノ筋肉ノ色素ニツキ研究中。

(タ) 水産動物ノ消化酵素ニ關スル研究。各種ノ水産動物ノ消化酵素ニツキ研究中。

五 漁船機械試驗

(イ) 漁船船型試驗。漁船ノ各種船型ニ對スル抵抗ヲ比較試驗シ其ノ船體ト之ニ据付クヘキ原動機ノ馬力トノ關係ヲ研究スルモノニシテ目下鮪延繩漁船ノ船型ニツキ試驗中ナリ。

(ロ) 木製漁船建造用木材規格試驗。木製漁船ノ建造ニ使用スヘキ木材中地方ノ規格ノ不明ナル材料ヲ使用セルモノアリテ漁船改良上支障ヲ來セル實情ニアリ本試驗ハ之等未調査材料ヲ試驗シテ規格ヲ明カナラシメントスルモノニシテ目下試驗材

料蒐集中ナリ。

(ハ) 罐詰殺菌釜試驗。蒸氣殺菌釜ノ加熱ノ理論ヲ考察シ電氣殺菌釜ニツキ研究中ナリ。

(ニ) 魚糧乾燥機試驗。魚糧乾燥機トシテ「カールニーゼン」式、「ミーキン」式等アリト雖モ未タ完全ナリト云フヘカラス依テ目下此種ノ乾燥ニツキ研究中ナリ。

附

一 編纂部

昭和二年九月以降編纂出版シタル試驗報告ハ第二十三卷第二冊乃至第五冊ニシテ其細目ハ卷末ニ記載セリ又海洋調査要報第三十七報乃至第四十報及海洋調査彙報第二卷ヲ刊行セリ。

二 試驗鑑定及設計等ノ依頼

本所試驗規則ニ依リ昭和二年九月以來取扱ヒタル件數左ノ如シ。

種 類	自昭和二年九月至昭和三年八月	件數
葦灰ノアルカリイオン濃度ト苛性曹達ノアルカリイオン濃度ノ比較試驗		一
古罐詰内容物分析		一
塗料試驗		一
輪光式浮標燈試驗		一
硫黄紙檢定		一
水壓式テンションメーター試驗		一
漁網染料試驗		一
相模地方ニ於ケル大謀網ノ構造並敷設方法ノ適否試驗		一
救命胴衣ノ適否試驗		一
海水ノアルカリ及石灰含有量分析檢定		一
罐詰用ニス檢定		一
白尼斯檢定		一
重油發動機試驗		一
マイハック指壓器發條試驗		一
蟹罐詰腐敗檢出試驗		一
ニス、エ式木材防腐劑分析		一
鮭油漬罐詰製造ニ關スル適當ナル方法試驗		一
人造絹絲工場廢水及湖水ノ化學的試驗		一
集魚電燈能力試驗		一
櫻桃シラップ罐詰内容物分析		一
計		二七

第四章 本所敷地建物及諸設備

第一節 本所敷地建物

創設以來新築増築又ハ改築等幾多ノ變遷ヲ經テ大正十二年度ニハ敷地一萬七千八百六十六坪建坪五千六百六十餘坪ナリシカ同年九月一日ノ大震大火ノ災害ニ罹リ完備セル諸建物ノ内四千六百十餘坪ハ鳥有ニ歸シ教室(物理教室、同實驗室、準基室、製圖室)化學試驗部、海洋調査部、冷蔵庫、機械實驗室、等ノ諸棟五百五十餘坪ヲ殘セリ之レカ應急トシテ大正十三年三月殘存建物ノ内改築等ヲ要スルモノヲ除キ二百五十餘坪ヲ修繕シ教室及實驗室實習室、事務室並ニ寄宿舎等一千八百餘坪ヲ新築セリ、尙復舊工事ニ就テハ十四年度ヨリ敷地ノ埋立ヲ施行シ爾來建物ノ復舊工事進捗中

第二節 諸設備

第一 船 艇

一 雲 鷹 丸

本船ハ鋼製二層重甲板三橋「パーク」型帆船ニシテ總噸數四百四十四噸ニアリ船尾樓及船首樓ヲ有シ三聯成表面冷汽機ノ補助機關ヲ備ヘ汽力平均速力九哩ナリ
本船ハ明治四十一年五月大阪鐵工所ニ於テ建造ニ著手シ同四十二年二月進水シ三月試運轉ヲナシ五月東京ニ廻航シ同月三十日ヨリ生徒ノ實習ニ供セリ其構造大要ハ本船ノ船尾樓ハ士官室、應接室、士官會食室及無線電信室ヨリ成リ學生室ハ四室ニシテ共ニ第二甲板上汽罐室圍壁ノ兩側ニ在リ各室ヲ通シテ四十人ヲ容ルヘク其前部ニ學生會食室兼讀書室アリ其隣室ニ點燈、無線電信並ニ冷蔵庫原動用トシ

テ百ポルト三百六十「アムペアアワー」ノ二次電池ヲ格納シ之レニ隣接シテ製氷能力一噸半ヲ有スル冷藏機關ヲ据ヘ同甲板下部ニ於ケル冷藏庫ヲ冷却スルノ設備ヲ有ス船首樓内ニハ蒸汽揚揚機ヲ備ヘ其兩舷ニ水夫長室生徒及水夫夫ノ浴室便所等アリ、第二甲板船首部ノ支水隔壁ノ後部ハ水夫室ニシテ二十二入ヲ容ルヘシ機關室ニハ三聯表面冷汽機一臺ト長九呎六吋徑十呎ノ主汽罐一箇並ニ無線電信用諸室及ヒ船内其他ノ燈火用トシテ發電機二臺ヲ備フ又汽機室内ニハ五噸蒸發機及三百「ガロン」蒸溜器ヲ備ヘテ海水ヨリ所用ノ淡水ヲ製スルノ用ニ供シ汽罐室ノ前部内側ハ石炭庫ニシテ其容積約百噸ナリ汽機室上部ニ蒸氣操舵機アリテ「フライイングブリツヂ」上ニ於テ操舵スルコトヲ得又船首部ニ探海燈ヲ備フ船艙ハ機關室前部ニアリ其一部ニ漁獲物ヨリ採取セル油約二十二噸ヲ貯フヘキ鐵製「タンク」四個ヲ備フ上甲板前橋後部ニ鐵製二重釜及鋼製冷却槽ヲ設ケテ採油ノ用ニ供シ尙船内鐵製製造ノ諸設備ヲ有ス舷外ニハ漁艇ヲ懸吊シ第二甲板上ニハ漁具一切ヲ格納スヘキ船庫ヲ有ス又電動測深機及「トムソン」式測深器連結採水器、轉倒寒暖計、閉塞自在「ブランクトンネツト」等ヲ新ニ設備シ、生徒ノ實習、漁業試驗ノ外、漁場及海洋調査等ノ使用ニ便セリ。

二 青 鵬 丸

本船ハ大正十四年六月九日陸軍省運輸部ヨリ保管轉換ヲ受ケタルモノニシテ大正十年六月三重縣度會郡大湊市川造船所ニ於テ進水シタ

ル二橋ケツチ型帆船ニシテ補助機關トシテ五十馬力ディーゼル發動機ヲ有シ長六十四呎幅十五呎五深六呎二總噸數三十二噸九八、登簿噸數九噸〇九ナリ。

三 蒼 鷹 丸

海洋調査船蒼鷹丸ハ大正十三年十月長崎市三菱造船所ニ於テ起工同十四年一月進水同年四月竣工セリ船體ハ鋼鐵製一層重構造ノ單暗車汽船ニシテ長サ一一二呎三吋巾二一呎三吋深サ一一二呎三吋總噸數二〇二噸三五主機關ハ純馬力三三〇「ズルザ」型「ディーゼルエンジン」ニシテ全速力ニ於ケル回轉數二三〇速力一〇哩三ナリ。其構造設備ノ大要ハ本船甲板下船首部ハ下級船員室ニ中央部ハ船庫並ニ機關室ニ船尾上級船員室ニ充ツ而シテ下級船員室ニハ二十四個ノ寢室ヲ設ケ船庫ハ最前部ヲ米藏庫並ニ魚艙トナシ其後部ハ船具庫漁具庫調査具庫等ニ區分シ、船尾上級船員室ノ周圍ニハ八個ノ寢室並ニ配膳室ヲ設ケ中央ヲ會食室トナス機關室ニハ主機關ノ他ニ三十五馬力並ニ六馬力ノ發電機ヲ供ヘ測深機揚揚機貨機等ノ運轉ニ供スル外百八十アンペアアワーノ容量ヲ有ス蓄電池ヲ備ヘ船内點燈用無線電信ノ豫備裝置トナスノ外動力ノ供給ヲナス甲板上機關室ノ前部ハ調査室トシ其前部ニ船長室無線電信室ヲ配置シ又此等諸室ノ直上ニ操舵室並ニ海圖室ヲ設置シ船尾上級船員室ノ甲板上ニハ炊事室便所並ニ浴室ヲ設ク海洋調査ニ使用スルケルビン測深機ヲ船長室前方左舷ニ又ルーカス式測深機ヲ左舷船尾ニ取付ケ測深探水ノ便ニ供スル

他採水器寒暖計ブランクトン採集網採泥器等調査ニ要スル各用具一切ヲ完備ス

其他トロール用ウキンチ、ガロース、ラインホーワイチ取付ケ且ツ底曳網延繩流網等各種ノ漁具ヲ備ヘ漁場並ニ魚族ノ探檢研究ニ便ス

第二 實習場。實驗場及試驗地

一 館山實習場

館山實習場ハ實習船ノ繫泊及出入ニ便ナル千葉縣安房郡館山ニ設ケ一般漁具、船具等ヲ備ヘ漁撈實習、氣象觀測及漁具ノ製作、設計修理等ノ實習ニ供ス本實習場ハ敷地、建物共從來借入レ使用セシモノナリシモ大正十一年度ニ於テ之ヲ買收シ尙別ニ實習室及寄宿舎等ノ新營ヲナシタリ

二 小田原實習場

小田原製造實習場ハ神奈川縣小田原町ニ設ケ明治三十三年四月起工シ同年八月竣工以來一定ノ期間生徒ヲシテ製造ノ技術練習ノ傍ラ自ラ經濟ヲ擔當シ企業ノ實際ニ練熟セシムル所トス

大正六年ニ至リ自働罐詰機械ヲ設置シ猶ホ同十年度講習部擴張ニ伴ヒ製罐工場及事務室ヲ増設セリ、次テ大正十二年九月一日ノ大震災ニ依リ教官室七坪五合ヲ除外全部倒壊シタルニヨリ直チニ復舊工事ニ着手シ十三年三月ニ至リ之ヲ完成シ十五年六月十日物置一棟(九坪)ヲ新築セリ

三 高島實驗場

千葉縣館山高島試驗場ハ鹹水産生物ニ就キテ其生理、發生、蕃殖ノ方法、人工孵化等ノ實驗ヲナサシメ以テ其一斑ニ通セシムルヲ主トシ又海洋ノ調査、浮游生物研究、氣象觀測等ニ從事セシム而シテ此等ノ目的ヲ達セシムル爲メニ孵化室活洲試驗室ヲ設ケ又氣象觀測室及寄宿舎ヲ附設セリ、孵化室ハ、桁行五間梁間三間ノ石造平家建ニシテ内部ヲ「タダキ」トシ小形ノ「アクリル」ヲ設ケテ魚貝類ノ習性其他ヲ研究スルノ便ニ供フ活洲ハ孵化室ノ四側ニ突出セル岩角ノ一部ヲ掘鑿シテ造リタルモノニシテ二個ヨリ成リ内一個ハ長サ四十八尺幅十五尺深サ十二尺他一個ハ長サ三十尺幅十二尺深サ九尺ニシテ幅二尺ノ階道ヲ設ケテ海水ノ循環ニ便ナラシメタリ

實驗室ハ桁行十間梁間四間半ノ木造平家建ニシテ内部ヲ二二分チ水槽ヲ設置シ海魚卵ノ孵化試驗用其他各種生物ノ研究ニ資セリ

氣象觀測室ハ二階建トシ總坪數十一坪ノ木造トス各種ノ觀測器械ヲ設備シテ實習及觀測ノ用ニ供シ海況ノ變化ト呼吸シテ其ノ水族ノ習性ニ及ホフ關係ヲ研究セントスルノ用ニ供セリ

寄宿舎ハ總建坪五十六坪ニ合五勾ノ木造二階建ニシテ階上ヲ「修養寢室」ニ充テ階下ヲ事務室、食堂トセリ元來同島ハ周圍約三町ノ官有禁伐林ニシテ寄宿舎ニ充ツヘキ人家ナキニヨリ此設備ヲ必要トセルナリ尙大正十一年度ニ於テ物置及便所ノ新營ヲナセリ

大正十二年九月一日大震災ノ節被害アリタル寄宿舎實驗室觀測室等

大正十三年三月迄ニ復舊工事を了シ其他ノ孵化室、生洲等ハ十四

年十二月ニ竣工セリ

四 木崎養魚試驗場

長野縣北安曇郡平村木崎湖畔ニ冷水性魚類養殖試驗ノ爲メ實驗室、孵化室、宿舍及養魚池等ヲ大正十一年度ニ於テ設置セリ

五 豊橋養魚試驗場

愛知縣渥美郡東豊田及神野新田ニ淡水魚養殖試驗並ニ生徒實習ノため大正十一年度ニ於テ設置シタルモ東豊田ノ試驗場ハ昭和二年六月之レヲ廢止シ神野新田ニ移轉合併セリ

六 大長養魚試驗場

廣島縣豊田郡大長村ニ海魚養殖試驗ノため大正十一年度ニ於テ設置セリ

七 二見養魚試驗場

兵庫縣加古郡二見村東二見ニ主トシテ板浦牡蠣養殖試驗ノため大正十一年度ニ於テ設置セリ

八 五井海苔蠟養殖試驗地

明治四十年以來千葉縣市原郡五井町地先海面十町歩ヲ區劃シあさくさノり養殖ノ試驗地トセリ又大正七年ニ於テ同地々先海面ニ牡蠣養殖試驗地ヲ設ケタリ

九 金澤養蠟試驗場

明治四十二年以來神奈川縣久良岐郡金澤灣内ニ牡蠣種付場ヲ設ケ牡蠣改良養殖試驗ヲ爲シ大正二年及三年ニ於テ更ニ夏島及金澤灣内ニ養蠟場、實入場ヲ増設シテ輸出向牡蠣養殖ノ目的ニ供シ尙昭和二年三月二十三日敷地一三一坪ヲ買収セリ

水産講習所敷地及建物坪數比較表

所	敷地		建物
	所有地	借入地	
本所	一六、七三、〇〇	三三、〇〇	二、六八、〇〇
館山實習場	二、九〇、〇〇	八、八一、四一	三六、〇〇
小田原實習場	一、〇〇、〇〇		二、四、四一
同 寄宿舎	一〇〇、〇〇		八、〇〇
木崎養魚試驗場	五、三三、〇〇		一八、〇〇
豊橋養魚試驗場	七、四三、〇〇		三、〇〇
二見養魚試驗場		一、〇、〇〇	七、〇〇
高島實驗場		二、六、一〇〇	一〇、〇〇
五井養殖試驗場		三、五、〇〇	一八、〇〇
金澤養蠟試驗場	一三、〇〇		三、〇〇
大長養魚試驗場	一、六四、〇〇	四、六三、四三	一三、〇〇
總 坪 數	三五、三四、〇〇	八、八一、四一	四、〇四、〇〇

第五章 圖書及標本

第一節 圖書及標本ニ關スル規程

第一 圖書標本委員會規程

明治四十五年四月二十三日

- 第一條 圖書標本委員會ハ左ノ事項ヲ審議ス
 - 一 圖書標本ニ關スル規則ノ制定及改廢ニ關スル件
 - 二 圖書標本ニ關シ所長ヨリ諮問ノ件
- 第二條 委員會ハ圖書標本委員ヲ以テ組織ス
- 第三條 委員ハ各科、課及教務掛職員ノ内各一名ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ所長之ヲ命シ委員長ハ委員中ノ首席者ヨリ所長之ヲ命ス
- 第四條 委員長ハ圖書標本委員會ノ議長トナリ其事務ヲ處理ス
- 第五條 圖書及標本主任ハ委員中ニ列席ス委員長ハ必要アリト認ムルトキハ其ノ他ノ本所職員ヲ列席セシムルコトヲ得
- 第六條 委員會ノ決議ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス
- 第七條 列席職員ハ決議ノ數ニ加ハラズ

第二 圖書保管規程

明治三十年六月

- 第一條 (沿革) 明治三二年三月、同三八年八月改正
- 第二條 本所ノ圖書ハ圖書掛圖書取扱主任ニ於テ之ヲ保管ス
- 第三條 圖書ハ各部門ヲ別チ番號ヲ附シ點檢ノ便ニ供スヘシ
- 第四條 圖書原簿ヲ製シ之ニ書名編著者名部門番號冊數ヲ記載スヘシ
- 第五條 圖書出納簿ヲ製シ出入ヲ記載スヘシ
- 第六條 圖書ハ毎年一回若ハ二回原簿ト對照シ之カ點檢ヲ爲スヘシ
- 第七條 點檢ノ際ハ圖書ノ補綴又ハ曝涼ヲ爲スヘシ
- 第八條 寄贈ニ係ル圖書ハ目錄ヲ製シ所長ニ供覽シ保存スヘキモノト否ラサルモノトヲ定メ且謝狀ヲ送ルヘキモノハ其手續ヲ爲スヘシ
- 第九條 雜誌及報告書類ニシテ保存ヲ要スルモノハ圖書同一ニ保管スヘシ
- 第十條 各部科掛ニ平常備ヘ置クヘキ圖書ハ部長又ハ主任ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ
- 第十一條 圖書掛ニ借用證書ヲ差出スヘシ
- 第十二條 前條備付ノ圖書ハ時々取扱主任ノ點檢ヲ受クヘシ
- 第十三條 圖書斷破シテ使用ニ堪ヘサルモノハ庶務掛ヘ引續キ廢棄ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十四條 他官廳ヨリ借入タル圖書ハ圖書掛ニ保管シ職員ニ貸付ス

ル場合ハ圖書借覽規程ニ從フ

第三 圖書借覽規程

明治三十六年六月

(沿革) 明治三十二年三月、同三十八年八月改正

- 第一條 圖書ハ本所職員及囑託員ニ限リ借覽ヲ許ス
但シ職員囑託員其資格ヲ失ヒタルトキハ五日以内ニ借用圖書ヲ返納セシム
- 第二條 圖書ヲ借覽セントスルモノハ書名、部門、番號、冊數ヲ記シ官職氏名ヲ署シ捺印ノ上各部長又ハ各科掛主任ノ檢印ヲ受ケタル規定ノ借用證ヲ圖書取扱主任ニ差出スヘシ
- 第三條 圖書借用期限ハ通常三十日トス尙ホ繼續セントスルトキハ各部長又ハ各科、掛主任ノ承認ヲ得タル上圖書掛ヘ借用延期ノ請求ヲ爲シ圖書取扱主任ノ承認及檢閱ヲ受クヘシ
- 第四條 平常各部又ハ各科掛ニ備置クヘキ圖書ハ各部長又ハ主任ヨリ證書ヲ差出シ六箇月ヲ一期トシ借用スルコトヲ得
- 第五條 前條圖書ハ所外ニ携出スルコトヲ許サス
但シ所長ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス
- 第六條 補綴又ハ曝涼其他圖書整理ノ爲メ一時各部、科、掛備付ケノ圖書ヲ返納セシムルコトアルヘシ
- 第七條 貴重ノ圖書辭書類ハ閱覽室外ニ携出ヲ許サス
但シ閱覽ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第八條 他處ヨリ圖書借用ノ申込アルトキハ圖書取扱主任ハ所長ヘ

六四

稟議ノ上許可ヲ定ムヘシ

第九條 他處ヨリ圖書借用ノ必要アルトキハ圖書取扱主任ニ於テ所長ヘ稟議ノ上借入及返還ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 借用者圖書ヲ返納スルトキハ同時ニ本人ニ證書ヲ返戻スヘシ

第十一條 借用ノ圖書ヲ汚損又ハ紛失シタルトキハ修繕ヲ加ヘ又ハ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシメ若クハ相當代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十二條 借用者ニシテ前條ノ義務ヲ果ササル間ハ圖書ノ借覽ヲ許サス

第二節 圖書及標本ノ現況

本所々藏ノ圖書ハ大正十二年九月一日ノ震災ノ爲メ大部分ヲ燒失セリ然レトモ海洋調査部、水産化學試驗部及本所々屬ノ各試驗場、雲鷹丸、天鷗丸ニ存在セシモノ並ニ大正十二年九月以降購入セシモノ寄贈ヲ受ケシモノ及交換外國雜誌(卷末刊行圖書目錄、交換雜誌參照)ヲ合スレハ其現在數左ノ如シ

(昭和三年八月末現在)

外國書	三、三二七部	五、六五〇冊
內國書	八五九部	一、二八〇冊
內國殘	一、八四八部	三、八五七冊
內國殘	四二五部	五七二冊

歐文雜誌

和文新聞及雜誌

掛圖

寫眞

交換外國雜誌

八二種

一八種

四三八枚

三五枚

八一種

本所職員ノ研究調査ニ係ル論文報告ハ隨時刊行シテ之ヲ水産講習所試驗報告ト題シ昭和二年度ニ於テ第二十三卷第二、三、四、五冊ヲ刊行シ(卷末刊行圖書目錄參照)尙海洋調査要報第三十七報乃至第四十報及海洋調査彙報第二卷第一冊ヲ刊行セリ標本ハ大正十二年九月一日震災ノ爲メ全部ヲ燒失シ未ダ復舊ノ域ニ達セス

第六章 在外研究員

第一節 在外研究員規定

大正十一年一月二十一日
勅令 第六六號

- 第一條 主管大臣ハ其ノ主管事故ニ關シ須要ノ學術技術ヲ研究セシムル爲メ在外研究員ヲ外國ニ派遣スルコトヲ得
- 第二條 在外研究員ハ選拔ニ依リ主管大臣之ヲ命ス
- 第三條 在外研究員ノ研究事項、在留期間、在留期間、其他必要ナル事項ハ主管大臣之ヲ指定ス
- 第四條 在外研究員ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ學資金巡歷手當及旅

費ヲ支給ス

特別ノ事由アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ前項ニ定ムルモノノ外特別手當ヲ支給スルコトヲ得

第五條 學資金及巡歷手當ハ別表ニ依ル但シ官吏ニ非サル者ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別表ニ準シテ之ヲ定ム

第六條 學資金ハ最初ノ在留地到着ノ翌日ヨリ歸朝ノ途ニ就ク前日迄月割及日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第七條 在留期間轉移ノ場合ニ於テハ前在留地ヲ出發シタル日ノ翌日ヨリ後在留地ニ付定メタル學資金ヲ支給ス

第八條 各地ヲ巡歷研究スル場合ニ於テハ旅費ヲ支給セシ巡歷手當ヲ支給ス

第九條 旅費ハ本邦在留期間往返ノ場合又ハ在留期間轉移ノ場合ニ於テ外國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料及支度料ヲ支給ス

第十條 外國在留中特別ノ任務ニ從事スル場合ニ於テハ外國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第十一條 前項ノ規定ニ依リ旅費ヲ支給スル場合ニ於テハ學資金及巡歷手當ハ之ヲ支給セス

第十二條 外國旅費規則中死亡手當ニ關スル規定ハ在外研究員ニ付之ヲ準用ス

第十三條 學資金及巡歷手當ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得但シ學資金ニ付テハ六月分ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 在外研究員ヲ命セラレタル官吏ハ本邦出發ノ日ヨリ歸朝

六五

ノ日迄之ヲ定員外ト爲スコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ定員外トナリタル者ニハ俸給ヲ支給セス但シ時
 宜ニ依リ其ノ俸給ノ三分ノ二以内ヲ支給スルコトヲ得
 第十三條 特別ノ事情アルトキハ官吏ニ非スシテ在外研究員ヲ命セ
 ラレタル者ニ年額二千五百圓以内ノ家族手當ヲ支給スルコトヲ得
 前項ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ定員外トナリタル在外研究
 員ニ之ヲ準用ス但シ同條第二項ノ規定ニ依リ受ケル金額ト家族手
 當ノ額ト合シテ俸給ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 在外研究員ハ歸朝ノ日ヨリ外國在留期間ノ二倍ニ相當ス
 ル期間主管大臣ノ指定シタル職務ニ従事スル義務ヲ負フモノトス
 但シ歸朝チナサシメスシテ直ニ外國ニ在勤チ命シタル場合ニ於テ
 ハ其ノ期間ハ在勤チ命シタル日ヨリ之ヲ起算ス
 第十五條 在外研究員主管大臣ノ命ニ違背シタルトキ又ハ成業ノ目
 途ナキニ至リタルトキハ之ヲ免スルコトヲ得

第十六條 第十四條ノ義務ヲ履行セス又ハ前條ノ規定ニ依リ研究員
 ナラズラレタル者ノ受ケタル學資金巡歴手當特別手當及旅費ハ之
 ナ償還セシム但シ特別ノ事情アルトキハ其全部又ハ一部ヲ免除ス
 ルコトヲ得
 第十七條 特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ離キ場合ニ於テハ所管大臣
 大藏大臣ト協議シテ學資金及巡歴手當ニ關シ別段ノ定ヲ爲スコト
 ヲ得

第十八條 本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣
 ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテ

ハ樺太廳長官之ヲ行フ
 附 則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 (以下略ス)

**第二節 戰時事變ノ際ニ於ケル
 文部省海外留學生等定
 員ニ關スル勅令**

大正三年十月七日
 勅令第二百三十號

在官者ニシテ文部省外國留學生又ハ水産講習所在外
 研究生ヲ命セラレタルモノ戰時事變ノ爲留學國ニ在
 留スルコト能ハスシテ歸朝シタルトキ又ハ本邦ヲ出
 發スルコト能ハサル場合ニ於テ定員ヲ超過スルトキ
 ハ其ノ留學殘期間又ハ留學期間ニ相當スル期間之ヲ
 定員外ニ置クコトヲ得
 前項ノ規程ニ依リ定員外ニ置キタル者ハ本務ニ從事

セシメ學術技藝ヲ研究セシムルコトヲ得
 第一項ノ場合ニハ豫算ノ範圍内ニ於テ俸給ノ全部ヲ
 支給ス

第三節 在外研究員
 在外研究員規程及在外研究員規程ニ依リ海外ニ派遣
 シタル者左ノ如シ

研究事項	派遣期間	官名	氏名
獨逸國ニ於ケル水産養殖法ノ研究	自明治四〇、一一、二二至 自同治四二、一一、二七	技手	日暮忠
英國及諾威國ニ於テ漁撈法ノ研究	自明治四二、一一、三〇至 自同治四四、一一、三〇	技手	小瀬次郎
英國ニ於テ水産食用品製造法研究	自明治四四、一一、三一至 自同治四六、一一、三一	技手	小野辰次郎
獨逸國及諾威國ニ於テ水理生物學研究	自明治四三、七、八一至 自同治四五、七、八一	技手	丸川久俊
米英佛國ニ於テ貝類其他鹹水魚養殖研究	自大正三、元、一八、二〇至 自同大正三、元、二〇、二四	技師	妹尾秀實
獨逸國ニ於ケル生理其他食品及油蠟 等ニ關スル事項並生理化學ノ研究	自大正九、五、七、二、四六至 自同大正九、五、七、二、四六	技師	山川洵
追加 北米合衆國ニ於テ前記研究事項ノ外國國 食物條例實施方法ノ研究	自大正一〇、八、一一、一〇、三一 自同大正一〇、八、一一、一〇、三一	技手	關根磯吉

獨逸國ニ於テ水産ニ關スル發生學及生存統計學研究
 米國ニ於テ水産ニ關スル發生學及生存統計學研究
 米國ニ於テ食品化學並ニ有機化學ノ研究
 獨逸國ニ於テ水産製造化學ノ研究

至自同大正	至自同大正	至自同大正	至自同大正
三、一、二一七	五、四、一六〇	九、七、一〇	三、一、一〇
教授	技師	教授	教授
木村金太郎	星野三郎	寺尾新	山本祥吉

六八

第七章 生徒

第一節 在學生徒 (三百二十二名)

第一 生徒氏名

漁撈科(百二十七名)
 第四學年 (二十二名)
 市村 要山口
 新原宗路 鹿兒島
 神崎 隆佐賀
 井上彌太郎 兵庫
 小川義一 山梨
 高桑勝次 東京

成澤不二男 山形
 上野卓三 廣島
 山崎竹治 岡山
 八代喜代岐 阜
 松澤幸長 野
 赤塚紳新 湯
 宮本武德 愛知
 鄧騰裕 支那
 張榮昌 支那

中島瀧藏 佐賀
 鶴澤久則 靜岡
 山下行雄 兵庫
 谷島吉三郎 茨城
 松本住友 岡山
 澤田都次 群馬
 李明哲 朝鮮
 張榮昌 支那

伊藤喜代作 長崎
 井山鞞雄 熊本
 時田正作 埼玉
 富澤武雄 福島
 川上三千雄 茨城
 高橋廣太 長崎
 種市良正 青森
 鶴田三郎 神奈川
 上田正喜 東京
 小出勳男 東京
 小久保政雄 東京
 江崎實熊 熊本
 在原千秋 千葉
 三井所四郎 佐賀
 森田未歲 東京
 角南貞雄 岡山
 陳維風 支那

伊地知 勇 鹿兒島
 原田勝美 靜岡
 富岡三郎 群馬
 折原丈男 神奈川
 吉川淳長 野
 高山重嶺 東京
 竹田繁夫 奈良
 堤源一 福岡
 松尾博 埼玉
 小林格 新潟
 近藤仁三郎 新潟
 勅使河原實 群馬
 安藤秀賢 香川
 本部真之 京都
 瀬戸武熊 本
 黃文 支那
 巫忠遠 支那

伊澤義一郎 栃木
 蓬萊喬兵庫
 富田正愛 知
 大衡信三 岩手
 加藤忠臣 宮城
 神山忠雄 埼玉
 吉村勇 宮城
 丹下稔愛 媛
 辻尙佐 賀
 永野和雄 長崎
 黒須時夫 東京
 山口九州男 佐賀
 寺島熊男 福岡
 有井重信 山口
 北島岬 福岡
 石黒庚戌 茨城
 豐田正謙 秋田
 李秉綱 朝鮮
 渡邊享 山口
 金子陸雄 神奈川
 横尾保 佐賀
 武田文坪 東京
 辻野勇太郎 東京
 永井敏 茨城
 上田哲夫 富山
 山田純三郎 熊本
 福田政信 香川
 栗野幸吉 山形
 酒向昇 岐阜
 木村喜次郎 愛知

森 巳太郎 福岡
關谷治郎 神奈川
三木俊介 兵庫
柴崎 實熊本
仙波林三 栃木
菅谷 久 東京
白山 凡 和歌山
本村嘉雄 宮崎
鈴木 薰 德島
陳炳 耀 支那

第一學年 (三十六名)

市島信郷 東京
半谷武八 福島
西山惣平 埼玉
富永 弘 茨城
伊古田憲三 東京
大木 壯 山口
新美廣秋 愛知
西川良藏 東京
小川重遠 三重
加藤康治 新潟
加藤舜郎 廣島
德島喜知之 和歌山
富永 弘 茨城
伊古田憲三 東京
大木 壯 山口

第四學年 (十九名)

長 豐次 新潟
加藤 坦 神奈川
加藤 祐三 埼玉
金子 尙 群馬
田島喜市 新潟
中村 勝 東京
宇賀 明 香川
加藤 祐三 埼玉
金子 尙 群馬
田島喜市 新潟
中村 勝 東京
宇賀 明 香川

加藤 祐三 埼玉
金子 尙 群馬
田島喜市 新潟
中村 勝 東京
宇賀 明 香川
高田啓次 京都
吉富和吉 東京
野口恭夫 岐阜
日下部誠一 埼玉
松根約郎 東京
楠原廣吉 千葉
國枝 滋 岐阜
松本 勳 新潟
廣瀨郁郎 愛知
隅野 勇 京都

龜本太郎 廣島
吉富和吉 東京
野口恭夫 岐阜
日下部誠一 埼玉
松根約郎 東京
楠原廣吉 千葉
國枝 滋 岐阜
松本 勳 新潟
廣瀨郁郎 愛知
隅野 勇 京都

高田啓次 京都
吉富和吉 東京
野口恭夫 岐阜
日下部誠一 埼玉
松根約郎 東京
楠原廣吉 千葉
國枝 滋 岐阜
松本 勳 新潟
廣瀨郁郎 愛知
隅野 勇 京都

土屋小一 靜岡
成富信男 佐賀
日下部誠一 埼玉
松根約郎 東京
楠原廣吉 千葉
國枝 滋 岐阜
松本 勳 新潟
廣瀨郁郎 愛知
隅野 勇 京都

長瀬三郎 愛知
村田重昂 鹿兒島
古賀 新 福岡
廣瀨郁郎 愛知
隅野 勇 京都

裏辻公博 東京
牧 重 愛知
古賀 新 福岡
廣瀨郁郎 愛知
隅野 勇 京都

小林 正熊 熊本
幸田洋三 靜岡
砂原春紀 廣島
隅野 勇 京都

新井 準千 千葉
安西敏雄 東京
佐野 淨平 山梨
隅野 勇 京都

佐藤 極兵 庫
菊池五郎 栃木
佐野 淨平 山梨
隅野 勇 京都

第三學年 (三十名)

池田幸作 東京
石井義臣 廣島
今西俊雄 奈良
春元文雄 大阪
馬場良助 東京
得田助雄 石川
濱田壽郎 大阪
濱田重行 廣島
土信田章三郎 東京
大塚四郎 茨城
二宮金治郎 埼玉
德田三郎 石川
和田英夫 岡山
米田繁三 廣島
加藤武夫 東京
加藤正具 神奈川
由水平藏 東京
高木達雄 東京
金子量作 新潟
谷口宗儀 宮崎
田治米 隆兵 庫
長田菅男 長野
高橋福治 山形
高野正三郎 埼玉
名嘉元 岩太郎 沖繩
鶴澤利彦 神奈川
團野新一 東京
中村敏郎 岩手
黒田 栢雄 兵庫
山本三郎 兵庫
中村新一 山形
上村秀雄 香川
舟木好右衛門 福島
今野信忠 福島
内田一郎 東京
郡司重彦 山口
在田 盛一 東京
齋藤一雄 青森
山村彌太郎 福島
松枝萬吉 佐賀
齋藤米次郎 東京
齋藤治郎左衛門 靜岡
小林利章 群馬
小島哲郎 石川
佐藤兼一郎 島根
佐々木 蔚 廣島
秋艸慶次 東京
坂部義夫 愛知
木村千代男 廣島
木俣正夫 長野
白石友義 山口
遠藤敏夫 東京
水谷邦夫 岐阜
三浦 新 東京
關口得郎 埼玉
未永保藏 宮城
杉浦義雄 東京
安 鎮 朝鮮
崔 瑞 日 朝鮮
吉 恒 鎮 朝鮮

第二學年 (三十二名)

犬塚信夫 東京
犬丸 芳 廣島
井岡 勇 千葉
新村大三郎 長野

第一學年 (三十一名)

西嘉市佐賀 外村達三 滋賀
 大橋一郎 東京 大須賀四郎 福島
 小河弘 大阪 渡邊昇 大分
 加藤勇吉 愛媛 川本照雄 東京
 田所豐太郎 高知 角田道郎 福島
 永井隆三 廣島 長尾浩一 京都
 永田憲一郎 岡山 野口榮三郎 埼玉
 野澤元長 長野 矢野孝 東京
 向達光次郎 埼玉 秋元英男 東京
 蘆川榮一 東京 里見武雄 京都
 水島幸一郎 東京 峯村信一 東京
 見山泉 廣島 進藤正雄 廣島
 廣野幸雄 東京 關根宗三 埼玉
 鈴木榮一 埼玉 鈴木千藏 東京
 林圭元 朝鮮

伊藤秀男 東京 稻並芳幸 東京
 林茂樹 廣島 多田稔 京都
 竹之内彦四郎 東京 村上二郎 兵庫
 黒田克彦 兵庫 久納勝太郎 岐阜
 久木田寛信 鹿兒島 矢野瀧雄 福岡
 山本孝治 東京 福岡美省 東京
 兒玉利一 兵庫 阪本喜代松 兵庫
 白石義晃 愛知 清水定雄 兵庫
 鈴木權次郎 山形 井澤勝彌 山形
 五十嵐徹夫 群馬 東條鐵男 德島
 石井源太郎 群馬 渡邊一 愛媛
 若山貞三 岩手 川上四郎 東京
 和田喜藏 高知 村山武佐賀
 竹原正二 静岡 安成一 山口
 倉田功 茨城 朝隈達也 鹿兒島
 松本豊 東京

養殖科 (七十二名)
 第四學年 (十七名)

第三學年 (十七名)

第二學年 (二十名)

齊藤宗一 長崎 水野六郎 東京
 鹽谷政四郎 新潟 馬場駿山 梨
 石丸惇次 岐阜 保科利一 茨城
 細田正美 長野 加藤精一 東京
 小野茂夫 福岡 坪井光治 山口
 横田繁雄 愛媛 宇野亨一 岐阜
 中村秀也 京都 草野慎一 三重
 黒沼勝造 東京 古幡一夫 長野
 山村牧夫 長崎 三輪林二郎 静岡
 般坂義郎 岐阜 茂木喜一郎 群馬
 平山繼男 静岡 全炳哲 朝鮮
 鈴木里司 長野 井上義雄 埼玉
 春木克己 三重 大木松次 埼玉
 大島忠次 佐賀 岡伯明 山梨

二 遠洋漁業科 (六名)

加藤薰 愛知 休學 吉島代助 長崎
 高山活夫 兵庫 永田格郎 佐賀
 野口博佐賀 山田榮次 東京
 山本精二 兵庫 松井實 岐阜
 天田德太郎 栃木 三浦五郎 宮城
 鹽井幸郎 三重 平野義見 三重

三 研究科

仁平宣威 茨城 熊凝武 晴奈良
 白鳥健壽 宮城 及川英雄 東京
 川崎洛三 廣島 安藤喜平 埼玉
 休學
 矢田操 鳥取 安藤伊太郎 香川
 下村義德 茨城 下村七太郎 滋賀
 森谷榮造 茨城

四 別科 (淡水養魚專修五名)

區 海 南 西	區 海 內	區 海
德高宮沖鹿熊佐長福 兒	大兵香岡廣愛山大	秋山新石富
鳥知崎繩島本賀崎岡	阪庫川山島媛口分	田形湯川山
一 一 二 二 一	二 一	一
一 一 三 一 三	一 一 一 二	一 一
一 三 一 二 一	一 一	三
一 二	二 二 一 一	一 一
一 一	一 一 三 一 一	
一 一	二 一 二 二	二 一 二
一 一	三 一 四	一
一	一 二 一	三
三 一	二	一
一 一	一 一	
一 一 一	一 一	一 一
一 一	五 一	一
二二三一六六三六七	三五四五五四八一	二六九三一
	一	
	一	
二二三一六六三六七	三五五五五四八一	二六九三一

七五

北	區 海 東	別 區	
		道	府
福京鳥島	青岩宮福茨千東神靜愛三和	別	道
井都取根	森手城島城葉京川岡知重山	府	縣
		學	種
		年	別
二	一 一 一 五 一 二 三 一 二	學	漁
	一 一 二 四 二 二	年	撈
一	一 一 一 一 五 二 一	學	科
	一 一 一 一	年	本
二	二 一 九	學	製
	一 一 一 六 一 一	年	造
一	一 二 一 九 一 一	學	科
一	一 三 一	年	科
	一 一 一 一 三	學	養
一	一 一 二 二 一	年	殖
	一 一 一 三 一	學	科
一	一 五 一	年	科
一 八 一	二 三 三 七 八 四 三 七 八 〇 五 二	計	合
	一 一 一	科	業
		業	漁
		科	洋
		科	遠
		科	究
		科	研
一	二	科	別
一 八 一 一	二 三 四 七 一 四 四 七 八 〇 五 二	總	計

第二 在學生徒府縣別

七四

合 計	外 國	外 區										道北海			
		支 那	太 灣	鮮 野	長 野	岐 野	滋 野	山 梨	奈 良	栃 木	群 馬		埼 玉		
三六	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三五	三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二二	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三一	六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六一	六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三二	六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第二節 卒業業者

第一 卒業業者氏名 (○ハ優等卒業者×ハ死亡者)

一本 科

(一) 漁撈科

四月(十三名)

明治三十一年第一回卒業

家入 四直 福岡
 楠本 猪太郎 熊本
 加藤 勢三 三重

(舊名小市)

龜井 順一 山口
 南摩 紀廣 東京
 長友 茂三 宮崎
 武藤 禮二 宮城

明治三十二年第二回卒業

石野 敬之 千葉
 大庭 弘雅 福岡
 大谷 正猛 高知

高橋 潤二 岡山
 X山下 節治 長崎
 矢野 新吉 熊本
 松崎 彌一 鹿兒島

四月(十二名)

明治三十三年第三回卒業

X吉永 貴八郎 長崎

田中 仁吉 島根
 田谷 英石 川

内田 治三 山口
 村田 乙三 東京
 X福田 久楠 長崎
 木村 廣三 石川

古田 正知 岐阜
 小林 音八 新潟
 ○坂本 庄太郎 佐賀
 (舊名一郎) 佐々木 孝太郎 廣島

津田 美津彦 福岡
 ○中村 嘉壽 鹿兒島

庄司 興一 石川
 菅谷 毅 茨城

X宮下 知一 東京
 X下國 冲助 北海道
 (舊姓茂文) 樋口 律太郎 長崎
 森田 忠三 秋田

久保 澤 豊青 森
 X松田 林 宮崎

小金丸増次郎 福岡
小島才一 神奈川

×小木原元吉 鹿兒島
森 藏助 鹿兒島

×須田正治 山形

明治三十四年第四回卒業

四月(八名)
石川伸治 石川
○本間平八 山形

長内泰助 岩手
大川辰藏 兵庫
松尾秀夫 長崎

前田春水 宮城
荒 卯忠 福島
喜多山昇來 愛媛

明治三十五年第五回卒業

四月(五名)
額田喜一 香川

小島省吾 石川
佐藤正孝 山形

日高 瑞宮 崎
元木淑人 徳島

明治三十六年第六回卒業

七月(七名)
稻見彌一郎 北海道

×岩田 雄 京都
内田四郎七 福井

黒木四太 福岡
×山田 廣次 福岡

明治三十七年第七回卒業

七月(十二名)
堀 宏 新潟
渡邊 定助 愛知
×渡邊 理一 東京

寛 多記 茨城
田中榮定 長崎
中島昌二 廣島
中島秀男 島根

長井 實吾 新潟
×山岸 留之助 北海道
小松重利 高知
美代清信 鹿兒島

明治三十八年第八回卒業

七月(十三名)
伊藤 朋 愛知
岩本千代馬 高知
×林田 甚八 長崎

堀江英一 廣島
×川口 謙一 岐阜
×川添友志 鹿兒島
南部 寛 福井

×村上 崇 宮城
上枝平五郎 香川
久保雷之助 愛媛
山根左中 島根

明治三十九年第九回卒業

七月(十二名)
登坂高三 山形
×和田美徳 宮崎
鎌田武造 青森

笠松彌一 東京
河野光三 山口
田中 登三 三重
×中村源一 鹿兒島

奥津 興美 群馬
山田純太郎 東京
橋川 章 宮城
榎本 弾正 香川

明治四十年第十回卒業

七月(十五名)
○芳賀奈七郎 岩手
秦 牛兵衛 東京
東郷 保一 宮城
小川幸之進 岡山

長田 景貞 鹿兒島
×川島 信一 廣島
中北 靜 岐阜
村山 吉助 山形
村岡 實一 山口

×野間口 兼美 鹿兒島
國司 浩助 山口
熊田 頭四郎 栃木
×小崎 彰 宮城
安達 誠三 石川

明治四十一年第十一回卒業

十月(十七名)
松金 佛治 茨城
馬場 駒雄 岡山
新宅 定一 廣島

×飛山 信治 新潟
×渡邊 康介 愛知
×河村 常一 廣島
金子 常太郎 岩手

吉田 義男 長崎
高山 伊太郎 大分
竹内 仲治 長野
村上 寅一 愛媛

九月(三名)
水津和秀男 廣島
長友 寛 宮崎
×柳 悦多 東京
秋山 實千 葉

植木 藍吉 兵庫
福野 久松 石川
天野 壯助 愛知
木下 信資 鳥取

杉浦 保吉 埼玉

水暮 彌七 群馬
水間 春吉 徳島

×杉江 謙治 石川

宮田 光 京都
關根 磯吉 東京

宮脇伊太郎 鹿兒島

明治四十二年第十二回卒業

七月(九名)

奥村伊三郎 滋賀
金刺琢磨 香川
横田 壯 福島
×吉田定次郎 鹿兒島
武富榮一 佐賀

辻 志耶 栃木
明山保次郎 兵庫
木下辰雄 熊本
三浦定之助 山形
岩本清太郎 鳥取

明治四十三年第十三回卒業

七月(十五名)

伊吹群作 福井
濱田五六 廣島
新國逸夫 新潟
細川可也 栃木
富永盛治郎 福島

岡本 曉 山口
横山 將來 石川
竹本正文 東京
竹田重雄 静岡
長棟 暉友 鳥取
能美猪男武 福岡

明治四十四年第十四回卒業

七月(十七名)

石原重耶 熊本
布目 孜 石川
大塚三平 茨城

高橋 照文 千葉
×高木 繁春 東京
×牛山 美廣 長野
山田 橋一 愛媛

八〇

新井藤一郎 茨城

○齊藤 齊 福島
○養田 静夫 鹿兒島
白井勝三郎 茨城
日比義三 岐阜

加藤 平吉 山形
後藤 榮助 香川
秋田 榮治 東京
木村 榮 鳥取
木村 成松 福井

水月川 暹一 廣島
×宮崎 盛長 崎
三浦 正秋 田
清水 隆 山口

(修業證書) 林元 瓦支那
(修業證書) 李士 支那
九月(十二名) 林卯 吉大阪

明治四十五年、大正元年第十五回卒業

七月(十二名)

石井 文吉 東京
(舊姓大場) 飯塚 哲夫 宮城
○飯塚 哲夫 宮城
○戸井田 二郎 熊本
×神山 拾吉 岐阜
八木三千彦 鹿兒島

越智 章 静岡
田中耕之助 東京
辻 知一 長崎
上野 省三 山梨

大正二年第十六回卒業

七月(十名)

○飯山 太平 茨城
濱崎 末長 高知
吉安 新次 兵庫
田面 欽次 兵庫
松田 鶴太郎 福岡
小安 正三 東京

小林 敏行 東京
宮本 義永 茨城
島田 儀三郎 熊本
○村山 敏三 福島
九月(十一名) 本田 光吉 愛媛
阿本 重治 愛知

大正三年第十七回卒業

×黒野 元憲 東京
山本 静一 愛媛
松本 修二 兵庫
小林 章之 埼玉

(舊姓山本) 須藤 三策 新潟
九月(九名) 飯田 典兵衛 東京
丹羽 六一 岐阜
萬城 忠男 石川
國分 友海 鹿兒島

高柳 繁次郎 群馬
塚崎 謙吉 秋田
中川 甚藏 東京
山口 慶四郎 群馬
馬上 福壽 福島
松尾 我何人 長崎
永福 虎 鹿兒島

青木 貞治 北海道
佐藤 敬吉 山形
御厨 保太郎 長崎

小塚 銀八 愛知
×照井 賢三 岩手
水野 均治 愛知
×島田 喜一 静岡
×莊司 勇 山形

三輪 源造 岡山
久富 元長 崎
十月(二名) 小河 龍太郎 福岡

八一

七月(九名)

○服部愛之助 大阪
原田健兒 熊本
本間久四郎 新潟
德光外治 石川
梅本儀助 福岡
野崎民平 三重

九月(九名)

山田勝衛 長野
前田英二 新潟
莊得一 岡山
飯沼壽 東京
林準二 東京
大村道一 兵庫

十月(二名)

谷口武三 岐阜
柳井拾吉 東京
×佐藤成美 和歌山
佐々木孝造 京城
○桐本富次 和歌山
岸田十雄 岡山

十一月(二名)

沼野御吉 新潟
中村吉治 長野
重田瑞穂 兵庫

七月(十七名)

石崎賢三郎 愛媛
岡本正一 静岡
渡邊六造 山形
龜田精一 島根
吉田秀一 東京
田代正治 新潟
津田守規 福岡
中山琢三 福岡

九月(十名)

栗田要吉 京都
○山田盛雄 福岡
山本德愛 福岡
合原一福 岡山
小松和勝 熊本
旭藤陽三 石川
齋藤陽三 東京
白石賢三郎 埼玉
李炫國 朝鮮

九月(十名)

家坂孝平 新潟
高橋千里 長崎
×浦山精一 静岡
日下部彦次郎 兵庫
山井隆亮 栃木
峰辰三 長崎
森村共正 石川
桃田利惣 新潟

十月(一名)

仙波平馬 栃木
×進 藤岡

十二月(二名)

村上正男 愛媛
淵山貞長 崎

七月(九名)

岡島清廣 島
尾藤信正 熊本

大正五年第十九回卒業

金村正巳 山形
雁部松三郎 宮城
×谷村豊吉 高知

九月(三名)

須貝 實山 形
菊部明七 栃木

三月(十七名)

吉田春吉 東京
田原精夫 東京
×市川友賀 神奈川
今村龍雄 三重
岡田正人 兵庫
和田秀政 兵庫
川添爲一 香川
中島正一 東京
柳川和民 島根

大正六年第二十回卒業

正木一作 千葉
郷朔雄 東京
甘利集基 長野
天野郡治 千葉
澤池一雄 京都
佐々木武雄 宮城
人見秀四郎 東京
平山繁 鹿兒島

十二月(二名)

行川 清 千葉

四月(三名)

菅三郎 岩手
金泳煥 朝鮮
堀井恒次郎 廣島
鎌田 福岡
日置徳太郎 岡山
五月(四名)
今岡源一 廣島

九月(一名)

飯野貞佐 埼玉
大津 清福 岡
青木京一郎 巖手

十一月(二名)

近藤止三 愛媛
岩尾正人 三重
山下彌三左衛門 鹿兒島

三月(十七名)

井上常吉 佐賀
神田貞治 山形
谷島馬太郎 大阪
高橋幸三郎 宮城
副田徳平 佐賀

大正七年第二十一回卒業

○十川正夫 徳島
中谷熊楠 和歌山
山口嘉四郎 兵庫
伏本政樹 廣島
小笠原秀雄 群馬
鯉沼英吉 栃木

四月(二名)

友廣 年 岡山
大熊保道 山口

五月(一名)

伊賀敏郎 兵庫

三月(二十三名)

大正八年第二十二回卒業

○鹿原 順一 兵庫

乾明太郎 高知

五十嵐 昭 愛知

池田文爾 富山
池田信也 廣島
石田壽之 群馬
戸川千藏 鳥取
大西清忠 奈良

大正九年第二十三回卒業

河野通直 高知
×横手 武熊 鹿兒島
高久 彭 福島
竹井增一 岡山
中島爲一 佐賀

×中島 健輔 佐賀
桑原時藏 東京
小石安一 福岡
小濱氏清 鹿兒島
近藤重虎 高知

小俣信親 東京
坂倉今次郎 靜岡
篠山武次郎 岡山
秀島 魁 佐賀
森下伊三郎 和歌山

三月(二十一名)

石田稜威雄 群馬
飯塚喜一 東京
馬場政二 福岡
太田久隆 群馬
梶島年安 福岡

大正十年第二十四回卒業

×高橋 亮吉 東京
永井福三郎 岡山
中田賢吉 長野
×中目 協 宮城
碓井秋雄 靜岡
×野口 乾 福島

國井 林 栃木
久保慶男 長野
後藤 豪 岡山
小島信司 新潟
赤星家雄 大分
佐藤正夫 大分

北島 正長 崎
×白石 平七 福岡
瀨田 稔 佐賀
申 鴻 雨 朝鮮

三月(二十七名)

井垣喜作 兵庫
原田直人 東京
伴 善 居 福井
濱邊清藏 鹿兒島
本間 吧 茨城
大村三樹之助 兵庫

大正十一年第二十五回卒業

岡屋 慶光 山口
岡本 大助 熊本
川原 七郎 鹿兒島
横井 太郎 愛知
谷 巖 高知
寶田 顯作 福島
中江 富三 大畷

野本市次郎 愛知
黒田徳次郎 北海道
工藤 辰雄 靜岡
×矢部 武三 新潟
山口 虎雄 佐賀
山口 保三郎 茨城
×古谷 代吉 福岡

岸川由太郎 佐賀
瀧口 浩司 群馬
×三浦 政美 山形
新野 二郎 宮城
廣瀬 恒美 高知
日高 久彌 宮崎
鈴木 操 福島

三月(二十二名)

花水哲之助 愛知
長谷川金衛 新潟
奥田憲太郎 鳥取
奥津 三郎 神奈川
渡邊 東雄 宮城
加藤利夫 大分

大正十二年第二十六回卒業

甲藤 健夫 高知
關根 武吉 埼玉
吉澤 晴一 埼玉
武井 政雄 北海道
堤 正夫 靜岡
永田 徳太郎 兵庫
清瀧 千代夫 和歌山

松島平次郎 三重
小林 世紀 新潟
近藤 鋼一 愛知
近藤 道之助 東京
海老原 忍 千葉
安達 新 茨城
里内 晉 東京

櫻井 輝 千葉
木村宗太郎 福井
四月(一名)
池邊 謙三 熊本
八月(一名)
吳 毅 支那

三月(十七名)

長谷川正一 愛知
星野 豐 千葉
外岡 元雄 岩手
柿元 一 滋賀

大正十三年第二十七回卒業

高本 等 廣島
辻村 秀一 京都
中村 國一 東京
村瀬 二郎 東京
松岡嘉三郎 熊本

松浦 信雄 東京
松本 和一 大阪
酒井 森三郎 栃木
眞後 外見 新潟
檜山 鐵造 茨城

×菅原 三朗 秋田
杉 孝 兵庫
鈴木 徳三 宮城
十三年二月(一名)
後藤 林英 新潟

三月(二十五名)

石原政男 福岡
春木初夫 三重
四川定一 栃木
仁平宣威 茨城
本田三郎 茨城
利行正雄 東京
大石 寧平 靜岡

大庭 重行 福岡
櫻井 泰藏 神奈川
岡田 仁弘 徳島
吉澤 正三 富山
田中 道知 靜岡
立石 巖 熊本
村井 政雄 東京
村岡 壽朗 福島

久保 要 香川
安原 眞男 山形
岡中 武男 茨城
牧 正 爾 栃木
荒木 寛 新潟
朝日向昇 平 茨城
坂田 義澄 熊本
御園生 武雄 山口

水野 金市 秋田
鈴木 喜三郎 茨城
六月(四名)
服部 繁次 福井
眞田 健三 山形
木原 佳郎 鹿兒島
道澤 史郎 奈良
七月(一名)
武田 實造 鳥取

三月(十九名)

稻葉和夫 栃木
今西協一郎 宮崎
西井久治 兵庫
土井正久 熊本
岡村清 神奈川

大正十五年第二十八回卒業
昭和二年第二十九回卒業

三月(二十四名)

稻津榮治 福岡
服部元忠 東京
小淵元吉 群馬
尾崎順三郎 山形
及川英雄 東京
和田長三 岐阜
川崎洛三 廣島

昭和三年第三十回卒業

三月(二十六名)

伊原治 千葉
岩田勳 愛知
伊藤順男 埼玉
池田勝榮 鹿兒島
池田二郎 千葉
長谷川勝藏 山口
大塚辰雄 東京

七月(一名)

菅原與吉 新潟
杉山延里 石川

九月(一名)

伊藤威雄 兵庫
柳田四郎 鹿兒島

五月(一名)

鳥本正美 高知

九月(一名)

小林宗一 山口

十月(一名)

多々良孝一 静岡

十二月(一名)

上村忠彦 鳥取

六月(三名)

日向義次 山梨
平塚均 宮城
關野正藏 千葉
長谷川喜一 京都
米澤六藏 東京
高橋廣榮 愛媛

(二) 製造科

明治三十一年第一回卒業

四月(三十四名)

×今井次郎 神奈川
×長谷川作次 石川
×濱元四郎 富山
×(舊姓廣瀬) 常八 香川
×二宮保 熊本
×堀江銀次郎 東京
×本郷益雄 東京
小野辰次郎 東京

明治三十二年第二回卒業

四月(二十二名)

井關正行 和歌山
市橋丁丸 東京
西堀良造 北海道
富樫恒千 千葉
○(舊名誠一) 小川 清一 佐賀

明治三十三年第三回卒業

×大津吉之介 茨城
岡本賢一 大分
×吉川尙方 東京
×吉田三俊 大阪
×高松勝重 三重
×(舊姓柳根) 田所 清雄 茨城
×(舊姓廣瀬) 中島 英三 三重
×(舊名和太郎) 大和 和七 東京

(舊姓佐藤)

大和田由太郎 千葉
山本廣三 大分
牧野左馬三 大分
前田庄五郎 兵庫
×藤村守一 高知
×松生猪三男 福岡
×古賀駿輔 佐賀
駒澤幸一 石川
北川克郎 高知

(舊姓廣瀬)

平井友安 千葉
守田貞三 大分
關原東太 千葉

×辻好司郎 石川
×(舊姓小倉) 中村 平八 徳島
×久南恒介 山口
×(舊姓廣瀬) 府坂 健藏 石川

府中喜八郎 石川
小石季一 秋田
×小岩井治世 青森
藍野一男 千葉
佐々木繁太郎 香川
×北野宇佐吉 徳島

×肝付健昌 鹿兒島
×光増健三郎 佐賀
×宮島伊望 千葉
×(舊名勝藏) 遊谷 源七 宮城
×(舊名勝藏) 廣月松右衛門 島根

四月十五名
(舊名長作)
一宮 弘人 長崎
伊藤 哲太郎 茨城
(舊姓渡邊)
濱田 直作 富山

金高喜一郎 千葉
吉田 虎藏 德島
(舊姓大市)
室伏 俊五郎 三重
浦山 伍作 石川

久保 茂助 山口
久木田 勝馬 鹿兒島
(舊名親一郎)
久谷 卓男 島根
阿部 龍 宮城

齋藤 七郎 千葉
水野 幸次郎 愛知
(舊姓大西)
鹽田 愛隣 千葉
鈴木 珍平 岩手

四月九名

池田 熊之助 鹿兒島
千葉 幸三郎 東京

小野寺 利吉 宮城
中井 國太郎 愛媛
野元 俊一 鹿兒島

松原 榮 兵庫
船橋 晋吉 神奈川
小見山 富市 熊本

朝比奈 雪 靜岡

四月三名

岩城 宜郎 靜岡

(舊姓中野)
田淵 速吉 德島

久保田 信治 兵庫

七月十三名

石原 重良 山形
岩本 正孝 長野
渡邊 安忠 大分

(舊姓野田)
吉川 秀之 石川
田島 百人 熊本
宗 熊大分
内村 可一 德島

松尾 靈彦 愛知
淺井 謙吉 東京
酒井 徳次郎 三重
(舊名典吉)
菊池 健 岩手

宮内 友吉 鹿兒島
志村 彦藏 山形

明治三十七年第七回卒業

七月八名
(舊名嘉吉)
棚田 熊次郎 岩手
河村 尊雄 京都

(舊姓松山)
瀧島 憲道 高知
倉田 秀雄 熊本
(安藤)
安藤 俊吉 兵庫

白石 庸次郎 新潟
森 萬次郎 東京
勢島 莊太郎 福岡

明治三十八年第八回卒業

七月十七名

伊藤 二郎 茨城
林 碌郎 大阪
馬場 清止 宮城
河西 延次郎 香川

武季 作 東京
(舊名熊健)
長屋 啓之助 廣島
宇加治 文雄 茨城
國島 徹 北海道
安永 宗治 福岡

牧野 健次郎 靜岡
松坂 省輔 山口
益滿 行綱 東京
江島 悦次郎 福岡
栗屋 協二 愛知

木村 金太郎 東京
鈴木 幸太郎 靜岡
杉山 恒吉 德島

七月十八名

池内 清 愛知
岩井 龜治 高知
高崎 達之助 大阪
立川 卓逸 新潟

仲野 九郎 兵庫
中山 克己 高知
中村 平福 岡
名村 竹雄 福井
宗像 浩次郎 廣島

内田 耕 東京
上田 壯一 山口
大槻 清三 東京
山内 豊彦 茨城
禮島 政吉 東京

(舊名仁三郎)
赤坂 和一 北海道
喜代美 榮一 長崎
篠原 睦造 島根
柴田 匡一 岐阜

明治四十年第十回卒業

七月十五名

林 隆義 東京
吉野 孝長 野
永峰 治光 北海道
中島 董一 東京

梅宮 鶴藏 福島
野口 莊次 埼玉
岡本 剛三 東京
山中 巖 廣島
岡世田 名臣 鹿兒島

鶴谷 六三 埼玉
佐々田 榮重 島根
且深 清一 兵庫
(舊姓阪元)
市川 清 東京
三森 宮雄 東京

島崎 眞哉 高知
九月一名
杉村 泰治 宮城

七月二十六名

濱部 常三郎 和歌山

明治四十一年第十一回卒業
四方 佛次郎 神奈川
富山 正巳 千葉

富田 達道 高知
大島 慎二 東京

岡田 勝夫 東京
角田 鶴雄 埼玉

○田口寧一 耶 茨城
(舊名安太郎)
中島 健吉 愛知
(舊姓大竹)
○梅浦 健吉 東京
×久志木欣之助 三重
×柳淵 覺太郎 群馬

×山極 七郎 長野
松 下 高 福岡
×前田 隆一 兵庫
眞田 吉之助 石川
藤田 要太郎 愛媛

小島 米吉 茨城
赤嶺 慎一 沖繩
新井 虎之助 東京
相澤 隆 長野
×神 隆三 東京

森谷 茂 鹿兒島
(修業證書)
鈴木 厚三 兵庫
陳 非 支那
(修業證書)
曾文 淵 支那

七月(二十一名)

一ノ瀬 福巳 福岡
○小倉 善平 栃木
若林 忠雄 茨城
×田中 真平 埼玉
谷口 直太郎 兵庫

高瀬 重之 栃木
田代 寛範 福岡
武 晴 宜 群馬
×永井 真 神奈川
×中岡 盛隆 岡山
山路 政一 廣島

増田 久家 愛媛
○福井 守一 東京
×小林 丈太郎 岡山
(舊姓坪田)
小山 甲三 茨城
有賀 篠夫 長野
×北島 格一 佐賀

北川 政次郎 神奈川
木村 松太郎 群馬
三木 源吉 兵庫
菅原 元一 岩手

七月(十七名)

×岩佐 定一 長崎
西村 和雄 東京
×高宮 正 山形
内藤 俊一 山口
中野 常德 北海道

(舊姓武藤)
○中山 留八 福島
(舊姓水谷川)
太田 貞太郎 東京
九條 真叙 東京
(矢野 實 富山)
山本 祥吉 廣島
前澤 織衛 長野

(舊姓竹内)
淵崎 顯三 神奈川
有坂 利一 群馬
青田 春藏 福岡
鈴木 儀八 岩手
(修業證書)
張 銀 支那
(修業證書)
孫 英 支那

(十月(五名))
(舊姓中光)
加隈 真介 熊本
村上 次郎 山口
布施 達治 千葉
海老澤 光治 東京
菅宮 清吉 茨城

七月(二十一名)

吉田 敬雄 熊本
谷村 重忠 岡山
武本源四郎 岡山
×津田 弘一 東京
×根岸 林造 兵庫
内田 孝雄 東 茨

内田 林治 東京
×牛島 實 鹿兒島
安井 章一 兵庫
山添 兵造 兵庫
(舊姓名塚鶴二)
古田 榮作 群馬
小柳 石男 山形

江副 元三 佐賀
齋藤 雙雄 香川
×佐藤 善右衛門 岩手
深山 義道 千葉
(修業證書)
伍 正 支那
(修業證書)
胡 澤 支那

十一月(五名)
伊藤 孝夫 新潟
外山 源吾 新潟
×横尾 藤作 群馬
荻野 演一 兵庫
佐田 作郎 宮崎

七月(十二名)

池田 真作 山形
○伴 誠一 東京
大橋 智郎 静岡
大内 義男 福島
×川端 豊松 兵庫

川口 久四郎 三重
河村 兵三 三重
中村 佛郎 京都
深澤 三郎 山梨
島添 真一 京都
(舊姓島村)
樋下 田 威儀 熊本

×關根 豊 埼玉
十一月(八名)
×大川 實 静岡
長光 悟 福岡
三井 澄 東京
(舊姓岩澤)
實川 計 千葉

清水 一司 東京
平林 愛民 長野
森田 晴 佐賀
鈴木 武 栃木

七月(二十四名)

市島 徹太郎 新潟
飯岡 忠重 栃木
本田 鹿人 熊本
×鳥居 强次 東京
荻原 茂 長野
大槻 房吉 京都

小野 彌一 静岡
小野 太亮 山口
神住 潔光 埼玉
内藤 謹三郎 東京
中村 信治 福井
中村 真 石川
黒田 元治 北海道

山本 泉 東京
松生 義勝 大阪
×藤本 尙一 石川
近藤 辰雄 新潟
(舊姓久保田)
後藤 覺齋 茨城
寺門 弘隆 茨城
×源 義一 廣島

(舊姓山石)
森 茂 鹿島
鈴木 直長 東京
×取訪 賢治 和歌山

大正二年第十六回卒業

明治四十五年、大正元年第十五回卒業

明治四十四年第十四回卒業

明治四十三年第十三回卒業

明治四十二年第十二回卒業

大正三年第十七回卒業

七月(十四名)

伊藤 眞三 新潟
池尻 文郎 福岡
○(舊姓西島) 星野 直太郎 大阪

渡邊 宮藏 茨城
吉田 實千葉
吉村 善一 兵庫
中村 綱太 東京

大正四年第十八回卒業

七月(十三名)

岩松 三郎 東京
×入田 秋治 鹿兒島
富田 四郎 東京
吉永 一隆 熊本
田山 來介 埼玉

津幡 文八郎 青森
宇田 繁山 山口
熊澤 楠吉 高知
佐藤 秀雄 福島
菊山 武雄 愛媛
○弓削 讓 茨城

大正五年第十九回卒業

七月(九名)

岩淵 修平 宮城
秦 義輔 福井
太田 正一 石川
内田 一耶 埼玉

松島 敏之 神奈川
×福田 作次郎 香川
宜保 友厚 沖繩
志村 真英 東京
×澁谷 亮 東京

大正六年第二十回卒業

三月(十四名)

金谷 二郎 群馬
梶原 孝治 兵庫
野村 康雄 東京
増田 秀治 静岡

福住 吉慶 東京
○小林 小一郎 新潟
甲賀 正一 静岡
×阿部 松太郎 大分

大正七年第二十一回卒業

三月(二十名)

井出 孝吉 東京
濱本 清志 鳥取
×○新妻 善七 宮城
富岡 謙吉 兵庫
梶原 頼久 兵庫

河内 吾郎 山口
兼本 盛光 沖繩
田村 光三 大阪
成田 穰 千葉
中島 計次 群馬
村井 英雄 福岡

大正八年第二十二回卒業

三月(十六名)

石川 成人 宮城
原 武雄 廣島
西 磐山 山形
宮崎 善吾 佐賀

大久保 嘉壽彦 香川
吉川 市次 佐賀
×田邊 武雄 山梨
○中谷 正雄 大阪
村井 午之助 千葉

大正九年第二十三回卒業

三月(二十三名)

×稻葉 茂祐 熊本

西増 朝祐 兵庫
堀越 一三 茨城

荒川 麟 東京

×北野 漸 長崎
三ッ澤 福定 群馬

美川 秀信 熊本
水口 元 石川
清水 淳三 神奈川

田邊 五郎 山梨
山田 永雄 大分
平塚 顯楠 宮城

○加藤 清一 富山

○(舊姓桑名) 進藤 義輔 山口

本村 惟 鹿兒島
三橋 三郎 大阪
○(舊姓三木) 國尾 彌藏 兵庫

森川 庄次郎 大阪
李 重 漢 朝鮮
四月(一名) 古川 武毅 千葉

高橋 重治 廣島
×高橋 越州 福井

○(舊姓桑名) 進藤 義輔 山口

本村 惟 鹿兒島
三橋 三郎 大阪
○(舊姓三木) 國尾 彌藏 兵庫

森川 庄次郎 大阪
李 重 漢 朝鮮
四月(一名) 古川 武毅 千葉

高橋 重治 廣島
×高橋 越州 福井

岡坂 武文 山口
内田 康次 埼玉
中川 勤 廣島
栗原 傳四郎 埼玉

龜 禮 東京
山下 武雄 群馬
山本 益太郎 北海道
○間庭 秀文 東京

小泉 喜代治 靜岡
有賀 松夫 長野
安藤 信衛 東京
坂田 信太郎 東京

相瓦 谷次郎 大阪
佐野 昇次郎 東京
水野 忠一 神奈川
平松 角治 長崎

大正十年第二十四回卒業

三月(十七名)
(舊姓石川)
沙原 作治 富山
馬場 孟夫 長野
○原口 安雄 東京
林 政雄 鹿兒島

小畑 千柄 鹿兒島
小野 功一 宮城
門屋 守二 東京
×河野 轟 栃木
金井 準 群馬

金子 安治 埼玉
村上 芳雄 靜岡
橋詰 友四郎 三重
山本 元次郎 廣島
松崎 秀雄 神奈川

福岡 國男 福井
藤窪 重弘 福井
青木 林藏 愛知

大正十一年第二十五回卒業

三月(二十四名)
○岩本 正一 宮城
井波 義雄 東京
原 孝吉 德島
堀田 文雄 熊本
堀田 美穂男 東京
×尾野 敏行 廣島

加藤 喜太郎 新潟
河野 文一 德島
○檀野 房治 福井
工藤 眞二 宮城
倉垣 正一 兵庫
倉恒 正賢 鳥取
矢住 清亮 熊本

前波 季子 福井
松澤 定五郎 千葉
益田 泰一 福岡
増田 峻 埼玉
古賀 保一 佐賀
齋藤 孝治 千葉
(舊姓野木) 山下 利得 東京

(舊姓木村)
原 金藏 埼玉
宮良 當宴 沖繩
日高 照宮 崎
穀 元 第支那

三月(二十六名)
稻生 正直 愛知

井上 耐 神奈川
今恩 孝人 北海道

池邊 康彌 東京
石塚 森男 神奈川

甘日出要之進 廣島
西山 廉 東京

土井 武夫 愛知
大久保 金三 群馬
和田 實千 千葉
米井 俊雄 大阪
吉澤 昇 神奈川

玉木 松之進 山口
○藤田 寛一 佐賀
○鎌倉 香二 愛知
○小野 豐樹 茨城
松尾 雅明 福岡

松田 悅郎 長野
増田 典 靜岡
秋野 光次 山形
酒井 達雄 茨城
宮崎 文四 廣島

白川 明則 長崎
篠原 正規 石川
毛利 重之 東京
杉田 豐藏 靜岡

大正十三年第二十七回卒業

三月(三十二名)
伊藤 敏三 山口
橋爪 英士 福岡
鳥居 正明 東京
大園 要 茨城
小川 悦也 東京
岡田 郁之助 神奈川
小谷 和夫 兵庫
×小澤 俊雄 神奈川

數野 傳次郎 香川
○神園 政也 鹿兒島
○田中 泉太郎 長野
○田村 辨一 山口
宗田 將雄 福島
中村 正記 宮城
栗林 丈夫 兵庫
山田 貞二 新潟
丸地 廣男 愛知

正木 太四郎 千葉
福本 茂 京都
藤田 周吉 京都
小林 茂雄 靜岡
木庭 至德 熊本
遠藤 正英 東京
安藤 正 香川
淺野 昇一 德島
朝倉 要三 神奈川

秋月 壽 岡山
三原 寅雄 京都
宮坂 丑弘 長崎
清水 俊雄 愛媛
○清水 亘 愛知
杉原 裕二 滋賀

大正十五年第二十八回卒業

三月(二十四名)
飯塚 正雄 栃木
羽部 修 茨城
原田 清 千葉
大島 秀長 東京

岡屋 忠治 山口
寛 梁 東京
吉本 滿藏 山口
高橋 義一 埼玉
竹内 一 郎 東京

瀧澤 巖 新潟
中村 徳松 東京
内山 超一 福井
山内 超一 東京
山本 米作 富山

曲淵 市太郎 東京
眞瀬 恒 栃木
雨宮 榮藏 山梨
齋藤 基三 靜岡
○旗谷 九万 長野

澤田 正順 廣島
佐々 達一 新潟
昭和三十二年第二十九回卒業
○志賀 岩雄 和歌山

鈴木 博 千葉

五月(一名)
中川 金兵衛 宮城

三月(二十五名)

伊藤 育三 静岡
五十嵐 源治 福島
豐田 忠雄 廣島
富永 靜彦 長崎
大塚 德太郎 佐賀
奥田 直言 崎玉
渡邊 正雄 熊本
昭和三十二年第三十回卒業

上野 武夫 群馬
○能條 京司 神奈川
荒井 虎之助 東京
廿利 久吉 德島
朝倉 清見 長野
澤登 謹次 東京
北川 令三 福井
三宅 二郎 北海道

篠崎 仁包 東京
下井 誠 山口
四月(二名)
東原 正雄 香川
茂貫 祥次 宮城

三月(二十名)

飯野 増太郎 福岡
岩澤 平治 新潟
濱野 寛 茨城
大岩 東助 愛知
大石 義秋 香川
昭和三十二年第一回卒業

那須 潔 滋賀
松本 良香 長崎
寺門 彬 東京
淺田 象二郎 兵庫
佐藤 七郎 福島
木村 敬三郎 愛媛

木下 貞一 大阪
久松 義男 兵庫
清野 文二 宮城
四月(二名)
橋詰 友太郎 埼玉
平置 三郎 愛媛

(三) 養 殖 科

四月(九名)

(養性冬木)
○大石 芳三 佐賀
○新藤 重太郎 埼玉
○新藤 山口 高橋 重太郎 岩手
明治三十二年第二回卒業

長島 幸吉 千葉
藤田 政勝 兵庫
○淺井 長三郎 福島

坂井 安三郎 佐賀

四月(五名)

○川端 重五郎 三重
明治三十三年第三回卒業

山本 開作 神奈川
須田 勸 東京

四月(八名)

伊藤 俊治 千葉
○今野 虎吉 福島
明治三十四年第四回卒業

秋山 永次 東京
○櫻田 廣吉 秋田
肥後 了一 鹿兒島

須田 義二郎 山形

四月(三名)

片倉 健吉 東京
明治三十五年第五回卒業

○長島 八郎 神奈川

○川端 重太郎 東京

四月(三名)

○戸井田 盛嗣 新潟
明治三十六年第六回卒業

内田 佐太夫 千葉

七月(四名) 河合 殿受知

山下 平造 兵庫
山本 由一 東京

七月(二名) 〇丸川 久俊 島根

〇越田 德次郎 石川
推原 廣男 鹿兒島

七月(三名) 西山 伊六 佐賀

東 道太郎 東京
推原 廣男 鹿兒島

七月(二名) 萩原 實治 兵庫

鎌ヶ江 東作 佐賀

七月(二名) 谷口 利三郎 廣島

九月(一名) 西村 茂生 山口

七月(七名) 河合 盾丸 愛知
八幡 光造 山形

〇柳本 斗夫 德島
〇藤城 存知 廣島

七月(七名) 武田 直宮 城
倉上 政幹 埼玉

〇目崎 守義 埼玉
菅長 吉之助 東京

七月(五名) 山田 政滿 福井
小林 雄次 廣島

三宅 仙吉 東京
三木 保次郎 兵庫

七月(十一名) 神谷 尙志 東京
田中 林三 大阪
塚越 靜吉 群馬

(舊姓川上) 〇中野 宗治 長崎
〇松野 助吉 東京
小林 尙次 靜岡

七月(十七名) 〇川村 久治郎 福井
笠村 礪 栃木
吉田 潔 福岡
田中 修次郎 東京

〇高橋 宗作 山形
〇中山 勝 熊本
〇中澤 貞雄 長野
〇村松 康 愛知
丸塚 正治 鹿兒島

七月(十名) 片岡 虎之助 山形
川尻 稔三 三重
〇米田 保福 岡

田中 正男 東京
中村 正明 埼玉
中島 顯一 大阪
(舊姓前田) 中井 信隆 和歌山

大正三年第十七回卒業

九九

十月(一名) 岡田 彌一 東京

〇春藤 一市 岡山
姉帯 定助 岩手
北村 強彦 熊本

(舊姓中村) 島村 彌彦 高知
下郷 誠一 愛知
鈴木 拙郎 三重

九八

平木 治 福岡

阿部 圭 福島
須賀 善太郎 群馬

七月(十三名)

石井宗吉 東京
富永次男 長崎
渡部龜一 愛媛

吉田直道 長野
田口長次郎 長崎
能勢忠雄 愛知
大月菊男 茨城

大正四年第十八回卒業

七月(十四名)

岩井準平 東京
磯野泰二 福井
高島胤雄 三重
中村 慶廣 島

太田知度 岡山
長田正男 長野
小池正保 東京
幸田伴次郎 福井
佐藤玄三郎 岡山

大正五年第十九回卒業

七月(七名)

石森武男 宮城

本間幸次郎 北海道
笠井繁治 山梨

大正六年第二十回卒業

三月(十一名)

嶋川虎三 東京
堀重藏 和歌山

沼田健助 大分
鷹司信敬 東京
丹治經治 福島

大正七年第二十一回卒業

三月(五名)

原 信福 岡

吉武 實山口
小園龍次 佐賀

關 晴雄 岩手
鈴木 賢 千葉

十二月(一名)

澤田 進 東京

江熊 哲翁 大分
諭谷 光時 山形

×越石 俊雄 新潟
×今野 壽三郎 山形
×青山 益吉 東京

三月(十名)

濱名 龜助 福島
四岡 丑三 佐賀

大島 信夫 東京
落合 清 群馬
加藤 喜八郎 石川

大正八年第二十二回卒業

三月(八名)

巖谷那珂彦 福岡
永井 正 東京

永坂 勝次 東京
浦津 繁太郎 熊本
上野 惇五 東京

大正九年第二十三回卒業

三月(十一名)

五十嵐 俊藏 山形
石川 龜好 栃木

×川村 正雄 東京
梶田 典之亮 東京
高島 啓次 富山

大正十年第二十四回卒業

三月(十一名)

井上 貞治 徳島
○川名 武千葉

高槻 俊一 廣島
山田 豐 福岡
向山 豊之進 山梨

大正十一年第二十五回卒業

三月(十五名)

井澤 潤次 新潟
石井省一郎 静岡
原 邦明 鳥取

土井 久之 静岡
鳥飼 敬義 千葉
小野寺 元雄 宮城
○川本 信之 東京

大正十二年第二十六回卒業

建部 泰 兵庫
青木 三雄 神奈川
明石 博次 京都

小林 忠太 栃木
江島 静次 静岡
海老名 謙一 千葉

田中 友三 東京
山田 一男 群馬
八尋 武良次 福岡

野田 文綱 熊本
熊田 朝男 栃木
福田 亮三 和歌山

吉田 裕 東京
田邊 貞夫 神奈川
×田中華太郎 神奈川
内藤 新吾 千葉

秋谷 庸 千葉
齋藤 光雄 千葉

四月(一名)
牧 健三 福岡

森本 敬毅 東京
陳 謀 環 支那
陳 椿 壽 支那

小見山 樹 京都
酒井 備 東京
比留岡 進 東京

山中 孝太郎 京都
荒木 勝二 山形
菊池 鶴松 埼玉
齋藤 敏夫 岡山

三月(二十二名)

稻葉 俊 茨城
花田 信次郎 大阪
○岡田 卓雄 茨城
渡邊 清 岐阜
渡邊 茂男 山梨

大正十三年第二十七回卒業

河原 達雄 兵庫
川越 庸樹 福岡
田中 仁平 静岡
○田村 松太郎 山口
×玉利 亮一 東京
瀧澤 武雄 長野

三月(十五名)

伊藤 一郎 長崎
岩橋 量 熊本
稻葉 傳三郎 大阪

大正十五年第二十八回卒業

○富山 哲夫 長崎
川上 雅之 廣島
田中 小治郎 徳島
上野 鐵五郎 山形

三月(十七名)

陳早 隆夫 東京
○如中 主計 福井
新野 弘 東京
奥野 忠雄 大阪

昭和二年第二十九回卒業

川崎 吾八 佐賀
×高須賀 頼夫 愛媛
永川 保雄 福岡
山本 宣夫 愛知
藤原 與助 岩手

三月(十五名)

石島 涉 茨城
大坪 眞幸 東京
谷崎 正生 福岡

昭和三年第三十回卒業

高橋 直利 岡山
高橋 清三郎 山形
立野 新光 巖手
○中井 甚二郎 鳥根

永見 兼重 鳥根
村上 義成 岐阜
野口 利夫 兵庫
野澤 鏗 栃木
野澤 秀夫 栃木
安川 隆 東京

日下部 臺次郎 神奈川
矢板 開一 栃木
山内 謙 大分
古川 順一郎 愛媛

藤田 正 廣島
小林 武 千葉
遠藤 雄吉 鳥取
相墨 春夫 新潟
天野 政之 愛知

中村 捷 群馬
内橋 潔 兵庫
倉本 三郎 東京
楠本 俊夫 和歌山

澤野 英四郎 京都
木下 虎一郎 和歌山
○水野 復二郎 東京
宮崎 廣三 長野
杉浦 秋一 愛知

福田 隆道 岡山
福迫 徹郎 東京
國分 善一 東京
後明 喜好 新潟

酒井 銀次郎 東京
瀨田 廣吉 埼玉
鈴木 清藏 埼玉
十二月(一名)
小川 千秋 大分

藤田 四郎 山口
小森 武雄 東京
重松 正俊 佐賀
廣瀬 篤郎 福岡

二 遠洋漁業科

明治三十三年卒業

五月(一名)
黒田 九萬男 東京

明治三十四年卒業

七月(二名)
南摩 紀廣 東京
藤田 勤太郎 鳥根

明治三十五年卒業

八月(一名)
木村 廣三郎 石川

明治三十五年卒業

二月(二名)
高原 剛太郎 福岡
志村 次郎 東京

明治三十六年卒業

七月(三名)
石野 敬之 千葉
松崎 彌市 鹿兒島
森 茂樹 鹿兒島

明治三十七年卒業

一月(一名)
高橋 潤二 岡山
十月(一名)

明治三十七年卒業

五月(一名)
下田 空一 廣島
小金丸 増太郎 福岡

明治三十八年卒業

十一月(一名)
戸田 中平 静岡
一月(一名)
前田 春水 東京

明治三十九年卒業

三月(一名)
松尾 秀夫 長崎
十月(一名)
佐藤 正孝 山形

明治四十年卒業

四月(一名)
田中 仁吉 鳥根
十一月(一名)
黒木 圓太 福岡

明治四十年卒業

十一月(二名)
寛 多記 茨城

明治四十一年卒業

八月(一名)
美代 清信 鹿兒島
川添 友志 鹿兒島

明治四十三年卒業

九月(一名)
上枝 平五郎 香川
十二月(一名)
小松 重利 高知

明治四十四年卒業

五月(二名)
林田 甚八 長崎
國司 浩助 山口

明治四十四年卒業

十月(四名)
長友 寛 宮城
柳 悦多 東京
安達 誠三 愛媛
秋山 實千 業

明治四十四年卒業

九月(四名)
吉田 義男 長崎
福野 久松 石川

大正元年卒業

八月(四名)
木下 信資 鳥取
瀧上 二州 兵庫
十二月(一名)
宮脇 伊太郎 鹿兒島

大正元年卒業

市川 峯吉 三重
谷本 坂惠 岡山
新井 藤一郎 茨城
豊田 静夫 鹿兒島

大正二年卒業

十月(四名)
飯田 公壽 福岡
興儀 喜宜 沖繩
後藤 節福 大分
日比 義三 岐阜

大正二年卒業

十二月(一名)
岩本 清太郎 鳥取

大正二年卒業

八月(六名)
渡邊 康介 愛知
加藤 平吉 山形

武宮 榮一 佐賀

竹田 重雄 静岡

後藤 榮助 香川

柴戸 雅一 長崎

伊東 猪六 佐賀

辻 知一 長崎

木村 成松 福井

木村 呈鳥 取

林 卯吉 大阪

越智 章崎 玉

小林 章之 崎玉

佐藤 敬吉 山形

田中 耕之助 東京

上野 省三 山形

山本 静一 愛媛

大塚 三平 茨城

御厨 保太郎 長崎

古閑 義康 熊本

飯田 典兵衛 東京

葛城 忠男 石川

國分 友海 鹿兒島

莊司 勇山 山形

島田 喜一 静岡

中川 甚藏 東京

三輪 源造 岡山

高柳 繁太郎 群馬

塚崎 謙吉 秋田

山口 慶四郎 群馬

馬場 上福壽 福島

松尾 我何人 長野

久宮 元長 崎玉

郭井 拾吉 東京

岡本 重治 東京

桐本 富次 和歌山

林 準二 東京

本田 光吉 愛媛

永福 虎 鹿兒島

大村 道一 兵庫

大石 秀雄 静岡

山本 清内 山形

中村 吉次 長野

仙波 平馬 栃木

森村 共正 石川

日下部 彦次郎 兵庫

佐々木 政之助 宮城

關口 壽之助 東京

和田 秀政 東京

人見 秀四郎 東京

家坂 孝平 新潟

庵原 順一 兵庫

池田 信也 廣島

小濱 氏清 鹿兒島

大垣 光平 栃木

谷口 武三 岐阜

田原 精夫 東京

吉田 春吉 東京
大正十四年卒業
四月(一名)
新野 二郎 宮城
十月(一名)
里内 晉 東京

十二月(一名)
堤 正夫 静岡
大正十五年卒業
五月(一名)
眞後 外見 新潟

昭和二年卒業
九月(一名)
間中 武男 茨城
十二月(一名)
眞田 健三 山形

昭和三年卒業
六月(一名)
安原 良男 山形

三 研 究 科

明治三十七年卒業
 漁撈科(二月一名)
 日 高 靖 宮 崎
 養殖科(十一月一名)
 今 野 虎 吉 福 島
 明治三十九年卒業
 養殖科(十月一名)
 丸 川 久 俊 島 根
 明治四十年卒業
 漁撈科(三月一名)
 吉 永 貴 八 郎 長 崎
 明治四十一年卒業
 製造科(十二月一名)
 杉 村 泰 治 三 重
 明治四十三年卒業
 漁撈科(六月一名)
 渡 邊 理 一 東 京
 (七月一名)
 武 富 榮 一 佐 賀
 製造科(十二月一名)

梅 浦 健 吉 東 京
 明治四十四年卒業
 製造科(七月一名)
 小 山 甲 三 茨 城
 明治四十五年卒業
 製造科(三月一名)
 矢 野 實 富 山
 大正二年卒業
 製造科(五月一名)
 深 山 義 道 千 葉
 (六月一名)
 內 田 孝 雄 東 京
 (七月三名)
 谷 村 重 忠 岡 山
 山 添 兵 造 兵 庫
 關 根 豐 崎 玉
 大正三年卒業
 漁撈科(七月一名)
 熊 田 頭 四 郎 栃 木
 大正四年卒業

漁撈科(七月一名)
 鈴木 敏三 福 岡
 製造科(七月二名)
 萩 原 茂 長 野
 深 澤 三 郎 山 梨
 養殖科(六月一名)
 中 井 信 隆 和 歌 山
 大正五年卒業
 漁撈科(五月二名)
 齋 藤 陽 三 東 京
 李 炫 國 朝 鮮
 製造科(三月一名)
 李 商 鶴 朝 鮮
 (七月一名)
 弓 削 讓 茨 城
 (十月一名)
 近 藤 辰 雄 新 潟
 養殖科(十月一名)
 三 木 信 幸 德 島
 (十一月二名)

岡 田 彌 一 郎 東 京
 片 岡 虎 之 助 山 形
 大正六年卒業
 漁撈科(三月一名)
 德 永 外 治 石 川
 製造科(四月一名)
 清 水 淳 三 神 奈 川
 (九月一名)
 秦 義 輔 福 井
 養殖科(四月一名)
 中 島 頌 耶 阪
 (五月一名)
 佐 藤 玄 三 郎 東 京
 (七月一名)
 松 井 佳 一 山 口
 (九月一名)
 藤 本 政 男 兵 庫
 大正七年卒業
 漁撈科(一月一名)
 石 崎 實 三 郎 愛 媛

製造科(一月一名)
 小 林 敏 行 東 京
 養殖科(十一月一名)
 鷹 司 信 敬 東 京
 大正九年卒業
 漁撈科(七月一名)

服 部 愛 之 助 大 阪
 大正十一年卒業
 漁撈科(十二月一名)
 郷 朔 雄 東 京
 養殖科(十二月一名)
 吉 田 直 道 長 野

大正十二年卒業
 漁撈科(二月一名)
 福 野 久 松 石 川
 大正十四年卒業
 養殖科(一月一名)
 増 田 與 東 京

昭和二年卒業
 漁撈科(十二月一名)
 久 保 要 香 川

四別科 (現業科ヲ含ム)

(一)漁撈科
明治三十三年修業
巾着網漁(三月五名)
業專修(三月五名)
戸田 圓次 高知
土井 常吉 新潟
×大橋 直吉 静岡
紙子 次作 石川
多屋 鶴四郎 和歌山
明治三十九年修業
遠洋漁業專修(十月五名)
池田 兼吉 千葉
×石井 次郎 千葉
濱田 進 鹿兒島
波邊 梅吉 千葉
津島 徳松 千葉
明治四十年修業
魚油魚蠟(九月五名)
及延繩漁業(九月五名)
岩崎 吉兵衛 静岡
田崎 次郎 茨城

增田 鬼一郎 静岡
有原 初三郎 静岡
見原 萬吉 静岡
延繩及流(十月四名)
網漁業(十月四名)
津田 萬治 千葉
上原 丈助 千葉
平田 辰五郎 千葉
鈴木 萬之助 千葉
鶴漁業(十二月二名)
伊藤 猪之助 福岡
小田 積美 東京
明治四十一年修業
遠洋漁業專修(四月六名)
如中 彦助 愛知
西川 村三郎 徳島
田中 由三郎 東京
竹内 治郎 吉三 重
柳生 政藏 愛知
征田 歌吉 東京

捕鯨專修(六月八名)
岩村 孫作 長崎
向井 三吉 和歌山
上原 由之助 静岡
倉光 三郎 青森
山岸 留之助 北海道
小坂 定治 長崎
島 可 淳 神奈川
柴 恒太郎 岡山
流網及延繩漁業(十月六名)
×一色 勇 京都
川崎 徳左衛門 石川
横山 林四郎 三重
齊藤 與太郎 山形
梅 太郎 新潟
鈴木 三郎 千葉
明治四十二年修業
延繩及流(二月一名)
網漁業(二月一名)
柴城 徳沖 徳島

鯖及鯖漁業(三月七名)
染田 五助 長崎
中世古 白吉 三重
山本 重松 愛知
湯淺 辰太郎 三重
平松 幸枝 三重
平賀 源之助 三重
洲加本 三五右衛門 長崎
延繩及流(四月一名)
網漁業(四月一名)
鈴木 梅吉 千葉
延繩及流(八月一名)
網漁業(八月一名)
×岩 並勝次郎 千葉
明治四十三年修業
延繩及流(一月一名)
網漁業(一月一名)
石塚 甚四郎 山形
延繩及流(四月八名)
網漁業(四月八名)
石塚 直彦 山形
中川 菊藏 三重
山下 三之助 三重

山口 數平 三重
佐藤 徳松 秋田
湯淺 萬吉 三重
宮崎 長太郎 秋田
鹿内 力松 青森
(一)製造科
明治三十一年修業
禮詰專修(一月五名)
河野 巖 宮崎
加藤 明二 秋田
鹽井 與八 石川
廣瀬 宗義 鹿兒島
森 義直 京都
明治三十二年修業
魚油魚蠟(八月五名)
沃度專修(八月五名)
×田中 清之助 三重
山口 三之助 千葉
昆 夏八 岩手
越瀬 市松 和歌山
佐藤 義厚 茨城
禮詰專修(十二月五名)
中村 里次郎 愛知
内田 藏次郎 島根

松浦 善市 熊本
松坂 豐次郎 富山
菅沼 仙之助 福島
明治三十三年修業
魚油魚蠟(二月五名)
沃度專修(二月五名)
畑谷 丑太郎 北海道
赤平 卯十郎 青森
佐藤 漁太郎 宮城
宮津 吾弼 山口
杉本 傳太郎 静岡
禮詰專修(十二月五名)
及川 鼎壽 宮城
村田 新五郎 愛知
山田 徳松 宮崎
×梁瀬 弘長 崎
吉川 徳吉 滋賀
明治三十四年修業
魚油魚蠟(三月三名)
沃度專修(三月三名)
田中 富佐 福井
松本 義次郎 高知
木高 金之助 千葉
禮詰其他(十月二名)
節類專修(十月二名)
大黒 誠高 高知

齊藤 初治 長崎
沃度專修(十二月四名)
魚油魚蠟(十二月四名)
池内 林太郎 高知
熊谷 伊三郎 福岡
山口 太助 佐賀
森崎 茂樹 静岡
禮詰專修(十二月五名)
村江 保翼 長崎
小松 由平 千葉
宮内 喜一 鹿兒島
鈴木 兼助 愛知
菅原 養藏 宮城
明治三十五年修業
禮詰其他(十月五名)
節類專修(十月五名)
(舊名榮)
米田 隆保 青森
熊谷 伊三郎 福岡
山本 荒太郎 和歌山
山下 藤三郎 鹿兒島
禮詰專修(十二月六名)
(舊名榮)
糸井 藤吉 京都
米田 隆保 青森
中尾 千代之助 鹿兒島

山田 忠五郎 東京
新井 元吉 和歌山
里見 時之助 山口
明治三十六年修業
魚油魚蠟(四月四名)
沃度專修(四月四名)
(舊名榮)
米田 隆保 青森
前田 隆次郎 愛知
小松 由平 千葉
齊藤 玉治 愛知
禮詰其他(十一月三名)
節類專修(十一月三名)
市川 忠吉 山形
山岡 則重 高知
安里 積助 沖繩
禮詰專修(十二月六名)
井上 三太郎 三重
花見 七治 北海道
金子 房治 千葉
河合 音治 愛知
田村 忠太夫 岩手
黃 桂 芬 支那
魚油魚蠟(十二月五名)
沃度專修(十二月五名)
島山 吉雄 宮城

龜板源三郎 福岡
 大久保直次郎 高知
 古川九彌次郎 熊本
 坂口榮太郎 靜岡
 明治三十七年修業
 總詰專修(十月八名)
 ×濱 壽楠 和歌山
 加藤 磯次 富山
 八木 佐吉 滋賀
 山田 達 愛知
 松浦 金平 兵庫
 紺谷 平治 石川
 相木 嘉一 福井
 森 眞 靜岡
 明治三十八年修業
 總詰專修(十月二名)
 箱石 米定 岩手
 名嘉 幸徳 沖繩
 總詰專修(十二月十名)
 堀内 謙藏 岩手
 堀部 實一 大分
 小野 末男 福島
 大上 伊勢吉 兵庫

高橋 敬三郎 三重
 田河 恒福 熊本
 ×高杉 賢藏 秋田
 田中 實之助 愛知
 仲田 文五郎 沖繩
 森本 喜之助 和歌山
 魚油 專修(十二月五名)
 土岐 音吉 千葉
 高鍋 志郎 兵庫
 田井 安太郎 京都
 曾根 武兵衛 和歌山
 松浦 萬龜 太島 根
 明治三十九年修業
 總詰專修(十月六名)
 節類其他
 德平 秀那 沖繩
 竹田 信平 島根
 國吉 榮洪 沖繩
 淺沼 文八 東京
 坂下 圓次郎 岩手
 柴 正式 富山
 總詰專修(十二月十名)
 濱口 義正 三重
 西川 正次 東京

放生 要松 富山
 相馬 柳吉 秋田
 梅野 忠政 愛知
 岡田 太郎 鹿兒島
 矢野 喜藏 新潟
 松浦 久雄 三重
 小松 義篤 新潟
 趙 相支 那
 明治四十年修業
 魚油 專修(一月三名)
 芳賀 岩治郎 宮城
 小坂 傳吉 岩手
 小澤 謙三 千葉
 冷瀧 法(九月一名)
 村上 徳市 廣島
 節類其他專修(十月三名)
 岩城 宇平 宮崎
 村上 倉次郎 北海道
 齋藤 八郎 靜岡
 總詰專修(十二月七名)
 一色 彌太郎 京都
 石川 喜助 北海道
 秋父 重宏 青森

大畑 伊八 三重
 野村 利兵衛 京都
 山道 隆長 崎
 三浦 大造 愛知
 明治四十一年修業
 節類其他(九月四名)
 井合 榮俊 新潟
 佐野 實香 川
 三浦 操 島根
 日比谷 要造 神奈川
 總詰專修(十二月七名)
 伊藤 末千代 山口
 今藤 一馬 宮城
 岩崎 正己 島根
 石原 彦三 三重
 河野 徳治 神奈川
 野川 重五郎 岩手
 小槻 誠一 滋賀
 明治四十二年修業
 節類其他(九月三名)
 橋本 喜之助 青森
 桂 信吉 京都
 田所 富彦 高知

總詰專修(十二月九名)
 今立 昌雄 福井
 馬場 一夫 滋賀
 島中 敬三 山形
 高橋 善三 宮城
 栗本 冬助 北海道
 山本 金吉 三重
 佐脇 哲郎 三重
 吉川 廣助 熊本
 三橋 淳 鳥取
 明治四十三年修業
 貝殼彫刻專修(七月四名)
 ×伊笠 小六 東京
 津田 徳 高知
 遊佐 孫藏 宮城
 森本 繁尾 高知
 總詰專修(十二月十二名)
 池山 盛一 三重
 芳賀 岩次郎 宮城
 岡崎 常松 愛媛
 渡邊 照吉 北海道
 加藤 福松 愛媛
 上林 唯治 京都

加瀬 松吉 茨城
 田中 東太郎 北海道
 福士 真三 青森
 酒井 茂吉 高知
 紀谷 金之助 北海道
 勇 似造 大分
 明治四十四年修業
 貝殼彫刻專修(七月六名)
 池田 典志雄 熊本
 徳井 利左衛門 三重
 渡邊 正勝 福島
 隈部 文男 熊本
 三好 徳三郎 愛媛
 弘末 英男 高知
 大正三年修業
 珊瑚彫刻專修(四月四名)
 泉 助次郎 宮城
 知場 伊太郎 福島
 竹中 尚三 鹿兒島
 江夏 武義 鹿兒島
 大正四年修業
 珊瑚及介殼(九月一名)
 彫刻專修
 高橋 清一郎 長崎

大正六年修業
 珊瑚及介殼(三月三名)
 彫刻專修
 有島 好光 鹿兒島
 宮司 登 靜岡
 清水 義八 新潟
 珊瑚及介殼(十一月一名)
 彫刻專修
 栗田 達道 熊本
 貝殼彫刻專修(十二月一名)
 南風原 英當 沖繩
 總詰專修(十二月十四名)
 泉 細 那 秋田
 星野 誠一 東京
 田中 泰夫 京都
 田中 長一郎 北海道
 中村 義男 福岡
 宗像 敬二 東京
 宗像 健吉 福岡
 上野 務 大分
 山口 保平 神奈川
 藤井 金吾 廣島
 後藤 謙 愛知
 赤沼 由郷 青森
 菅原 誠 宮城

鈴木 富太郎 三重
 貝殼彫刻專修(十二月一名)
 彫刻專修
 赤井 卯八 福井
 大正七年修業
 貝殼彫刻專修(十月二名)
 市川 友治 茨城
 山本 政七 高知
 大正八年修業
 貝殼彫刻專修(四月二名)
 彫刻專修
 多田 館 山形
 野口 貞美 東京
 東 角藏 岐阜
 貝殼彫刻專修(六月二名)
 彫刻專修
 菅 繁 弘 鹿兒島
 大正九年修業
 貝殼彫刻專修(四月一名)
 彫刻專修
 鷹本 初太郎 愛媛
 貝殼彫刻專修(七月一名)
 彫刻專修
 二見 林太郎 神奈川
 貝殼彫刻專修(十月一名)
 彫刻專修
 市川 正次 栃木
 大正十年修業
 貝殼彫刻專修(五月一名)
 彫刻專修

安並善次郎 高知
 貝殼珊瑚(十二月一名)
 彫刻專修(十二月一名)
 五十嵐善晴 山形
 大正十一年修業
 貝殼珊瑚(七月一名)
 彫刻專修(七月一名)
 仁科 逸郎 千葉
 水産工藝(十一月一名)
 専修(十一月一名)
 坂入一三男 茨城
 大正十二年修業
 水産工藝(四月二名)
 浦田 武夫 岡山
 及川 善一 岩手
 水産工藝(十二月三名)
 専修(十二月三名)
 實來利一 兵庫
 高田 卯一 群馬
 齋藤 學 福井

大正十三年修業
 水産工藝(十二月三名)
 専修(十二月三名)
 岩田 利機 東京
 竹内 弘次 神奈川
 野村 廣一 宮城
 (三)養殖科
 明治四十一年修業
 鮭鱒養殖(三月三名)
 石川 廣之助 茨城
 拂川 佛之助 秋田
 野村 菊次郎 宮城
 大正十三年修業
 淡水養魚(三月五名)
 専修(三月五名)
 内藤 啓一 愛知
 内田 静雄 静岡
 山本 四郎 愛知

幸田 勇喜雄 長野
 清水 久馬次 兵庫
 大正十四年修業
 淡水養魚專修(三月八名)
 岩崎 松三郎 宮城
 河合 一次 愛知
 吉岡 正三 三重
 吉川 義人 熊本
 村松 謙 静岡
 小庭 太郎 岡山
 寺田 孫兵衛 静岡
 相澤 彌生 群馬
 大正十五年修業
 淡水養魚專修(三月五名)
 岩村 久喜 熊本
 大川 富秀 三重

與那原 孫莊 沖縄
 植松 正義 福島
 寺岡 正義 福島
 昭和二年修業
 淡水養魚專修(七月五名)
 石黒 二郎 愛知
 谷口 秀男 宮崎
 國府田 公 栃木
 關根 豊重 茨城
 關澤 祐次 茨城
 昭和三年修業
 淡水養魚專修(六月三名)
 永井 清作 宮崎
 内山 良夫 福井
 森 初穂 北海道

五 水産教員養成科

明治三十年卒業
 十二月十五名
 市原佐太郎 高知
 羽生辨之進 愛媛
 大竹 敬造 北海道
 加藤伊砂吉 静岡
 片岡久次郎 新潟
 加藤登太郎 山形

蒲 瓦 福井
 正宮 彌藏 岡山
 正林 英雄 長崎
 秋保 知次 京都
 佐々木 武治 青森
 宮崎 賢一 長崎
 満岡 彦三 佐賀
 平山 嘉門 岩手

關 菊次 秋田
 明治三十六年卒業
 四月十名
 四原 佐一 愛媛
 長内 清吾 青森
 山本次郎八 熊本
 松波 虎之助 和歌山
 佐藤 暹 岡山

笹子 治 千葉
 喜多川 良吉 東京
 志水 清兵衛 兵庫
 篠原 直衛 廣島
 森川 萬藏 福井

六 製鹽技術員養成科

明治三十九年卒業
 三月十名
 市川 信次 鹿兒島
 濱 清一 栃木
 富田 登吉 埼玉
 東條 高治 新潟
 岡本 静一郎 福岡
 中原 經治 福島
 中村 丈福 岡山

室川 重義 和歌山
 北川 九一 滋賀
 平林 保義 東京
 明治四十年卒業
 三月八名
 尾關 素一 東京
 吉武 幾甫 山口
 永井 重藏 兵庫
 黒田 藤五郎 愛媛

黒住 安臣 岡山
 松田 一平 徳島
 三浦 一 岩手
 三輪 清彦 愛知
 明治四十一年卒業
 三月六名
 橋本 昇次郎 栃木
 片山 甲太郎 三重
 × 永山 千春 東京

安岡 良雄 高知
 清水 新太郎 香川
 清家 幹一郎 愛媛
 明治四十二年卒業
 三月十名
 糸雅 仁一 埼玉
 伊藤 純造 埼玉
 大塚 松次郎 栃木
 早稻田 俊彦 愛知

谷本善夫 廣島
宗安宅 福島
那須文六 香川
酒井鐵三 茨城
木下實治 京都

壬生勇一 東京
明治四十三年卒業
三月(九名)
稻垣基一 香川
羽島久雄 東京

大澤國助 東京
武田晴彦 鹿兒島
谷悦三 德島
工藤甚五 青森
五島彰 茨城

相場好作 群馬
宮宗 群馬

七 特殊技術員養成科

明治四十四年卒業
製鹽科(三月八名)
金子 團三 新潟
米倉 八郎 宮城
吉野 久 北海道
山田重治 大分
丸山廣作 新潟
遠藤金治 宮城
佐藤興市 大分
柴田政行 北海道

大正二年卒業
鱈肝油採製(三月十二名)
法短期講習(三月十二名)
伊藤傳次 青森
畑中彦助 愛知
西尾磯三 東京

大正三年卒業
鱈肝油採製(三月九名)
法短期講習(三月九名)
畑中彦助 愛知
田村吉吉 千葉
竹田典八 石川
田村寅吉 千葉

大正四年卒業
養殖及漁業基
木調査方法(九月五名)
田谷 英石 川

×村松 藤愛知
照井賢三 岩手
阿部圭福 島
赤根金太郎 秋田
製造化學(十月二十名)
伴誠一 東京
島崎真哉 高知
北川政次 神奈川

河村兵三 三重
内田孝雄 東京
安井章一 兵庫
鈴木儀八 岩手
立川卓逸 新潟
福井守一 東京
内藤三郎 東京
蘆野一男 千葉

四村和雄 東京
(以下八名練習ニ關スル科目ノ講習)
濱野仙吉 京都
大島慎二 東京
大戸與七 福井
宮本周市 山口
大川龜吉 秋田

村上次郎 山口
久保田覺壽 茨城
關 虎雄 東京

八 短期講習

大正八年卒業
鹽類並淡水
鹽類養殖法(十月二十三名)
羽生田源作 群馬
星野信太郎 群馬
本田林三 群馬
大竹只之助 群馬
尾崎清一 群馬

門倉連式 群馬
金子虎彌 群馬
高橋貞治 群馬
高橋貞作 群馬
黒田定太郎 群馬
黒澤亮治 群馬
兒玉誠 山形

小曾根勸助 群馬
阿部藤三郎 群馬
齋藤貞造 群馬
齋藤森三郎 群馬
佐藤郁造 群馬
木村喜作 群馬
君島松之助 群馬

平出誠太郎 栃木
平出元司 栃木
森 兵吉 栃木

第一 卒業者狀況

一、卒業者一覽表 (昭和三年十月調)

本表中×印ハ本所卒業者以外ノモノトス、製造科七名、養殖科三名計十
本表ノ外科科ニ於テハ流撈科四名、製鹽科七名、支那人卒業者アリ
四名、別科ニ於テハ鑛詰專修二名ノ支那人卒業者アリ

明治三十年	卒業科別			計	遠洋	研究	別科(現業科ナ含ム)	合計
	科別	業別	年別					
三十九年	一二	一八	二	三二	二	一	五	六五
三十八年	一三	一七	三	三三	三	二	一〇	五三
三十七年	一二	八	二	二二	二	二	八	三四
三十六年	七	一三	四	二四	二	二	六	五四
三十五年	五	三	三	一一	五	二	一	二七
三十四年	八	九	三	二〇	三	二	一四	三七
三十三年	一二	一五	八	三五	一	五	一四	五一
三十二年	一五	二二	五	四二	一	五	一〇	五二
三十一年	一三	三	九	五六	一	五	一五	六一
明治三十年	一八	二四	七	四九	一	三	二五	七一
四十一年	一七	二四	七	四八	一	三	二五	七一
四十二年	二一	二二	七	四九	一	三	二五	七一
四十三年	二〇	二〇	五	四五	一	三	二五	七一
四十四年	二七	二四	一	六一	一	三	二五	七一
大正元年	二二	二〇	一七	五八	一	三	二五	七一
二年	二二	二四	一一	五七	一	三	二五	七一
三年	二一	一四	一三	四八	一	三	二五	七一
四年	三〇	一九	一四	六三	一	三	二五	七一
五年	一六	一五	七	三八	一	三	二五	七一
六年	二七	一五	一一	五三	一	三	二五	七一
七年	二〇	二〇	五	四五	一	三	二五	七一
八年	二三	一七	一〇	五〇	一	三	二五	七一
九年	二一	二二	九	五三	一	三	二五	七一
十年	二七	一七	九	五三	一	三	二五	七一
十一年	二三	二二	一一	五六	一	三	二五	七一
十二年	一八	二六	一五	五九	一	三	二五	七一
十三年	三〇	三二	二二	八四	一	三	二五	七一

年別	流撈科	製造科	養殖科	合計	遠洋	研究	別科	合計
四十一年	一七	二四	七	四八	一	三	二五	七一
四十二年	二一	二二	七	四九	一	三	二五	七一
四十二年	二一	二二	七	四九	一	三	二五	七一
四十三年	二〇	二〇	五	四五	一	三	二五	七一
四十四年	二七	二四	一	六一	一	三	二五	七一
大正元年	二二	二〇	一七	五八	一	三	二五	七一
二年	二二	二四	一一	五七	一	三	二五	七一
三年	二一	一四	一三	四八	一	三	二五	七一
四年	三〇	一九	一四	六三	一	三	二五	七一
五年	一六	一五	七	三八	一	三	二五	七一
六年	二七	一五	一一	五三	一	三	二五	七一
七年	二〇	二〇	五	四五	一	三	二五	七一
八年	二三	一七	一〇	五〇	一	三	二五	七一
九年	二一	二二	九	五三	一	三	二五	七一
十年	二七	一七	九	五三	一	三	二五	七一
十一年	二三	二二	一一	五六	一	三	二五	七一
十二年	一八	二六	一五	五九	一	三	二五	七一
十三年	三〇	三二	二二	八四	一	三	二五	七一

總計	外 區					東 北 海 道	區 海 南 西					區									
	朝 野	長 野	岐 阜	山 梨	奈 良	埼 玉	北 海 道	德 島	高 知	宮 崎	沖 繩	鹿 島	熊 本	佐 賀	長 崎	福 岡	大 阪	兵 庫	香 川		
五七八	三	七	八	三	三	四	一	一	一	一	二	一	一	一	三	六	三	八			
五八三	一	二	五	一	二	四	一	一	二	八	二	四	四	七	四	九	五	一	三	七	二
二七四	八	二	一	三	七	四	七	一	四	一	三	七	八	三	二	一	五	一	一	一	一
四三三	三	一	一	一	二	三	三	一	二	二	四	四	三	三	五	二	六	二	二	二	二
一〇三五	二	二	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四四三〇	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二二四六五	一	二	五	一	一	〇	〇	三	一	五	四	六	五	八	二	〇	二	二	九	八	五
二〇四三九	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

附 錄

一 職員移動 (自昭和二年十月至同三年十月)

昭和二年十二月二十六日任水産講習所技師	岡田光世	在外研究員 教授山本祥吉
昭和三年二月一日休職ヲ命ス	技 手 宇田道隆	助教兼農三浦正
昭和三年三月一日在外研究員ヲ命ス	教 授 大谷武夫	農林屬兼水産講習所助教今村與作
昭和三年三月九日法規ニ關スル教授囑託ヲ解ク	囑託員橋本實斐	農林技手兼水産講習所助教三浦正
昭和三年三月九日法規ニ關スル教授囑託ヲ解ク	囑託員宮島信夫	農林技手三浦正
昭和三年三月九日法規ニ關スル教授囑託ヲ解ク	囑託員鈴木梅太郎	農林事務官兼水産講習所教授井出正孝
昭和三年三月九日化學ニ關スル事項囑託ヲ解ク	囑託員西木健郎	技 手 丸田秀夫
昭和三年三月九日電氣應用漁具試驗囑託ヲ解ク	囑託員岡田武松	囑託員門奈庄作
昭和三年三月九日漁業基本調査ニ關スル事項囑託ヲ解ク	囑託員石川千代松	助教三宅豊
昭和三年三月九日魚病研究及魚種改良試驗囑託ヲ解ク		

昭和三三年三月三十一日願ニ依リ動物發生學及組織學教授囑託ヲ解ク
囑託員 立 田 鐵 二

昭和三三年三月三十一日願ニ依リ物理化學教授囑託ヲ解ク
囑託員 政 池 仁

昭和三三年三月三十一日願ニ依リ船舶運轉士事務取扱囑託ヲ解ク
囑託員 葛 西 清 重

昭和三三年三月三十一日願ニ依リ船舶運轉士事務取扱囑託ヲ解ク
在外研究員 教授 寺 尾 新

昭和三三年三月三十一日歸朝
東北帝國大學助教 松 生 義 勝

昭和三三年四月六日任水産講習所教授
囑託員 小 田 賢 郎

昭和三三年四月十三日土木學、測量術及製圖教授囑託ヲ解ク
相 川 廣 秋

昭和三三年四月三十日海洋ニ關スル調査ヲ囑託ス
教 授 山 本 久 平

昭和三三年四月三十日依願免本官
囑託員 庵 原 順 一

昭和三三年四月三十日(本所々屬船舶運轉士事務取扱囑託ヲ解ク
漁船運用術教授並ニ曳網漁業試驗ヲ囑託ス
大 森 節 夫

昭和三三年五月九日任水産講習所技手
技 師 日 比 義 三

昭和三三年六月二十日菅鷹丸船長ヲ免シ海洋調査部勤務ヲ命ス

昭和三三年六月二十日菅鷹丸一等運轉士ヲ免シ菅鷹丸船長ヲ命ス
囑託員 今 村 喜 市

昭和三三年七月四日任農林事務官兼水産講習所教授
教授兼農林事務官 井 出 正 幸

昭和三三年七月四日任農林技師
農林屬兼農林技師兼水産講習所技師 松 尾 政 次 郎

昭和三三年七月四日任農林技師
農林技師兼水産講習所技師 三 宅 好 美

昭和三三年七月十日任水産講習所技師
技 手 木 村 喜 之 助

昭和三三年七月十二日任農林技師
技 師 日 比 義 三

昭和三三年八月八日雲鷹丸代船建造設計ニ關スル調査ヲ囑託ス
囑託員 山 本 武 藏

昭和三三年八月二十四日任水産講習所教授兼農林事務官
農林屬兼水産講習所教授 安 心 院 助 一

昭和三三年八月二十五日庶務課長ヲ免ス
屬 員 上 保 喜

昭和三三年八月二十五日庶務課長ヲ命ス
教 授 安 心 院 助 一

昭和三三年十月十八日北海道廳技手ニ轉任ス
技 手 森 本 敬 義

二 學 友 會

德操ヲ研礎シ體育ノ發達ヲ期センカ爲メ職員生徒相謀リテ學友會ヲ組織シ所長ヲ會長トシ本所監督ノ下ニ開會スルモノニシテ之ニ要スル費用ハ職員並生徒ノ釀金ヲ以テ支辨ス

本會ハ學藝部及運動部ノ二部ニ分チ學藝部ヲ更ニ講演、辯論ノ一部、運動部ヲ更ニ端艇柔道劍道庭球角力及水泳ノ六部トシ學藝部ニ於テハ毎月一回講演會ヲ開キ或ハ知名ノ士ヲ聘シ或ハ本所教官ノ講演ヲ請ヒ以テ生徒ノ德風ヲ發揚センコトヲ期シ又一方ニ於テハ寄宿舎ノ一部ニ圖書室ヲ設ケ各種ノ書冊ヲ蒐集シテ自由ニ閱覽スルノ便ニ供セリ

運動部ニ於テハ各部毎年一回大會ヲ開キテ技術ノ鍊磨身體鍛練ノ目的ヲ達セシメンコトヲ期セリ
本會役員左ノ如シ

會 長、岡村金太郎
幹 事 妹尾秀實

水産講習所學友會規則

第一章 總 則

第一條 本會ハ水産講習所學友會ト稱ス
第二條 本會ハ會員ノ親睦ヲ厚フシ精神ノ修養身體ノ鍛練ヲ爲スヲ目的トス
第三條 本會ハ本所現舊職員出身者及生徒ヲ以テ組織ス
第四條 本會ハ其目的ヲ達センカ爲左ノ二部ヲ置ク

一 學藝部

二 運動部

學藝部ヲ分チテ講演部及辯論部ノ二部トシ運動部ヲ分チテ端艇部、柔道部、劍道部、庭球部、角力部及水泳部ノ六部トス
第五條 各部ニ於テ其細則ヲ設ケタルトキハ會長ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 會 員

第六條 會員ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 通常會員(本所生徒)
- 二 特別會員(本所職員)
- 三 贊助會員(本所出身者及舊職員)

第三章 役員

- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 一 會長 一名本所所長之ニ任ス
 - 二 幹事 三名本所職員中ヨリ會長之ヲ囑託ス
 - 三 部長 學藝部運動部各一名 同上
 - 四 理事 三名 同上
 - 五 運動部委員長 六名 同上
 - 六 會計掛 二名 同上
 - 七 委員 學藝各部三名、運動各部二名 生徒互選
- 但シ端艇部委員ハ六名トス
- 第八條 會長ハ會務ヲ總理ス
- 幹事ハ會長ヲ補佐シテ本會ノ會務ヲ掌ル
- 部長ハ其部ノ事務ヲ掌ル
- 理事ハ學藝部長ヲ補佐シ其部ノ事務ヲ掌ル
- 運動部委員長ハ部長ヲ補佐シ各部ノ事務ヲ掌ル
- 會計掛ハ本會ノ會計事務ヲ掌ル
- 委員ハ其部長及委員長ノ指揮ヲ承ケ及會計委員ハ會計掛ヲ補佐シ各事務ヲ處理ス
- 第九條 委員ノ任期ハ一年トシ毎年四月ニ始マリ翌年三月ニ終ル

委員ノ改選ハ毎年四月之ヲ行フ

第四章 會議

- 第十條 會議ヲ分ツテ總會役員會及部會トス
- 第十一條 總會ハ毎年四月一回之ヲ開ク
- 第十二條 役員會ハ役員ヲ以テ組織シ重要ナル會議ヲ決議ス
- 第十三條 部會ハ其部ニ關スル事務ヲ決議ス
- 部會ノ決議ハ會長ノ承認ヲ承クヘシ
- 第十四條 必要ノ場合ニ於テハ會長ハ臨時總會ヲ開クコトアルヘシ
- 第十五條 通常會員ノ會費ハ一箇年金九圓トシ各學年ノ始ニ之ヲ前納スルモノトス
- 特別會員ノ會費ハ俸給年額三百分ノ一トシ毎月之ヲ分納ス
- 第十六條 通常會員ハ入會金二圓五十錢ヲ納ムルモノトス
- 第十七條 豫算ハ毎年三月役員會ニ於テ之ヲ決議ス
- 各部會ニ於テハ毎年三月ニ其部豫算ヲ決議シ會長ニ差出スヘシ
- 第十八條 會計決算ハ毎年ノ總會ニ之ヲ報告スルモノトス
- 第十九條 經費ノ剩餘アルトキハ之ヲ基本金トシテ積立テ確實ナル銀行ニ預ケ入ルルモノトス

第五章 會計

三 財團法人水産研究獎勵會

本所創立ヨリ十年水産講習所創立ヨリ二十年ニ相當スル明治四十年三月二十二日ヲトシ有志者相謀リ水産研究獎勵會獎學資金ヲ募集シ翌四十一年六月創立資金一萬二千四百三十四圓六十七錢四厘ヲ以テ財團法人ヲ設立シ水産講習所生徒及其他ノ者ニ對シ水産ニ關スル研究ヲ獎勵スル爲メ學資又ハ資金ヲ補助或ハ貸與若ハ賞與スルコトトナセリ同財產ハ現時登錄資産八萬壹千圓ニシテ創立以來本所生徒ノ學資補助ヲ受ケタルモノ二十四人此金額九千四百四十四圓五十五錢貸與ヲ受ケタルモノ四十三人此金額八千九百八十八圓ニシテ内本年度ニ於テ學資補助ヲ受ケタルモノ二人此金額四百八十圓學資貸與ヲ受ケタルモノ七人此金額壹千六十五圓賞與ヲ受ケタルモノ二人此金額四十圓ナリ

寄附行爲 (昭和二年四月二十三日改正)

- 一 目的
- 第一條 本財團法人ハ水産講習所生徒及其他ノ者ニ對シ水産ニ關スル研究ヲ獎勵スル爲メ學資又ハ資金ヲ補助シ貸與シ若クハ賞與ヲ附與スルニアリ
- 二 名稱
- 第二條 本財團法人ハ財團法人水産研究獎勵會ト稱ス
- 三 事務所
- 第三條 本法人ハ事務所ヲ東京市深川區越中島八番地水産講習所内ニ置ク
- 四 資産
- 第四條 本法人ハ左記ノ資産ヲ以テ組成ス
- 一、 牧村眞ノ募集ニ係ル水産講習所獎學資金ノ現金及有價證券
 - 二、 牧村眞ノ募集ニ係ル伊谷以知二郎獎學資金ノ現金及有價證券
 - 三、 故山脇宗次遺族ノ寄附ニ係ル現金
 - 四、 故林田甚八遺族ノ寄附ニ係ル現金
- 第五條 本法人ハ寄附金品ヲ受クルコトヲ得
- 第六條 本法人ノ經費ハ其資産ヨリ生スル收入ヲ以テ支辨ス但シ寄附金募集ニ要スル經費ハ資産ヨリ支出スルコトヲ得

第七條 本法人ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 本法人ノ收支豫算決算並ニ事業ノ狀況ハ毎年一同常議員會ノ承認ヲ經テ發表ス

第九條 本法人解散スルニ到リタルトキハ顧問理事監事全員ノ同意ヲ得且ツ常議員會ノ決議ヲ經タル後主務官廳ノ許可ヲ得テ其實產ヲ本財團法人ノ目的ト同一ナルカ又ハ之ト類似セル他ノ學校團體若クハ學會ニ寄附シ本法人設立者ノ目的ヲ永遠ニ繼續セシム

第十條 本法人ハ法定ノ解散事由發生スルニアラサレハ解散スルコトナシ

六 役員

第十一條 本法人ニハ理事八名(内一名ハ水産講習所長ヲ以テ之ニ充ツ但シ其承諾ヲ得サル場合ハコノ限リニアラス)監事三名常議員三十名ヲ置ク但シ東京府及ヒ隣接縣在住者ニ限ル
理事ノ中一名ヲ理事長トシ水産講習所長タル理事ヲ以テ之ニ充ツ若シ水産講習所長タル理事アラサル場合ニハ理事ノ互選ニ依リ之ヲ定ム水産講習所長タル理事以外ノ理事ハ常議員會ニ於テ互選ス其任期ハ三ヶ年トス
理事ハ互選ヲ以テ常務理事ヲ定ム
監事ハ常議員會ニ於テ互選ス其任期ハ二ヶ年トス
常議員ノ任期ハ四ヶ年トシ其任期満了前常議員會ニ於テ後任者ヲ推薦ス補缺ノ場合亦同シ

四 試験報告及其他刊行物

明治三十二年以降本所ニ於テ刊行シタル試験報告其他主ナルモノノ左ノ如シ

一 水産講習所試験報告

第一卷

第一册(三十二年三月)	浮子材料試験第一回報告	農學士	川合角也
	各種鮫肝油採取試験第一回報告	農學士	伊谷以知二
	海豚皮革試験第一回報告	農學士	谷中知信
	普通製鹽ト洗取製鹽トノ成分比較	農學士	小塚本道遠
	鯉魚温室及普通孵化試験	農學士	藤田經信
	鯉卵孵化水質適否試験	農學士	日藤田經忠
	神奈川縣下牡蠣飼育試験	農學士	藤田經信
	いたばかき蕃殖方法調査報告	農學士	藤田經信
	多摩川香魚人工孵化試験第一回報告	農學士	大服石部芳他三助
	龍蝦孵化試験第一回報告	農學士	大服石部芳他三助

第二卷 (三十四年八月)

第二册(三十二年七月)	ウロスリツクスノ結實作用ニ關スル研究	理學博士	岡村金太郎
	繭詰試験報告	農學士	内村達次郎
	纖維試験成績第一回報告	農學士	吉岡哲太郎
	天蠶絲製造試験第一回報告	農學士	藤田經信
	牡蠣養殖試験第一回報告	農學士	藤田經信
	附東京海海水観測表	農學士	藤田經信
	龍蝦温室孵化並育養試験第一回報告	農學士	今野部寅吉
	わかめ蕃殖豫備試験報告	農學士	今野部寅吉
	あさくさのり調査ニ付神奈川・愛知・三重・宮城・岩手縣下出張報告	農學士	岡村金太郎
	多摩川香魚人工孵化試験第二回報告	農學士	岡村金太郎
	龍蝦孵化試験第二回報告	農學士	岡村金太郎
	漁網絲試驗第二回報告	農學士	大服石部芳他三助
	ひらめ人工孵化試験報告	農學士	大服石部芳他三助

理事監事常議員中缺員ヲ生シタルトキハ之ヲ補缺スルモノトシ其就任者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十二條 理事長ハ本法人ヲ代表ス
常務理事ハ常務ヲ處理シ理事長事故アルトキハ之ヲ代理ス
理事ハ本法人ノ事務ヲ掌理ス
監事ハ本法人ノ事務ヲ監査ス
常議員ハ本法人ノ豫算決算並ニ目的ノ實行ノ方法其他重要ナル事項ヲ審議ス

第十三條 本法人ニ功勞アルモノヲ顧問ニ推薦スルコトヲ得
常議員會ハ過半數ノ出席アルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス
顧問ハ各役員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十四條 本寄附行爲施行ニ關スル細則ハ理事ノ多數ニ依リ之ヲ定ム之ヲ變更スル場合亦同シ

七 寄附行爲ノ變更

第十五條 本寄附行爲當初ノ常議員ハ寄附行爲者牧朴眞之ヲ推薦ス本寄附行爲ノ變更ニヨリ理事新任セララルマテ現在理事其事務ヲ掌理ス

第十六條 本寄附行爲爲目的ニ關スル規定ヲ除クノ外顧問理事監事全員ノ同意ヲ經タル後常議員會ノ決議ヲ經主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ變更スルコトヲ得

八 附則

第十七條 本寄附行爲爲施行ニ關スル細則ハ理事ノ多數ニ依リ之ヲ定ム之ヲ變更スル場合亦同シ

第四卷 (四十一年一月)

あさくさのリ移植試験報告 理學博士 岡村金太郎
てんぐさノ構造ヲ論シテ 理學博士 岡村金太郎
寒天質ノ所在ニ及ブ

第五卷

第一册(四十一年六月) 鱈肝油採製試験報告 工學士 小野野次郎
第二册(四十二年三月) 漁業用鹽試驗報告第一 理學士 吉岡哲太郎
第三册(四十二年三月) 貝殼利用試驗 理學博士 岡村金太郎
第四册(四十二年三月) 鱈漁場調査 農學士 西村寅三
第五册(四十二年三月) 練流網漁業試験 農學士 西村寅三
網糸ノ單寧ノ染劑ニ依ル 農學士 西村寅三
防腐染色試験 同 其二
冷蔵貨車鮮魚輸送試験(自第一回至第三回) 伊崎谷以知二郎

第六卷

第一册(四十三年三月) 鱈肝油採製試験報告(第二) 越田徳次郎
第二册(四十三年三月) 勸察加半島産鮭鱒魚類調査報告 越田徳次郎
第三册(四十三年四月) 綿網繰攪方ノ優劣試験報告第一 川合角也
輸出向鹽藏製製造試験報告 伊谷以知二郎
魚皮魚鱗水膠製造試験報告 鍋島徳三郎
鰯飼育試験報告 小野野次郎
赤潮ノ調査 青木尾次郎
第一册(四十四年一月) 餌料製養網活洲試験報告 理學士 小畑瀬尾直次郎

第七卷

第一册(大正元年八月) 靜岡縣下てんぐさ蕃殖試験報告第三一第五報 理學博士 岡村金太郎

第八卷

第一册(大正元年九月) 鱈製製造中微付ニ關スル研究 農學士 西村寅三
製造地ノ差異ト鱈節ノ品等成分トノ關係 木村金太郎
第二册(大正元年九月) 漁業鹽試驗 工學士 船野金一
第三册(大正元年九月) 養殖改良試驗 理學士 藤尾秀實
第四册(大正元年十一月) 四十三、四十四年度冬木町養魚場試驗 日少江東作
第五册(大正元年十二月) 鱈魚梯架設試驗 工學士 日橋英三
第六册(大正元年十二月) たらび蟹調査 理學士 中澤毅一
同製造調査 農學士 松井秀三
第七册(大正二年三月) 沃度灰製造改良試驗 阪元清
第八册(大正二年三月) 鱈乾燥試驗 理學士 藤原章弘
第九册(大正二年三月) 鱈乾燥試驗 理學士 安津井章弘

德市曾網試驗報告 理學士 川合角也
鱈漁場調査第一回報告 理學士 小野野次郎
英佛兩國ニ於ケル鮮魚ノ分配ニ關スル調査 理學博士 岡村金太郎
秋海苔ノ附着狀態ニ就テ 理學博士 岡村金太郎
海苔被害調査報告 理學博士 岡村金太郎
てんぐさ蕃殖試験第二回報告 理學博士 岡村金太郎
露濱沿海州ニコラエウスク方面水産調査 鍋島徳三郎
英國鹽藏業並ニ鱈製業ノ概略 小野野次郎
第三册(四十四年七月) 佐賀縣沿岸海藻蕃殖法 理學博士 岡村金太郎
佐賀縣東松浦郡ふのり養殖試験成績報告 理學博士 岡村金太郎
第四册(四十四年八月) 本邦産沿岸海藻類一查(和文及英文) 理學博士 岡村金太郎
第五册(四十四年九月) 鱈節微付研究第一報 農學士 西村寅三
第六册(四十四年十月) 鱈節微付研究第二報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第三報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第四報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第五報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第六報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第七報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第八報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第九報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第十報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第十一報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第十二報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第十三報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第十四報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第十五報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第十六報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第十七報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第十八報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第十九報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第二十報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第二十一報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第二十二報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第二十三報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第二十四報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第二十五報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第二十六報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第二十七報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第二十八報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第二十九報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第三十報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第三十一報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第三十二報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第三十三報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第三十四報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第三十五報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第三十六報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第三十七報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第三十八報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第三十九報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第四十報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第四十一報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第四十二報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第四十三報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第四十四報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第四十五報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第四十六報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第四十七報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第四十八報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第四十九報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第五十報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第五十一報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第五十二報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第五十三報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第五十四報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第五十五報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第五十六報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第五十七報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第五十八報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第五十九報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第六十報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第六十一報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第六十二報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第六十三報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第六十四報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第六十五報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第六十六報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第六十七報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第六十八報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第六十九報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第七十報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第七十一報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第七十二報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第七十三報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第七十四報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第七十五報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第七十六報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第七十七報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第七十八報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第七十九報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第八十報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第八十一報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第八十二報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第八十三報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第八十四報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第八十五報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第八十六報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第八十七報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第八十八報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第八十九報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第九十報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第九十一報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第九十二報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第九十三報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第九十四報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第九十五報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第九十六報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第九十七報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第九十八報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第九十九報 農學士 西村寅三
鱈節微付研究第一百報 農學士 西村寅三

第十二卷

第一冊(大正五年六月)	新シキ「プロタミン」ニ就キテ	農學士 山本川	丸川久俊
第二冊(大正五年七月)	網ノ染法網糸ノ腐敗網糸ノ材料ニ就テノ研究試驗報告	野川崎合	川村久治
第三冊(大正五年八月)	柔魚鹽辛ノ成熟並ニ貯藏中ニ於ケル窒素化合物ノ分解及ヒ之ニ對スル食鹽ノ影響ニ就キテ	農學士 深井秀三	神谷尙志
第四冊(大正五年九月)	小蝦蟇製造調査及ヒ軟化ノ原因及防止策	農學士 小野辰次	伊谷以知二
第五冊(大正五年十月)	淡水飼養魚類ノ白點病調査報告	農學士 石井重美	田谷和駒
第六冊(大正五年十一月)	赤潮ニ就テ	農學士 酒井順三	伊谷以知二
第七冊(大正五年十二月)	寒天ニ混入セル砂土鑑別ニ就キテ	農學士 松井秀三	吉耶

第十三卷

第一冊(大正六年十月)	鱈油漬試驗報告	小野辰次	丸川久俊
第二冊(大正六年十一月)	海苔色素試驗第一報告	中野道大	川村久治
第三冊(大正六年十二月)	てんぐさ成長試驗	東野道大	神谷尙志
第四冊(大正七年三月)	鱈肉ノ研究	農學士 山本川	伊谷以知二
第五冊(大正七年五月)	發動機甲板操縱裝置	農學士 松井秀三	田谷和駒
第六冊(大正七年六月)	養鱈試驗報告(第二報)	農學士 石井重美	吉耶
第七冊(大正七年七月)	養鱈試驗報告(第一報)	農學士 松井秀三	
第八冊(大正七年八月)	養鱈試驗報告(第三報)	農學士 松井秀三	
第九冊(大正七年九月)	養鱈試驗報告(第四報)	農學士 松井秀三	
第十冊(大正七年十月)	養鱈試驗報告(第五報)	農學士 松井秀三	
第十一冊(大正七年十一月)	養鱈試驗報告(第六報)	農學士 松井秀三	
第十二冊(大正七年十二月)	養鱈試驗報告(第七報)	農學士 松井秀三	

第十四卷

第一冊(大正七年五月)	發動機甲板操縱裝置	農學士 松井秀三	丸川久俊
第二冊(大正七年十月)	水産講習所高島實驗場畜殖保護試驗成績第一次報告	農學士 松井秀三	川村久治
第三冊(大正八年三月)	ほんだわら類ノ成長年限ニ就テ	農學士 松井秀三	神谷尙志
第四冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	伊谷以知二
第五冊(大正八年三月)	伊勢蝦ノ發生ニ就テ(和英兩文)	農學士 松井秀三	田谷和駒
第六冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	吉耶
第七冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第八冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第九冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第十冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第十一冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第十二冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	

第十五卷

第一冊(大正七年五月)	發動機甲板操縱裝置	農學士 松井秀三	丸川久俊
第二冊(大正七年十月)	水産講習所高島實驗場畜殖保護試驗成績第一次報告	農學士 松井秀三	川村久治
第三冊(大正八年三月)	ほんだわら類ノ成長年限ニ就テ	農學士 松井秀三	神谷尙志
第四冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	伊谷以知二
第五冊(大正八年三月)	伊勢蝦ノ發生ニ就テ(和英兩文)	農學士 松井秀三	田谷和駒
第六冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	吉耶
第七冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第八冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第九冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第十冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第十一冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第十二冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	

第十三卷

第一冊(大正六年十月)	鱈油漬試驗報告	小野辰次	丸川久俊
第二冊(大正六年十一月)	海苔色素試驗第一報告	中野道大	川村久治
第三冊(大正六年十二月)	てんぐさ成長試驗	東野道大	神谷尙志
第四冊(大正七年三月)	鱈肉ノ研究	農學士 山本川	伊谷以知二
第五冊(大正七年五月)	發動機甲板操縱裝置	農學士 松井秀三	田谷和駒
第六冊(大正七年六月)	養鱈試驗報告(第二報)	農學士 石井重美	吉耶
第七冊(大正七年七月)	養鱈試驗報告(第一報)	農學士 松井秀三	
第八冊(大正七年八月)	養鱈試驗報告(第三報)	農學士 松井秀三	
第九冊(大正七年九月)	養鱈試驗報告(第四報)	農學士 松井秀三	
第十冊(大正七年十月)	養鱈試驗報告(第五報)	農學士 松井秀三	
第十一冊(大正七年十一月)	養鱈試驗報告(第六報)	農學士 松井秀三	
第十二冊(大正七年十二月)	養鱈試驗報告(第七報)	農學士 松井秀三	

第十四卷

第一冊(大正七年五月)	發動機甲板操縱裝置	農學士 松井秀三	丸川久俊
第二冊(大正七年十月)	水産講習所高島實驗場畜殖保護試驗成績第一次報告	農學士 松井秀三	川村久治
第三冊(大正八年三月)	ほんだわら類ノ成長年限ニ就テ	農學士 松井秀三	神谷尙志
第四冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	伊谷以知二
第五冊(大正八年三月)	伊勢蝦ノ發生ニ就テ(和英兩文)	農學士 松井秀三	田谷和駒
第六冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	吉耶
第七冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第八冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第九冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第十冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第十一冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	
第十二冊(大正八年三月)	養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣ノ細菌學的検査	農學士 松井秀三	

第一冊(大正八年七月)
干鰯毒預防ニ關スル研究(其一)
高木村金太 樽

第二冊(大正九年三月)
海産動物油ノ性状
附海産動物油ノ發熱力及引火力
谷村重忠

第三冊(大正九年三月)
水産物ヲ基トスル調味料ノ研究
小野辰次 輔

第四冊(大正九年三月)
水産講習所 蕃殖保護試驗成績第二次報告
高島實驗場
理學博士 岡村金太 信實

第五冊(大正九年三月)
鮑ノ成長度ニ就テ
理學博士 原妹尾秀太

第六冊(大正九年十月)
動物ノ肉蛋白ニ就テ
農學士 關根秀三 耶

第十七卷
第一冊(大正十年十一月)
魚肉成分ト其呈味關係(第一回)
山本木 祥 吉

第二冊(大正十年十二月)
鯨肉ノ研究(第二回)
赤山本 澤 祥 正吉

魚類ノ脂肪ニ存スル一種ノ「ピタミン」(脂溶性A)ニ就テ
農學博士 關根秀三 耶

動物肉蛋白ニ就テ(第二報)
農學博士 關根秀三 耶

魚類雌雄肉蛋白ノ相違
農學博士 關根秀三 耶

鮭卵ヨリ稚魚ニ至ル發育期間中ニ起ル生物化學的變化ニ就テ(第一報)
農學博士 關根秀三 耶

第三冊(大正十一年三月)
「イースト」ニ關シテ
理學博士 岡村金太 信實

第十八卷
第一冊(大正十一年七月)
「イースト」ニ關シテ
理學博士 岡村金太 信實

第二冊(大正十一年八月)
館山灣調査報告
理學博士 岡村金太 信實

第三冊(大正十一年十月)
館山灣ニ於ケル浮性魚卵並ニ稚仔(第二報)
理學士 長妹尾 輝 友實

第四冊(大正十一年十一月)
館山灣ニ於ケル浮性魚卵並ニ稚仔(第一報)
理學士 長妹尾 輝 友實

第五冊(大正十一年十二月)
館山灣ニ於ケル浮性魚卵並ニ稚仔(第三報)
理學士 長妹尾 輝 友實

第四冊(大正十二年一月)
鮮魚冷蔵試驗報告(第一報)
小川清 一

第十九卷
第一冊(大正十二年六月)
第二回「プロタミン」ノ研究
農學博士 山方不二 雄

第二冊(大正十二年六月)
新シキ「プロタミン」ニ就テ(第二報)
農學博士 山方不二 雄

第三冊(大正十二年六月)
「イースト」ニ關シテ(第二報)
農學博士 山方不二 雄

第四冊(大正十二年六月)
魚類ノ齒門垂ノ蛋白質ニ就テ(第一報)
水産學士 大谷武 清夫

第五冊(大正十二年六月)
「ダワリン」ノ沃化「カルシウム」鹽及「ダワリン」ノ銅鹽ニ就テ(第一報)
水産學士 大谷武 清夫

第六冊(大正十二年六月)
冷蔵セル原料ニテ鯨節製造試驗報告(第一報)
小川清 一

第七冊(大正十二年八月)
魚肉ノ自家消化ニ就テ(第一報)
水産學士 大谷武 清夫

第八冊(大正十二年八月)
第三回「プロタミン」ノ研究(第三報)
農學博士 山方不二 雄

第四冊(大正十二年七月)
新シキ「プロタミン」ニ就テ(第三報)
農學博士 山方不二 雄

水産調味料並復的興味ノ研究(第二報)
小野辰次 輔

第五冊(大正十二年十一月)
鯨節ノ研究(第十三回)
山本木 祥 吉

第六冊(大正十三年四月)
大長養魚、驗場施設
農學士 山本木 祥 吉

第七冊(大正十三年三月)
冷蔵セル原料ニテ鯨節製造試驗報告(第二報)
水産學士 大谷武 清夫

第二十卷
第一冊(大正十三年七月)
水崎養魚試驗場報告(第一報)
中野宗 治

第二冊(大正十三年十一月)
主トシテ冷蔵庫ニ使用スル絕緣材料ノ熱傳導率ニ就テ(和英兩文)
理學士 田野三 豐

第三冊(大正十三年十一月)
ふのりノ發生ニ就テ(和英兩文)
宮崎 廣 三

第四冊(大正十四年三月)
鮭延繩機試驗(和英兩文)
工學士 小星 田 正 巳

同時ニ數個ノ恆溫度ヲ得ル
裝置 (和英兩文)

冷凍肉中製頭蠶蟲ノ幼蟲ハ
生活力ノリヤ(第一研究報告)
(和英兩文)

牡蠣ノ卵割初期ニ及ホ
ス「ウツニウム」ノ影響
(和英兩文)

第二十一卷

第一册(大正十四年八月)

防水劑ヲ配合セル「モルム
ル」ノ吸水ニ就テ
(和英兩文)

公魚卵孵化適温試驗
(和英兩文)

魚卵ノ孵化日數ト温
度トノ關係
(和英兩文)

おこりの養殖ニ就テ
(和英兩文)

第二册(大正十四年十一月)

網ノ水中ニ於ケル抵抗ニ就テ
(和英兩文)

鰾卵孵化適温試驗

鰾ノ卵及精子ノ活力試驗

鱈魚最初ノ人工飼
料ニ就テ(豫報)

鰾卵及稚魚ノ酸素消費量ニ
關スル試驗

みつしこんぶトながこん
ぶトニ就テ(第一圖版)

第三册(大正十四年十二月)

館山灣ニ於ケル浮性魚卵並
ニ其稚仔(第三報)(第二圖版)

北陸沿海ニ於ケル浮性魚卵
並ニ其稚仔(第三、四圖版)

第四册(大正十五年一月)

たらばかに罐詰原料トシテ堅
甲蟹肉及軟甲蟹肉ノ優劣ニ就
テ(附用肉及脚肉ノ比較)

煮熱用水ノ蟹肉ニ及ホス影
響

燈火ニ集ル魚群ニ就テ

こけらも(いはがき)ノ受
精率ニ就テ

ふなむし(漢名、海蛆)ノ生
殖腺原基ニ就テ

「ぶたひ」卵孵化ト温度及比
重トノ關係

第五册(大正十五年三月)

魚肉ノ自家消化ニ就テ
(第二報)

中野宗法

川尻 珍

阿村金太 郎

阿村金三 郎

神谷 尙志

神谷 尙志

關根秀三 郎

關根秀三 郎

關根秀三 郎

林田内森三 郎

寺尾 新

寺尾 新

陳尾 新

阿海老名卓 雄

大谷英武 清

第六册(大正十五年三月)

低溫度ノ鰾卵發育ニ及ホス
影響

寫眞器ヲ用ヒテ船體ノ動搖
ヲ記錄スル新法

溫度トしろむし

あさくさのりの露害試験

第二十二卷

第一册(大正十五年七月)

附着時期ニ違セルまがきの
仔蟲及其稚貝ニ就テ

鰾ノ鰾ニ寄生スル一新粘液
胞子蟲(Mycobolus kojii
sp.)ニ就テ

魚肉ノ自家消化ニ就テ「ア
ンモニア」ノ生成(第三報)

魚肉ノ「アグリコナーゼ」ニ就
テ(第一報)

魚類ノ齒門垂ノ「アミラー
ゼ」ニ就テ

動物肉蛋白質ニ就テ(第三報)

魚類ノ雌雄並ニ筋肉ノ種類
ニヨル肉蛋白質ノ相違

動物肉蛋白質ニ就テ(第四
報)肉蛋白質ノ榮養價(其一)

動物蛋白質ニ就テ(第五報)

肉蛋白質ノ榮養價(其二)

肉蛋白質ノ生長助成能力ト其
L-tyrosine含有量トノ關係

第二册(大正十五年十月)

水産食料品ノ化學的研究
(第一報)

石灰及苦土ノ新陳代謝ニ就テ

水産哺乳動物ノ化學的研究
(第一報)

水産哺乳動物ノ化學的研究
(第二報)

鯨ノ副腎ニ就テ(第一報)

鯨ノ副腎ニ就テ(第二報)

鯨ノ副腎ニ就テ(第三報)

鯨ノ副腎ニ就テ(第四報)

水産食料品ノ化學的研究
(第二報)

鰾ノ蛋白質ニ就テ

水産哺乳動物ノ化學的研究
(第二報)

水産動物ノ精子ノ化學的研
究(第一報)

水産動物ノ精子ノ化學的研
究(第二報)

水産動物ノ精子ノ化學的研
究(第三報)

水産動物ノ精子ノ化學的研
究(第四報)

關根秀三 郎

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

山 川 洵

Articles in Foreign Language.

- Marukawa, H.: Plankton-Organisms (Copepoda Collected off the Coasts of Provs. Bōhū, Izu and Suruga.) of Japan, (Vol. IV. Jan. 1908)
- Tokuhisa, M.: Examination of some Diatoms found in the digestive Organs of a Smelt (*Plecoglossus altivelis*) from the Tama River. (Vol. IV. Jan. 1908)
- Okamura, K.: Some Littoral Diatoms of Japan. (Vol. VII. No. 4. Oct. 1911)
- Terao, A.: On the Development of *Panulirus japonicus* (V. Siebold) (Vol. XIV. No. 5. Mar. 1919)
- Hoshino, S., Tauti, M., Miyake, Y.: Thermal Conductivity of Cold Storage Insulators. (Vol. XX. No. 2. Nov. 1924)
- Miyazaki, H.: On the Development of *Gloiopeltis*. (Vol. XX. No. 3. Nov. 1924)
- Hoshino, S., Ose, J., Hugiya, M.: The Lure Hauler. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)
- Seno, H., Tauti, M.: Apparatus for maintaining a Series of Constant Temperatures. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)
- Seno, H., Kitagawa, M., Iwamoto, S.: The Effect of Continued Cold on the Viability of the Plerocercoid of *Dibothriophthalmus latus* L. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)

120

- Higurashi, T.: Optimum Water Temperature for hatching of the Eggs of *Plecoglossus altivelis* T. & S. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)
- Terao, A.: The effects of Uranium Irradiation on the early Cleavage Stages of Oysters. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)
- Hoshino, S., Tauti, M., Miyoshi, K.: On the Absorption of Water by Water-Proof Mortars. (Vol. XXI. No. 1. Aug. 1925)
- Higurashi, T.: Optimum Temperature for hatching the Eggs of *Hypomesus olidus* Pallas. (Vol. XXI. No. 1. Aug. 1925)
- Higurashi, T., and Tauti, M.: On the Relation between Temperature and the Rate of Development of Fish-eggs. (Vol. XXI. No. 1. Aug. 1925)
- Okamura, K.: On the Culture of *Gracilaria contervoides*. (Vol. XXI. No. 1. Aug. 1925)
- Tauti, M., Miura, T., and Sugei, K.: Resistance of Plane Nets in Water (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)
- Higurashi, T. and Nakai, N.: Optimum Water Temperature for hatching the Eggs of Carp. (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)
- Nakano, S. and Nozawa, A.: On the Vitality of the Eggs and Sperm of *Oncorhynchus mason* (Land-locked). (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)
- Nakano, S.: An Experiment on the artificial food of the young Fry of *Oncorhynchus mason* (Land-locked) A preliminary report (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)

- Kawajiri, M.: On the Oxygen Consumption during Development of the Eggs and Fry of the *Oncorhynchus Mason* (Land-locked) (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)
- Okamura, K. and Uyeda, S.: On *Laminaria angustata* Kjellm and *L. longissima* Miyabe. (Pl. I) (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)
- Kamiya, T.: The Pelagic Eggs and Larvae of Fishes in the Taiyama Bay. (Prof. Chiba). 3rd Report (Pl. II) (Vol. XXI. No. 3. Dec. 1925)
- Kamiya, T.: The Pelagic Eggs and Larvae of Fishes on the Coast of "Hokuriku" (Northwestern Part of Japan Proper.) (Pls. III; IV.) (Vol. XXI. No. 3. Dec. 1925)
- S. Kiné, H. and Kakizaki, Y.: Comparison of the meats of harder and softer Shell Crabs-*Paralithodes Camichelator* (Tjiesius). (Vol. XXI. No. 4. Jan. 1926)
- S. Kiné, H. and Kakizaki, Y.: Influence of cooking Water on Crab Meat. (Vol. XXI. No. 4. Jan. 1926)
- Tauti, M. and Hayashi, H.: On the Shoal of Fishes crowding toward a Lamp. (Vol. XXI. No. 4. Jan. 1926)
- Terao, A.: On the Fertilizin of *Ostea circumpecta* Pilsbry. (Vol. XXI. No. 4. Jan. 1926)
- Terao, A. and Tung-zen-cheng.: On the Rudiments of Gonad of *Ligyia eolicea* (Roux). (Vol. XXI. No. 4. Jan. 1926)

- Seno, H., Ebina, K. and Okada, T.: Effects of Temperature and Salinity on the Development of the Ova of a marine fish, *Caldonus japonicus*. (C. & V.) (Vol. XXI. No. 4. Jan. 1926)
- Oya, T., Sumi, E. and Shimada, K.: On the Autolysis of Fish Muscle. II. (Vol. XXI. No. 5. Mar. 1926)
- Higurashi, T. and Nakai, N.: Influence of the lower temperature on the development of the Eggs of *Plecoglossus altivelis* T. & S. (Vol. XXI. No. 6. Mar. 1926)
- Terao, A. and Hiruma, T.: Temperature and Kinchytiae or white Worms, *Eichlyraeus* sp. (Vol. XXI. No. 6. Mar. 1926)
- Sato, N.: A new method of recording the Rolling and Pitching of ships. (Vol. XXI. No. 6. Mar. 1926)
- Okamura, K., Ueda, S. and Miyake, Y.: On the harmful Action of Deep-fog on *Porphyra tenera* Kjellm. (Vol. XXI. No. 6. Mar. 1926)
- Hori, J.: Notes on the full grown Larva and Spat of the Japanese common Oyster, *Ostrea Gigas* Thunberg. PL. I. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
- Nakai, N.: Eine neue Myxosporidien art aus Kiemen der Karpfens, PL. II. III. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
- Oya, T. and Sumi, E.: On the Autolysis of fish muscle. III. Formation of Ammonia. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
- Oya, T. and Shimada, K.: On Glycogenase in the fish muscle. 1.

- (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
Oya, T. and Harada, K.: On Amylase in *Pyrosoma coccia* of Scyrida quinqueradaria. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
Sekine, H. and Akiyama, S.: On the Muscle Protein. III. Differences between the Muscle Protein of Male and Female Fishes and different kinds of muscle of them. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
Sekine, H.: On the muscle. Protein. I. The nutritive value of the muscle Protein. 1. Comparison of fishes and mollusks. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
Sekine, H.: On the muscle Protein. V. The nutritive value of the muscle Protein. II. The amount of lysine in the muscle Protein and its effect on the growth of young rats. (Vol. XXII. No. 1. Jul. 1926)
Yamagawa, M.: Chemical study on the Marine Food. I. On the Metabolism of Calcium and Magnesium of the Dog fed on Fish. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
Yamagawa, M. and Nishimura, S.: Chemical study on the Marine Mammal. I. 1. On the Adrenal of the whale. Adrenaline. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
Yamagawa, M. and Shibuya, Y.: Chemical study on the Marine Mammal. II. Hydrolysis of the muscular Protein of the whale, *Nagasankujira*, *Balaenoptera Physalus* (Linnaeus). (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
- (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
Yamagawa, M. and Ito, T.: Chemical study on the sperm of the Marine Animals. II. On the nucleic acid in Bonito Testis. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
Yamagawa, M. and Iwaka, B.: Chemical study on the sperm of the Marine Mammal. III. I. On the Sperm of the Sardinia. *Ambygaster Immaculatus*. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
Yamagawa, M. and Yasaka, S.: Chemical study on the Marine Mammal. IV. 1. On the inner organs of the whale. a. Spleen and Pancreas of *Iwashikujira*, *Balaenoptera Borealis* (Lesson). (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)

- (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
Yamagawa, M., Nishimura, S. and Horinchi, S.: Chemical study on the Sperm on the Marine Animal IV. 1. On the Sperm of "Bachi," *Ceracephale Oasawai* Tzuka. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
Yamagawa, M. and Niyata, F.: Chemical study on Protamine. V. 4. On the new Protamines. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)
Senō, H., Hori, J. and Kusakabe, D.: Effects of Temperature and salinity on the development of the Eggs of the Common Japanese Oyster, *Ostrea gigas*, Thunberg. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)
Hori, J. and Kusakabe, D.: Preliminary experiments on the Artificial Culture of Oyster larvae. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)
Yamanoto, S. and Masuda, S.: On the chemical Change in the heat-drying of fish-muscle, I. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)
Mouki, Y.: On the Decomposition of Salted Fish muscle. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)
Yamamoto, T. and Sato, N.: A Simple Rolling Recorder and an Example of its use. (3rd Reports on "Rolling Recorder.") (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)
Higurashi, T. and Nakai, N.: On the Influence of lower Temperature upon the development of the Eggs of *Hypomesus olidus* Pallas. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)
Sano, H. and Hori, J.: A new method for the fattening of oyster. (Vol. XXII. No. 4. Feb. 1927)
Nakai, N. On the Influence of water temperature upon the Development of the Eggs of *Leuciscus hakuenis* Günther. Plate V. (Vol. XXII. No. 4. Feb. 1927)
Yamagawa, M. and Nishimura, S.: Chemical study on the sperm of the marine Animal. V. On the Hydrolysis of Testis of Herring (Vol. XXII. No. 4. 1926)
Yamagawa, M. and Shibuya, Y.: Chemical study on the marine Food. III. On the Hydrolysis of Muscle-protein of *Suzuki*, *Lateolabrax Japonicus*. (Vol. XXII. No. 4. Feb. 1927)
Kimura, K. and Kotani, K.: Ueber die Ursubstanzen der Gärung des *Uni-no-Shiwokara* und deren Verbeugung. (Vol. XXII. No. 4. 1927)
Tani, M.: On the Vacuum Drying of Fishes. (Vol. XXII. No. 5. Mar. 1927)
Tani, M.: On the weakening of the Strength of Nerving Cordis in water. (Vol. XXII. No. 5. Mar. 1927)
Oya, T. and Sumi, E.: On Autolysis of Fish muscle IV. (Vol. XXII. No. 5. Mar. 1927)
Oya, T., Kawakami, M. and Suzuki, S.: On the digestive Ferment in the Pancreas of *anguilla Japonica*. (Vol. XXII. No. 5. Mar. 1927)
Oya, T. and Hatanaka, S.: On the proteolytic Enzyme in the

- nyloric Coeca of Scomber Japonicus (Vol. XXII. No. 5. 1927)
- Oya, T. and Shimada, K.: On Glycogeng in the fish-muscle II. (Vol. XXII. No. 5. 1927)
- Uyeda, S.: On the cold-storage of the living fronds of "Asakusarori." Pl. I. (Vol. XXIII. No. 1. Aug. 1927)
- Tanri, M.: On the heated-wind-drying of fishes. (Vol. XXIII. No. 1. Aug. 1927)
- Tanri, M.: A study on netting cords. I. The strength of the netting cords against the repeated blow. I. (Vol. XXIII. No. 1. Aug. 1927)
- Kawajiri, M.: On the preservation of the egg and sperm of *Oncorhynchus mason* (Walbaum) (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)
- Kawajiri, M.: The optimum temperature of water for the hatching of the eggs of trout, *Oncorhynchus mason* (Walbaum) (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)
- Kawajiri, M.: On the relation between the temperature and the vitality of *Spirogyra* sp. (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)
- Miyake, Y.: On the plane nets. I. Resistance of plane nets in water. (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)
- Tanri, M.: On the influence of temperature and salinity upon the rate of development of fish-eggs. (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)
- Nakai, N.: On the development of a parasitic Copepod, *Lernaea elegans* Leigh-sharpe, infesting on *Cyprinus carpio* L. (With 7 Text figures and Plate II-IV) (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Kawajiri, M.: On the optimum temperature of water for hatching the eggs of Rainbow trout (*Salmo irideus* (Gibbons)) (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Kawajiri, M.: The influence of variation of temperature of water on the development of fish-eggs. (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Hata, K.: On the influence of four kinds of vibration upon the eggs of *Oncorhynchus Mason* (Brewort) (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Uyeda, S.: Neue grüne Alge als Nahrung für die Schalenlarven der Auster. (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Hori, T. and Kusakabe, D.: On the Artificial culture of oyster larvae (II) (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Uda, M.: Relation between the daily catch of fish and the meteorological elements. — Part. I. Statistical Studies in the influence of the motion of cyclone upon the fishing. (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)
- Tanri, M.: Studies of netting cords. II. Relation between the Load and the Elongation of netting cords. (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)

- Matsui, Y. and Kumada, A.: Studies on Fish-disease. I. Ikarimushi (*Lernaea elegans* Leigh-Sharp), A new parasitic copepod of Japanese Eel. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Matsui, Y. and Yamada, T.: On Nature of Water and Bottom of Fish-rearing ponds I. On a case of damage done to the cultivated fish by Acid-Soil. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Yamada, T.: On Nature of Water and Bottom of Fish-rearing-ponds. II. Analytical table compiled up to the fiscal year 1926. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshima, S.: Chemical Studies on the Silk-worm-pupa as Fish-food. I. The difference of chemical constitution of Pupa on the sort of Silk-worm. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshima, S.: Chemical Studies on the Silk-worm-pupa as Fish-food. II. The Digestion of Silk-worm-pupa with Protease of Eels. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshima, S.: Chemical Studies on the Silk-worm-pupa as Fish-food. III. A chemical change of Stored Pupae. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshima, S.: On the seasonal change of the chemical constitution of muscle of Carps. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1927)
- Oshima, S.: On the chemical change of the Eels in the course of Fasting. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Isii, K.: A new method of measuring the degree of vacuum in

- Packed can. (Vol. XXIII. No. 5. Mar. 1928)
- Nakai, N.: On the influence of the water temperature upon the hatching of eggs of *Hypomesus olidus* Pallas.—III. (Vol. XXIII. No. 5. Mar. 1928)
- Hori, J.: On the relation between the temperature and vitality of the oyster preserved in the air. (Vol. XXIII. No. 5. Mar. 1928)
- Tanri, M.: Studies of netting cords. III. The strength of netting cords against the Repeated Blow. (2) (Vol. XXIII. No. 5. Mar. 1928)

一、漁業基本調査報告

- 第四册(大正四年三月)
- 第五册(大正七年三月)
- 第六册(大正七年九月)
- 第七册(大正八年一月)
- 第八册(大正八年二月)
- 第九册(大正八年三月)
- 第十册(大正八年三月)

二、海洋調査彙報

- 第一卷第一册(大正十五年三月)

英文同 (大正十五年九月)
第二卷第一册(昭和三年三月)
英文同 (昭和三年三月)

四、海洋調査要報

- 第一報(大正七年十月)
- 第二報(大正七年十二月)
- 第三報(大正八年三月)
- 第四報(大正八年六月)
- 第五報(大正八年十月)
- 第六報(大正八年十一月)
- 第七報(大正九年三月)
- 第八報(大正九年六月)
- 第九報(大正九年十月)
- 第十報(大正九年十二月)
- 第十一報(大正十年三月)
- 第十二報(大正十年七月)
- 第十三報(大正十年十月)
- 第十四報(大正十年十二月)
- 第十五報(大正十一年三月)
- 第十六報(大正十一年六月)
- 第十七報(大正十一年十月)
- 第十八報(大正十一年十二月)

- 第十九報(大正十二年三月)
- 第二十報(大正十二年六月)
- 第二十一報(大正十三年三月)
- 第二十二報(大正十三年三月)
- 第二十三報(大正十三年三月)
- 第二十四報(大正十三年六月)
- 第二十五報(大正十三年十月)
- 第二十六報(大正十三年十二月)
- 第二十七報(大正十四年三月)
- 第二十八報(大正十四年六月)
- 第二十九報(大正十四年十月)
- 第三十報(大正十四年十二月)
- 第三十一報(大正十五年三月)
- 第三十二報(大正十五年七月)
- 第三十三報(大正十五年九月)
- 第三十四報(大正十五年十二月)
- 第三十五報(昭和二年三月)
- 第三十六報(昭和二年六月)
- 第三十七報(昭和二年十月)
- 第三十八報(昭和二年十二月)
- 第三十九報(昭和三年三月)
- 第四十報(昭和三年六月)

五、其ノ他ノ刊行物

獨伊埃淡水養魚視察報告	日 暮
日本鮭鱒養殖誌	松原新之助
水産講習所圖書目錄(明治四十五年二月)	
海産物ノ化學的研究(代際寫)	農學博士 鈴木梅太郎
原種改良論(代際寫)	理學博士 石川千代松
魚類冷蔵法	矢野 實
海獸魚皮製法	谷村 重忠
浮游生物檢索圖解	
歐米鹹水養殖視察報告	理學士 妹尾秀實
海洋調査ト魚族ノ回游(大正七年五月)	
加奈陀太平洋岸嶺大鱈漁業調査報告(大正八年三月)	
水産製造ニ關スル調査試驗研究項目及内容目錄並ニ抄錄集(大正八年三月)	
朝鮮天日製鹽調査報告書(大正八年三月)	
浮游生物檢索圖說第二册(大正十年三月)	
魚圖製造法(大正十年四月)	
激震地方ニ於ケル海洋ト漁業其一(大正十二年十二月)	
激震地方ニ於ケル東京海灣ノ海洋並ニ漁業狀態調査概況	
激震地方ニ於ケル海洋ト漁業其二(大正十三年三月)	
震災後ニ於ケル相模灣及房總沿岸海洋調査概況	
國際水産統計資料(大正十三年三月)	

六、交換外國雜誌

英文水産講習所一覽(大正十五年八月)
和文水産講習所圖書目錄(昭和三年七月)

Administration Report of the Government Marine Biologist of Madras Fisheries Department.
Annual Report of the U. S. Bureau of Fisheries.
Arbeiten der Biologischen Volga Station.
Annalen des Naturhistorischen Museum in Wien.
American Museum Novitates.
Anzeiger der Akademie der Wissenschaften in Wien.
Archivos do Museu Nacional do Rio de Janeiro.
Arbeiten der Biologischen Station zu Kossino.
Arkiv för Zoologie.
Annals of the Manchuria Research Society.
Archiv der Deutschen Seewarte.
Arquivos do Instituto Bacteriologico Camara Pestana.
Acta Horti Universitatis Latvianis.
Bulletin of the Bureau of Applied Ichthyology.
Bulletin of the U. S. Bureau of Fisheries.
Bulletin de la Societe Centrale d'Aquiculture et de Pêche.
Boletim do Museu Nacional do Rio de Janeiro.
Bulletin de l'Institut Océanographique.

Bulletin of the Scripps Institution of Oceanography.
 Bulletin de l' Institut des Recherches Biologiques de Perm.
 Bollettino dei Musei di Zoogeografica Anatomia Comparata della
 R. Università di Genova.
 Bulletin of Ichthyological Laboratory of Baku.
 Bulletin of the University of Nebraska.
 Bulletin of Pacific Ocean Scientific Fishery Research Station.
 Bulletin of the American Museum of Natural History.
 Bergens Museum Aarbok.
 Bergens Museum Aarsberetning.
 California Fish & Game.
 Classified List of Publications of the Carnegie Institution.
 Contributions to Canadian Biology & Fisheries.
 Contributions from the Zoological Laboratory of Johns Hopkins
 Univ.
 Contributions from the Biological Dept., Clark Univ.
 Fischerbote.
 Fishery Board for Scotland-Annual Report.
 Fishery Board for Scotland-Salmon Fisheries.
 Fishery Board for Scotland-Scientific Investigations.
 Finländische Hydrographisch Biologische undersøkelningar.
 Hydrographic Review.
 Illinois Health News.

International Review of the Science & Practice of Agriculture.
 Journal of the Marine Biological Association of the United
 Kingdom.
 Jahresbericht über die Deutsche Fischerei.
 Jahresbericht der Deutsche Seeworte.
 Journal of the Elisha Mitchell Scientific Society.
 Memoria del Instituto Espanol de Oceanographia.
 Memoria del R. Comitato Talassografico Italiano.
 Mitteilungen aus dem Zoologischen Museum in Berlin.
 Meddelanden fran kungl. Landbrukstyrelsen.
 Merentutkimuslaitoksen Julkaisu.
 Ministry of Agriculture & Fisheries-Fishery Investigations.
 Ministry of Agriculture of Fisheries-Scientific Investigations.
 Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Phila delphia.
 Proceedings of the Royal Society of Edinburgh.
 Proceedings of the Sangari River Biological Station.
 Proceedings of the Birmingham Nat. Hist. & Philosophical Society.
 The Philippine Journal of Science.
 Publicationer fra Universitet's Zoologiske Museum, Kobenhavn.
 Publications of the National Academy of Sciences, Washinton.
 Report on Norwegian Fishery of Marine Investigations.
 Records of the Indian Museum.
 Report on the Zoological Survey of India,

Report of the Department of Fisheries, Punjab.
 Reports of Scientific Fishery Institution of Moscow.
 Senckenbergiana.
 Sitzungsberichte d. preussischen Akademie d. Wissenschaften,
 Berlin.
 Sitzungsberichte d. Bayerischen Akademie d. Wissenschaften,
 München.
 Sitzungsberichte d. Naturh. Verein d. pr. Rheinal u. Westf.
 Selected Contributions from the Peking Union Medical College.
 Transactions of the Royal Society of Edinburgh.
 Transactions of the Linnæan Society of London.
 Travaux du Laboratoire Ichtyologique d' Astrakhan.
 Travaux de la Station de Recherches relatives a la Pêche maritime
 Ostende.
 A, "Tenger."
 Technological Education Series of Technological Museum, Sydney,
 University of California Publications in Zoology.
 Verhandlungen der Naturforschenden Gesellschaft in Basel.
 Verhandlungen des naturh. Vereins, pr. Rheinal, a Wests.
 Verhandlungen der Zoologisch-Botanischen Gesellschaft in Wien.
 Veröffentlichungen des Institutes für Meereskunde.
 Wissenschaftliche Meeresuntersuchungen d. Biolog. Anstalt auf
 Helgoland

Weekly News.
 Year Book of the Academy Natural Sciences of Philadelphia.

319
196

昭和三年十二月二十日印刷
昭和三年十二月二十五日發行

農林省水産講習所

東京市京橋區南鍛冶町九番地

印刷者 小張才三郎

印刷所 小張印刷所

終

